

研修開催要領等（平成30年度）

各地域で学校教育において中心的な役割を担う校長、副校長・教頭、中堅教員及び事務職員等に対する研修（学校経営研修）

1. 教職員等中央研修

第1回 校長研修	1
第2回 校長研修	3
第1回 副校長・教頭等研修	5
第2回 副校長・教頭等研修	7
第3回 副校長・教頭等研修	9
第4回 副校長・教頭等研修	11
第1回 中堅教員研修	13
第2回 中堅教員研修	15
第3回 中堅教員研修	17
第4回 中堅教員研修	19
第5回 中堅教員研修	21
第6回 中堅教員研修	23
第1回 次世代リーダー育成研修	25
第2回 次世代リーダー育成研修	27
第1回 事務職員研修	29
第2回 事務職員研修	31

各学校や地域における研修のマネジメントを推進する指導者の養成等を目的とする研修（指導者養成研修）

1. 学校組織マネジメント指導者養成研修

A日程	33
B日程	35
C日程	37
2. カリキュラム・マネジメント指導者養成研修	39
3. 生徒指導指導者養成研修	41
4. 教育相談指導者養成研修	43
5. いじめの問題に関する指導者養成研修	
中央指導者研修	45
仙台会場	47
京都会場	49
福岡会場	51

6. 外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修	
管理者用コース	53
日本語指導者用コース	55
7. 小学校における外国語教育指導者養成研修	58
8. 外国語指導助手研修	
来日直後オリエンテーション（4月期・A日程・B日程・C日程）	60
9. 英語教育海外派遣研修	64
10. 体力向上マネジメント指導者養成研修	66
11. 健康教育指導者養成研修	68
12. 食育指導者養成研修	70
13. 学校安全指導者養成研修	72
14. 言語活動指導者養成研修	74
15. 道徳教育指導者養成研修	
中央指導者研修	77
北海道・東北ブロック	79
関東・甲信越ブロック	81
東海・北陸ブロック	83
近畿ブロック	85
中国・四国ブロック	87
九州・沖縄ブロック	89
16. 学校教育の情報化指導者養成研修	91
17. 人権教育指導者養成研修	93
18. キャリア教育指導者養成研修	
第1回	95
第2回	98
19. 幼児教育指導者養成研修	101

地方公共団体からの委託等により共益的事業として実施する研修（委託研修）
--

1. 産業・情報技術等指導者養成研修	
農業：A-1（次期学習指導要領を念頭にした地域振興や地域資源の活用に資する農業教育の講義と実習）	103
工業：B-1（教科「工業」における授業改善に関する講義と演習～工業科におけるPBL実践法～）	105
商業：C-1（新高等学校学習指導要領を踏まえた教科「商業」における授業改善に関する講義と実習）	107
家庭：E-1（社会の変化に対応した衣食住、ヒューマンサービス等の生活産業に関する講義と実習）	109
看護：F-1（保健医療福祉の変化に対応した看護実践力を育成する授業に関する講義と演習）	111
情報：G-1（次期学習指導要領に対応した教科「情報」の授業改善に関する講義と実習）	113
福祉：H-1（実践的介護の知識及び技能の向上を図るための講習（教員介護知識技能講習））	115
技術・家庭（技術）：I-1（術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力の育成を目指した技術分野の指導）	117
技術・家庭（家庭）：J-1（技術・家庭科における新学習指導要領に関する講義と実習）	119
2. 産業教育実習助手研修	
教科「農業」における教科指導法及び職業指導等に関する講義と実習	121
教科「工業」及び工業科教育法に関する講義と実習	123
教科「水産」及び水産科教育法に関する講義等	125
3. 産業・理科教育教員派遣研修	127

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第1回校長研修【第431回】							
担当課	研修事業課 研修プロデュース室							
研修目的	学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる校長を育成する。							
受講対象	主として小学校・中学校の校長等 小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の校長等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者							
開催期日	平成30年6月11日（月）～平成30年6月15日（金）			5日間				
受講人数	標準定員 (計画人数)	80	人	受講者数	110	人	参加率	137.5%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,899 人、参加率 111.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	89	17	0	0	0	4	110
割合 (%)	84.0	16.0	0.0	0.0	0.0	3.6	
	106	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・校長として必要な資質・能力、「開かれた教育課程」に向けての教育の動向等を知ることができた。現場にいるとなかなか学習する時間と機会が無いが、ここでの5日間を有意義に過ごすことができた。 ・新学習指導要領の実施に向けて、校長としてじゅうぶんに理解しておかなければならない内容に関して研修できたことは、今後の学校運営に大きなプラスとなった。 ・自身の学校経営を見直すきっかけとなった。校長は孤独なところがあり、悩みや考えを共有する場がなかなかないが、全国の学校の様子や多くの校長の考え、ビジョンを聞くことができ、前向きになった。 ・リスクマネジメントについては、災害に特化することなく、人為的なミスの防止などについても扱ったほうが良い。 ・講義ばかりではなく、演習や協議など、活動が組み込まれており、主体的に参加することができた点がよかった。 ・学校組織マネジメント・学校ビジョンの構築とリーダーシップのテーマも校長研修にぴったりだったし、講義・演習の中身もよく、有意義な研修だった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主たる研修の内容を「教育政策の諸動向」、「スクール・マネジメントの理論と実践課題」、「研修プログラムの開発と実践的応用」、「校内研修の組織化」等とし、都道府県等、地域レベルの研修指導者に相応しい資質能力の充実を図った。 ・校長として保有する知識、経験を踏まえ、さらに指導者として修得すべき新たな知見の獲得を目指し、「演習」、「ワークショップ」等のアクティブ・ラーニング型研修方法を豊富に取り入れた。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長研修、事務職員研修を同時期に実施し、一部の内容を合同で行う。現在の2回開催を校種別（小、中、高・特）に3回開催する。研修の一部に教職大学院の教員を講師として招き、ブロック別に協議する機会を設定し、研修後の成果活用の改善を図る。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度 教職員等中央研修【第1回校長研修】

1日目(6/11月)	2日目(6/12火)	3日目(6/13水)	4日目(6/14木)	5日目(6/15金)
8:30~8:50 受付	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング
	休憩	休憩	休憩	休憩
9:00~10:10 オリエンテーション	9:00~12:15 (休憩:15分を含む) 講義・演習・協議	9:00~12:15 (休憩:15分を含む) 講義・演習・協議	9:00~12:15 (休憩:15分を含む) 講義・演習・協議	9:00~12:15 (休憩:15分を含む) 講義・演習・協議
10:10~10:30 開講式	学校組織マネジメント 国士館大学 教授 北神 正行	学校ビジョンの構築 とリーダーシップ 早稲田大学 教授 河村 茂雄	カリキュラム・マネジメント 千葉大学 特任教授 天笠 茂	研修プログラムの 開発と実践的应用 教職員支援機構 次世代教育推進センター長 上席フェロー 大杉 昭英
休憩				
10:45~12:15 教育政策の諸動向 文部科学省				
12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩
13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習・協議 学校と家庭、地域との連携	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 協議 学校組織マネジメント	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習・協議 リスクマネジメント	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 協議 カリキュラム・マネジメント	13:15~14:45 特別講義 教育改革実践家 藤原 和博
島根県教育庁 岩本 悠 海士町役場 濱中 香理	国士館大学 教授 北神 正行	宮城教育大学 准教授 小田 隆史	千葉大学 特任教授 天笠 茂	休憩
				15:00~15:15 閉講式
休憩	休憩	休憩	休憩	/
16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 ユニットミーティング	16:35~17:15 ユニットミーティング	

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第2回校長研修【第438回】								
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室								
研修目的	学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる校長を育成する。								
受講対象	主として高等学校・特別支援学校の校長等 小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の校長等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者								
開催期日	平成30年10月15日（月）～平成30年10月19日（金）			5日間					
受講人数	標準定員 (計画人数)	60	人	受講者数	57	人	参加率	95.0%	
開催場所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）								

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,899 人、参加率 111.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった		無回答		未回収		合計
	大変有意義	概ね有意義								
人数 (人)	48	9	0	0	0	0	0	0	57	
割合 (%)	84.2	15.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	57			100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・他都道府県の校長先生方との情報交換ができ、大変刺激になった ・一流の講師陣による貴重な話が聞けた。地方にはなかなか、こういう機会はない。 ・組織運営に係るリーダーシップのあり方の講義は、自分のこれまでの姿勢を振り返るよい時間となり、深い学びになった。 ・講義や演習など工夫された内容であった。また、班編成など、固定しない形で研修できたことは、多くの交流ができた。 ・リスクマネジメントについて、今回は自然災害にスポットがあたっていました。確かに今年の気候状況を踏まえるとタイムリーなのかもしれませんが、教員の不祥事発生、生徒の大きな事故発生などの際のリスクマネジメントについても深く学びたいと思いました。 ・チーム学校という観点からも、事務長さんと意見交換できる企画はありがたいと思った。校長のみのグループワークでは出にくい視点からの意見もあり、視野が広がった。 ・財務管理に関する研修も受講したい。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主たる研修の内容を「教育政策の諸動向」、「スクール・マネジメントの理論と実践課題」、「研修プログラムの開発と実践的応用」、「校内研修の組織化」等とし、都道府県等、地域レベルの研修指導者に相応しい資質能力の充実を図った。 ・校長として保有する知識、経験を踏まえ、さらに指導者として修得すべき新たな知見の獲得を目指し、「演習」、「ワークショップ」等のアクティブ・ラーニング型研修方法を豊富に取り入れた。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長研修、事務職員研修を同時期に実施し、一部の内容を合同で行う。現在の2回開催を校種別（小、中、高・特）に3回開催する。研修の一部に教職大学院の教員を講師として招き、ブロック別に協議する機会を設定し、研修後の成果活用の改善を図る。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度 教職員等中央研修校長研修【第2回校長研修】

1日目(10/15月)	2日目(10/16火)	3日目(10/17水)	4日目(10/18木)	5日目(10/19金)
	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング
	休憩	休憩	休憩	休憩
9:00~9:30 受付 9:30~10:10 オリエンテーション	9:00~12:15 (休憩:15分を含む) 講義・演習・協議	9:00~12:15 (休憩:15分を含む) 講義・演習・協議	9:00~12:15 (休憩:15分を含む) 講義・演習・協議	9:00~12:15 (休憩:15分を含む) 講義・演習・協議
10:10~10:30 開講式	学校組織マネジメント	学校ビジョンの構築 とリーダーシップ	カリキュラム・マネジメント	研修プログラムの 開発と実践的応用
休憩				
10:45~12:15 教育政策の諸動向 文部科学省 ※事務職員研修と合同	国士館大学 教授 北神 正行 ※事務職員研修と合同	早稲田大学 教授 河村 茂雄	千葉大学 特任教授 天笠 茂	教職員支援機構 上席フェロー 大杉 昭英
12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩
13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習・協議 学校と家庭、地域との連携	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 協議 学校組織マネジメント	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習・協議 リスクマネジメント	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 協議 カリキュラム・マネジメント	13:15~14:45 特別講義 教育改革実践家 藤原 和博 ※事務職員研修と合同
島根県教育庁 岩本 悠 島前ふるさと魅力化財団 豊田 庄吾	国士館大学 教授 北神 正行 ※事務職員研修と合同	宮城教育大学 准教授 小田 隆史	千葉大学 特任教授 天笠 茂	休憩
休憩	休憩	休憩	休憩	15:00~15:15 閉講式
16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 学校運営演習	16:45~17:15 学校運営演習	16:45~17:15 学校運営演習	/

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第1回副校長・教頭等研修【第434回】							
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室							
研 修 目 的	学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる副校長・教頭等を育成する。							
受 講 対 象	小学校・中学校・特別支援学校の副校長・教頭、指導主事等 幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の副校長・教頭、教育委員会等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 主幹教諭については、各教育委員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる							
開 催 期 日	平成30年7月30日（月）～平成30年8月10日（金）					10日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	123	人	参加率	123.0%
開 催 場 所	国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）							

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,899 人、参加率 111.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	113	10	0	0	0	0	123
割合 (%)	91.9	8.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
	123						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・日程はハードで、内容も盛りだくさんだと感じていたが、現場を離れ、学びに集中できる機会がないと、なかなか一人では習得できません。この機会を与えていただいたことに、始まってから感謝しきりの日々でした。 ・学校経営向上のためのスクールマネジメントとリーダーシップ、学校改善とリーダーシップ、実践開発とリーダーシップについては、管理職として重要な課題であり、大変参考になった。 ・現在は教頭職であるが、近い将来の校長職に向けての意識をしっかりともてるような内容であった。ビジョンを明確に打ち出せる校長になりたいとの思いを強くさせられた。 ・どうしても目の前の業務をこなすのに手一杯になり、多忙であるが、本来、3年程度のビジョンを校長とともに共有し、ローリングしながら職員モチベーション管理をしなければならないことが改めて確認することができた。 ・演習が中途半端に終わってしまった感が残る。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営力の育成、高度専門職としての資質能力の向上を目的とする研修プログラム・モデルの構築を企図し、学校経営の主要分野に関する理論の修得および「演習」、「ワークショップ」等のアクティブ・ラーニング型研修方法を豊富に取り入れた研修内容とした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革に対応し、タイムマネジメントやスタッフマネジメント等の講座を設ける。 ・スクールリーダーとしての学校の組織改善の視点に立った、主体的・協働的な協議・演習を取り入れた研修内容とする。 ・東京開催を近畿開催に変更する。近畿開催分は、スクール・コンプライアンスを試行的に実施せず、研修期間を10日間から9日間に短縮し、研修効果を検証する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度 教職員等中央研修 第1回副校長・教頭等研修

7月30日(月)	7月31日(火)	8月1日(水)	8月2日(木)	8月3日(金)
	8:45~9:00 ミーティング	8:45~9:00 ミーティング	8:45~9:00 ミーティング	8:45~9:00 ミーティング
9:00~9:30 受付	9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 教育法規 日本女子大学 教授 坂田 仰	9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 カリキュラム・マネジメント 明星大学 教授 吉富 芳正	9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 道徳教育のマネジメント 高松大学 副学長 七條 正典	9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 インクルーシブ教育シ ステムの構築 新潟大学 教授 長澤 正樹
9:30~10:10 オリエンテーション				
10:10~10:30 開講式				
休憩				
10:45~12:15 講義 教育政策の諸動向 文部科学省	日本女子大学 教授 坂田 仰	明星大学 教授 吉富 芳正	高松大学 副学長 七條 正典	新潟大学 教授 長澤 正樹
昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩
13:15~16:30 (休憩15分を含む) 講義・演習 学校組織マネジメント とリーダーシップ 中部学院大学 教授 篠原 清昭	13:15~16:30 (休憩15分を含む) 講義・演習 メンタルヘルスマネジ メント 早稲田大学 教授 河村 茂雄	13:15~16:30 (休憩15分を含む) 講義・演習 新しい学びの推進 岡山大学 教授 高旗 浩志	13:15~16:30 (休憩15分を含む) 講義・演習 人材育成とコーチング 別府大学 教授 佐藤 敬子	13:15~16:30 (休憩15分を含む) 講義・演習 防災と安全管理 文部科学省初等中等教 育局 安全教育調査官 吉門 直子
休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 学校運営演習①	16:45~17:15 学校運営演習②	16:45~17:15 学校運営演習③	16:45~17:00 学校運営演習④
8月6日(月)	8月7日(火)	8月8日(水)	8月9日(木)	8月10日(金)
8:45~9:00 ミーティング	8:45~9:00 ミーティング	8:45~9:00 ミーティング	8:45~9:30 ユニットミーティング	8:45~10:15 協議・発表 研修成果の活用
9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 チーム学校の構築 日本教育カウンセラー協会 理事 藤川 章	9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 学校ビジョンと戦略 九州大学大学院 教授 元兼 正浩	9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 リスクマネジメント 高崎経済大学 講師 飯野 真幸	休憩 9:45~12:00 (休憩:15分×1回を 含む) 演習・協議 スクールコンプライア ンス	休憩 10:30~12:00 特別講義 金沢学院大学 教授 多田 孝志
昼休憩	昼休憩	昼休憩・準備	昼休憩・準備	12:00~12:15 閉講式
13:15~16:30 (休憩15分を含む) 講義・演習 地域の教育活性化と スクールリーダー 愛媛大学 教授 露口 健司	13:15~16:30 (休憩15分を含む) 講義・演習 学校ビジョンと戦略 九州大学大学院 教授 元兼 正浩	13:30~17:15 (休憩:15分×2回を 含む) 演習・協議 スクールコンプライア ンス	13:30~17:00 (休憩:15分×2回を 含む) 演習・協議 スクールコンプライア ンス	
休憩	休憩			
16:45~17:15 学校運営演習⑤	16:45~17:15 学校運営演習⑥			

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第2回副校長・教頭等研修【第437回】								
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室								
研修目的	学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる副校長・教頭等を育成する。								
受講対象	高等学校・特別支援学校の副校長・教頭、指導主事等 幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の副校長・教頭、教育委員会等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 主幹教諭については、各教育委員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる								
開催期日	平成30年9月25日（火）～平成30年10月5日（金）			10日間					
受講人数	標準定員 (計画人数)	120	人	受講者数	126	人	参加率	105.0%	
開催場所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）								

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,899 人、参加率 111.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	112	13	0	0	0	1	126
割合 (%)	89.6	10.4	0.0	0.0	0.0	0.8	
	125						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・全国の意識の高い先生方とともに研修したことで多くの気づきがあり、自分自身の日頃の業務姿勢や自身の状況について客観的に見直すことができたように感じます。 ・様々な内容を学ぶことができ、実践にすぐにも役立つ内容が多く、大変勉強になりました。 ・具体的な実践例や本質に係る考え方を理解できたことで、自分自身ができることからまずやってみようという気持ちに変わった。現場に帰っても、研修した内容を振り返りながら実践につなげていきたい。 ・1つ1つの講義・演習が充実しており、進め方も大変よく練られた、効果的なものでした。ユニットやグループの構成や活動も非常に適切で、スムーズな研修に役立っていました。全国の先生方と交流できたのが最大の収穫でした。 ・今、学校に求められていること、今後求められるだろうことについて、丁寧に講義していただきました。学校現場に戻って、即実践に結びつけることができそうな事例も多々ご紹介いただき、大変有意義な研修になりました。 ・各講師の先生方の講義がどれもわかりやすく、全てが勉強になりました。学校に戻り、すぐに役立つ実践力が身についたと思います。また、全国から集まった仲間との交流は、今後の財産になると思います。 ・今日の教育を構成する各要素について、形式ではなく考え方の部分がよく理解できました。講師の先生はもちろん、プロデューサーの先生方に感謝します。 ・文科省・研究所・大学等の優れた専門家の講義や演習を受けることができた。また、1講座の時間も普段、我々が受ける研修と比較して十分な時間設定がなされているため、より内容の濃い講義を受けることができた。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営力の育成、高度専門職としての資質能力の向上を目的とする研修プログラム・モデルの構築を企図し、学校経営の主要分野に関する理論の修得および「演習」、「ワークショップ」等のアクティブ・ラーニング型研修方法を豊富に取り入れた研修内容とした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革に対応し、タイムマネジメントやスタッフマネジメント等の講座を設ける。 ・主体的・協働的な協議・演習を取り入れた研修内容とする。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度 教職員等中央研修 第2回副校長・教頭等研修

9月25日(火)	9月26日(水)	9月27日(木)	9月28日(金)	9月29日(土)
	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング
9:00~9:30受付 9:30~10:10 オリエンテーション	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)
10:10~10:30 開講式	講義・演習 教育法規	講義・演習 カリキュラム・マネジメント	講義・演習 道徳教育のマネジメント	講義・演習 インクルーシブ教育システムの構築
休憩				
10:45~12:15 講義 教育政策の諸動向 文部科学省	日本女子大学 教授 坂田 仰	大阪教育大学大学院 教授 田村 知子	大阪教育大学 名誉教授 藤永 芳純	新潟大学 教授 長澤 正樹
昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩
13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)
講義・演習 学校組織マネジメント とリーダーシップ	講義・演習 防災と安全管理	講義・演習 新しい学びの推進	講義・演習 人材育成とコーチング	講義・演習 メンタルヘルスマネジメント
中部学院大学 教授 篠原 清昭	塩竈市立第一中学校 校長 身崎 裕司	文部科学省 視学官 大滝 一登	別府大学 教授 佐藤 敬子	早稲田大学 教授 河村 茂雄
休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 学校運営演習①	16:45~17:15 学校運営演習②	16:45~17:15 学校運営演習③	16:45~17:15 学校運営演習④
10月1日(月)	10月2日(火)	10月3日(水)	10月4日(木)	10月5日(金)
8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~9:30 ユニットミーティング	8:30~10:00 協議・発表 研修成果の活用
9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	休憩	休憩
講義・演習 チーム学校の構築	講義・演習 学校ビジョンと戦略	講義・演習 リスクマネジメント	9:45~12:00 (休憩:15分×1回を 含む)	10:15~11:45 特別講義 学校法人角川ドワンゴ 学園N高等学校 校長 奥平 博一
国立教育政策研究所 総括研究官 藤平 敦	宮城教育大学 教授 本図 愛実	高崎経済大学 講師 飯野 真幸	演習・協議 スクールコンプライア ンス	11:45~12:00 閉講式
昼休憩	昼休憩	昼休憩・準備	昼休憩・準備	
13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:30~17:15 (休憩:15分×2回を 含む)	13:30~17:00 (休憩:15分×2回を 含む)	
講義・演習 地域の教育活性化と スクールリーダー	講義・演習 学校ビジョンと戦略	演習・協議 スクールコンプライア ンス	演習・協議 スクールコンプライア ンス	
東京学芸大学 准教授 末松 裕基	宮城教育大学 教授 本図 愛実			
休憩	休憩			
16:45~17:15 学校運営演習⑤	16:45~17:15 学校運営演習⑥		17:00~17:15 ミーティング	

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第3回副校長・教頭等研修【第440回】							
担当課	研修事業課 研修プロデュース室							
研修目的	学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる副校長・教頭等を育成する。							
受講対象	幼稚園・小学校・中学校の副校長・教頭、指導主事等 幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の副校長・教頭、教育委員会等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 主幹教諭については、各教育委員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる							
開催期日	平成30年11月5日（月）～平成30年11月16日（金）				10日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	140	人	受講者数	143	人	参加率	102.1%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,899 人、参加率 111.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	133	9	0	0	0	1	143
割合 (%)	93.7	6.3	0.0	0.0	0.0	0.7	
	142						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・一流講師による講義は分かりやすく、実践してみたいと思わせるものが多かった。 ・学校運営に必要である内容がぎゅっと詰まっており、幅広く、そして深く学ぶことができた。また、席を替えることによって、毎日いろいろな地域の先生方と交流することができたこと、一流の先生方から最新のお話を伺うことができたことが大変有意義であった。 ・教育に関する様々な情報を直接聞くことで、これまで以上に教育動向や施策について関心をもつようになった。また、全国各地から集まる受講者との対話を通じて、各県の取組の差異について触れることができた。 ・私個人の問題なのですが、今まで経験と勘で学校の教員をやってきたところがありました。中央研修に参加させていただき、それが理論としてスッキリした部分、全くわかっていなかった部分とはっきりさせることができました。地元に戻ってからもさらに研修を深めたいと思いました。また、今回学んだことを一人でも多くの教員に伝えていきたい。 ・講義については、講師の選がすばらしく、多くの内容、存在そのものが勉強になった。また、スクコン演習で文科省の先生方が大変気さくにわかりやすく説明してくださった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営力の育成、高度専門職としての資質能力の向上を目的とする研修プログラム・モデルの構築を企図し、学校経営の主要分野に関する理論の修得および「演習」、「ワークショップ」等のアクティブ・ラーニング型研修方法を豊富に取り入れた研修内容とした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革に対応し、タイムマネジメントやスタッフマネジメント等の講座を設ける。 ・主体的・協働的な協議・演習を取り入れた研修内容とする。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度 教職員等中央研修 第3回副校長・教頭等研修

11月5日(月)	11月6日(火)	11月7日(水)	11月8日(木)	11月9日(金)
	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング
9:00~9:30 受付	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)
9:30~10:10 オリエンテーション	講義・演習 新しい学びの推進	講義・演習 カリキュラム・マネジメント	講義・演習 道徳教育のマネジメント	講義・演習 インクルーシブ教育システムの構築
10:10~10:30 開講式				
休憩				
10:45~12:15 講義 教育政策の諸動向 文部科学省	十文字学園女子大学 教授 富山 哲也	大阪教育大学大学院 教授 田村 知子	大阪教育大学 名誉教授 藤永 芳純	国立特別支援教育総合研究所 上席総括研究員 星 祐子
昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩
13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)
講義・演習 学校組織マネジメント とリーダーシップ	講義・演習 防災と安全管理	講義・演習 教育法規	講義・演習 人材育成とコーチング	講義・演習 メンタルヘルスマネジメント
筑波大学大学院 教授 浜田 博文	宮城教育大学大学院 准教授 小田 隆史	日本女子大学 教授 坂田 仰	神田外語大学 客員教授 嶋崎 政男	早稲田大学 教授 河村 茂雄
休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 学校運営演習①	16:45~17:15 学校運営演習②	16:45~17:15 学校運営演習③	16:45~17:15 学校運営演習④
11月12日(月)	11月13日(火)	11月14日(水)	11月15日(木)	11月16日(金)
8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~9:30 ユニットミーティング	8:30~10:00 協議・発表 研修成果の活用
9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	休憩	休憩
講義・演習 チーム学校の構築	講義・演習 学校ビジョンと戦略	講義・演習 リスクマネジメント	9:45~12:00 (休憩:15分×1回を 含む)	
日本教育カウンセラー協会 理事 藤川 章	兵庫教育大学大学院 教授 浅野 良一	上越教育大学 准教授 辻野 けんま	演習・協議 スクールコンプライア ンス	
昼休憩	昼休憩	昼休憩・準備	昼休憩・準備	10:15~11:45 特別講義 上智大学グリーンフック研究所 所長 島蘭 進
13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:30~17:15 (休憩:15分×2回を 含む)	13:30~17:00 (休憩:15分×2回を 含む)	11:45~12:00 閉講式
講義・演習 地域の教育活性化と スクールリーダー	講義・演習 学校ビジョンと戦略	演習・協議 スクールコンプライア ンス	演習・協議 スクールコンプライア ンス	
愛媛大学 教授 露口 健司	兵庫教育大学大学院 教授 浅野 良一			
休憩	休憩			
16:45~17:15 学校運営演習⑤	16:45~17:15 学校運営演習⑥		17:00~17:15 ミーティング	

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第4回副校長・教頭等研修【第444回】							
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室							
研修目的	学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる副校長・教頭等を育成する。							
受講対象	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の副校長・教頭、指導主事等 幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の副校長・教頭、教育委員会等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 主幹教諭については、各教育委員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる							
開催期日	平成31年2月4日（月）～平成31年2月15日（金）				10日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	160	人	受講者数	166	人	参加率	103.8%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,899 人、参加率 111.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	164	1	0	0	0	1	166
割合 (%)	99.4	0.6	0.0	0.0	0.0	0.6	
	165	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・学校運営をしていく中で必要となる様々な内容について、時代のニーズにあった専門的な内容での研修を受けることができ、学ぶことができた。また、各都道府県の先生方との交流を通して新たなヒントを得るとともに自分の地域を振り返ることができた。
- ・学校を組織としてマネジメントする視点や法的根拠に基づいて学校運営を行う視点で広く知識を得たことで、新たな実践の意欲の高まりを自覚できる研修となった。
- ・教育法規、カリキュラム・マネジメント、インクルーシブ教育、学校ビジョン等、現場で必要な知識を増やすことができ、また、学校運営演習を通して、グループで考えを出し合えたことは意義深いものであったと思います。また、全国の優秀な方々と情報交換できたことも非常に有意義だった。
- ・協議や演習があり、すぐに実践につなげることができると感じたことが多かった。
- ・メンタルヘルスマネジメントや学校のビジョンと戦略の講義はとてもわかりやすく、自らが今後何をしていけばよいのかを考えやすかった。実際にあったことや講師の先生方の実践に基づいたお話は、理解しやすかった。
- ・今後取り入れて欲しい内容としては、ICT教育や外国語活動・英語など、新しく入ってきている部分や、外国人児童・生徒の教育、そしてグローバル化の中、諸外国の教育と日本の伝統文化と教育の歴史なども関心があります。
- ・小・中・高・特支と様々な校種の先生方が集まっていたことの利点もあったが、研修の内容によっては焦点がぼやける部分もあった。
- ・素晴らしい話ではあるが、テンポが速過ぎて十分に理解できない部分もあった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・学校経営力の育成、高度専門職としての資質能力の向上を目的とする研修プログラム・モデルの構築を企図し、学校経営の主要分野に関する理論の修得および「演習」、「ワークショップ」等のアクティブ・ラーニング型研修方法を豊富に取り入れた研修内容とした。

次年度に向けて

- ・働き方改革に対応し、タイムマネジメントやスタッフマネジメント等の講座を設ける。
- ・主体的・協働的な協議・演習を取り入れた研修内容とする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度 教職員等中央研修 第4回副校長・教頭等研修

2月4日(月)	2月5日(火)	2月6日(水)	2月7日(木)	2月8日(金)
	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング
9:00~9:30 受付	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)
9:30~10:10 オリエンテーション	講義・演習 教育法規 日本女子大学 教授 坂田 仰	講義・演習 カリキュラム・マネジメント 大阪教育大学大学院 教授 田村 知子	講義・演習 道徳教育のマネジメント 京都産業大学 教授 柴原 弘志	講義・演習 インクルーシブ教育シ ステムの構築 FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男
10:10~10:30 開講式				
休憩				
10:45~12:15 講義 教育政策の諸動向 文部科学省	日本女子大学 教授 坂田 仰	大阪教育大学大学院 教授 田村 知子	京都産業大学 教授 柴原 弘志	FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男
昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩
13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)
講義・演習 学校組織マネジメント とリーダーシップ 国士舘大学 教授 北神 正行	講義・演習 防災と安全管理 富谷市教育委員会 生涯学習専門指導員・相談員 麻生川 敦	講義・演習 新しい学びの推進 國學院大學 教授 田村 学	講義・演習 人材育成とコーチング 神田外語大学 客員教授 嶋崎 政男	講義・演習 メンタルヘルスマネジ メント 早稲田大学 教授 河村 茂雄
休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 学校運営演習①	16:45~17:15 学校運営演習②	16:45~17:15 学校運営演習③	16:45~17:15 学校運営演習④

2月10日(日)	2月12日(火)	2月13日(水)	2月14日(木)	2月15日(金)
8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~9:30 ユニットミーティング	8:30~10:00 協議・発表 研修成果の活用
9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	休憩	休憩
講義・演習 チーム学校の構築 国立教育政策研究所 総括研究官 藤平 敦	講義・演習 学校ビジョンと戦略 兵庫教育大学大学院 教授 浅野 良一	講義・演習 リスクマネジメント 淑徳大学 教授 黒川 雅子	9:45~12:00 (休憩:15分×1回を 含む) 演習・協議 スクールコンプライアンス	10:15~11:45 特別講義 株式会社ポリゴン 代表取締役 田中ウルヴェ京
昼休憩	昼休憩	昼休憩・準備	昼休憩・準備	11:45~12:00 閉講式
13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:30~17:15 (休憩:15分×2回を 含む)	13:30~17:00 (休憩:15分×2回を 含む)	
講義・演習 地域の教育活性化と スクールリーダー 滋賀大学 教授 大野 裕己	講義・演習 学校ビジョンと戦略 兵庫教育大学大学院 教授 浅野 良一	演習・協議 スクールコンプライアンス	演習・協議 スクールコンプライアンス	
休憩	休憩			
16:45~17:15 学校運営演習⑤	16:45~17:15 学校運営演習⑥		17:00~17:15 ミーティング	

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第1回中堅教員研修【第429回】								
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室								
研修目的	学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる中堅教員を育成する。								
受講対象	主として高等学校・特別支援学校の教諭 小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教諭・主幹教諭・指導教諭等で、今後、各地域の中核としての活躍が期待される者のうち、教職経験が概ね10～20年の者（大臣指針で示された「第二ステージ（充実・円熟期）」の成長段階を想定）								
開催期日	平成30年5月21日（月）～平成30年6月1日（金）			10日間					
受講人数	標準定員 (計画人数)	60	人	受講者数	86	人	参加率	143.3%	
開催場所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）								

※ 全体標準定員 1,700人、受講者数 1,899人、参加率 111.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	69	17	0	0	0	0	86
割合 (%)	80.2	19.8	0.0	0.0	0.0	0.0	
	86						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

・中堅教員だからこそ、より理解できる学校経営に必要な知識等を幅広い分野で学ぶことができた。（管理職の視点から学ぶことができ、学校経営に対する意識がより高まりました。）
 ・「新学習指導要領」「カリキュラム・マネジメント」「道徳教育」「チームとしての学校」「特別支援教育」等、これまではバラバラに理解しようとしていたものがつながりや関連のあるものとして見えるようになった。
 ・スクールコンプライアンスの演習は、これまで受けた他の研修ではなかったものであり、非常に勉強になった。
 ・日常では学べない裁判例を通しての法規・演習を通してマネジメントの考え方など、大いに勉強になりました。
 ・この場、この研修でなければ受講できない内容だったと思います。全てをすぐに活用することは難しいですが、自分自身にも学校にも還元できるようにしたいと思います。
 ・これまでと違う目線で、学校を見つめ直すことができた。使えそうなことや、帰って教えたいことが多々あった。まだまだ勉強不足なのが痛感できた。
 ・現場ではあまり意識しない内容について、新しい視点をもつことができた。
 中堅教員を応援する講師のエールを感じた。今後の働き方を意識し直す、きっかけとなった。
 ・全国から集まった先生方と昼夜を問わず教育に対する情熱や悩みを共有し、意見交換を行い交流が深められた。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

・学校経営の中核人材として期待される教職経験概ね10年～20年の中堅教員が、中央研修への参加がより容易になる方策として、「中堅教員研修」の研修期間を15日間から10日間に短縮するとともに、研修の実施回数を5回から6回に拡大した。

次年度に向けて

・ミドルリーダーの視点からスクールリーダーの視点へ移行し、自校をよりよい学校にリードするために必要な研修体系を構築する。
 ・スクールコンプライアンスについては、受講者が見通しを持った上で、効率的に実施するために、運営方法等を見直す。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度 教職員等中央研修 第1回中堅教員研修

5月21日(月)	5月22日(火)	5月23日(水)	5月24日(木)	5月25日(金)
	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング
9:00~9:30 受付	9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 教育法規 日本女子大学 教授 坂田 仰	9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 道徳教育のマネジメ ント 文部科学省 教育課程調査官 澤田 浩一	9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 カリキュラム・マネジメ ント 筑波大学 准教授 根津 朋実	9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 インクルーシブ教育シ ステムの構築 FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男
9:30~10:10 オリエンテーション				
10:10~10:30 開講式				
休憩				
10:45~12:15 講義 教育政策の諸動向 文部科学省				
昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩
13:15~16:30 (休憩15分を含む) 講義・演習 学校組織マネジメント 九州大学大学院 教授 元兼 正浩	13:15~16:30 (休憩15分を含む) 講義・演習 地域の教育活性化と スクールリーダー 滋賀大学 教授 大野 裕己	13:15~16:30 (休憩15分を含む) 講義・演習 メンタルヘルス・マネジ メント 明治大学 教授 諸富 祥彦	13:15~16:30 (休憩15分を含む) 講義・演習 新しい学びの推進 岡山大学 教授 高旗 浩志	13:15~16:30 (休憩15分を含む) 講義・演習 組織作りとコーチング 株式会社 燦 代表取締役 西村 雅司
休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 学校運営演習①	16:45~17:15 学校運営演習②	16:45~17:15 学校運営演習③	16:45~17:15 学校運営演習④
5月28日(月)	5月29日(火)	5月30日(水)	5月31日(木)	6月1日(金)
8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~9:30 ユニットミーティング	8:30~8:45 ミーティング
9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 生徒指導のマネジメ ント 鹿児島国際大学 教授 大坪 治彦	9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 マネジメントの実践 茨城大学大学院 准教授 加藤 崇英	9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 リスクマネジメント 鳴門教育大学 教授 阪根 健二	9:00~12:15 (休憩15分を含む) 休憩 9:45~12:00 (休憩:15分×1回を 含む) 演習・協議 スクールコンプライア ンス	9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 研修成果の活用 山口大学 教授 霜川 正幸
昼休憩	昼休憩	昼休憩・準備	昼休憩・準備	昼休憩
13:15~16:30 (休憩15分を含む) 講義・演習 防災と安全管理 宮城教育大学大学院 准教授 小田 隆史	13:15~16:30 (休憩15分を含む) 講義・演習 マネジメントの実践 茨城大学大学院 准教授 加藤 崇英	13:30~17:15 (休憩:15分×2回を 含む) 演習・協議 スクールコンプライア ンス	13:30~17:00 (休憩:15分×2回を 含む) 演習・協議 スクールコンプライア ンス	13:15~14:45 特別講義 「リーダーシップ」 株式会社イマージェンス 代表取締役社長 桑畑 英紀
休憩	休憩			休憩
16:45~17:15 学校運営演習⑤	16:45~17:15 学校運営演習⑥		17:00~17:15 ミーティング	15:00~15:15 閉講式

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第2回中堅教員研修【第432回】						
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室						
研修目的	学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる中堅教員を育成する。						
受講対象	主として小学校・中学校の教諭 小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教諭・主幹教諭・指導教諭等で、今後、各地域の中核としての活躍が期待される者のうち、教職経験が概ね10～20年の者（大臣指針で示された「第二ステージ（充実・円熟期）」の成長段階を想定）						
開催期日	平成30年6月18日（月）～平成30年6月29日（金）				10日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	60	人	受講者数	40	参加率	66.7%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,899 人、参加率 111.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	39	1	0	0	0	0	40
割合 (%)	97.5	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	
	40	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・一流の講師陣による講義・演習であったとともに、実践をたくさん積んできた講師であるため、内容がわかりやすく、説得力があった。 ・喫緊の課題が多く、ミドルリーダーとしてこれからどう取り組まなければならないかという方向性を導きだしてくれる内容であった。 ・講義のみならず演習を取り入れた講座が多く、とてもよかった。 ・マネジメントが中心の講座内容であったが、その意義や必要性を感じることができてよかった。 ・講義内容が重なっていた。 ・学校運営演習とスクールコンプライアンスについては、運営・時間配分を考えられるとよい。 ・他グループの先生ともグループになる機会があればよかった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営の中核人材として期待される教職経験概ね10年～20年の中堅教員が、中央研修への参加がより容易になる方策として、「中堅教員研修」の研修期間を15日間から10日間に短縮するとともに、研修の実施回数を5回から6回に拡大した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミドルリーダーの視点からスクールリーダーの視点へ移行し、自校をよりよい学校にリードするために必要な研修体系を構築する。 ・スクールコンプライアンスについては、受講者が見通しを持った上で、効率的に実施するために、運営方法等を見直す。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度 教職員等中央研修 第2回中堅教員研修

6月18日(月)	6月19日(火)	6月20日(水)	6月21日(木)	6月22日(金)
	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング
9:00~9:30 受付	9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 教育法規 日本女子大学 教授 坂田 仰	9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 カリキュラム・マネジメント 奈良教育大学 教授 赤沢 早人	9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 道徳教育のマネジメント 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸	9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 インクルーシブ教育システム の構築 FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男
9:30~10:10 オリエンテーション				
10:10~10:30 開講式				
休憩				
10:45~12:15 講義 教育政策の諸動向 文部科学省				
昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩
13:15~16:30 (休憩15分を含む) 講義・演習 学校組織マネジメント 宮城教育大学大学院 教授 本図 愛実	13:15~16:30 (休憩15分を含む) 講義・演習 地域の教育活性化と スクールリーダー 滋賀大学 教授 大野 裕己	13:15~16:30 (休憩15分を含む) 講義・演習 新しい学びの推進 信州大学 教授 伏木 久始	13:15~16:30 (休憩15分を含む) 講義・演習 メンタルヘルスマネジメント 明治大学 教授 諸富 祥彦	13:15~16:30 (休憩15分を含む) 講義・演習 組織作りとコーチング 東京聖栄大学 教授 有村 久春
休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 学校運営演習①	16:45~17:15 学校運営演習②	16:45~17:15 学校運営演習③	16:45~17:15 学校運営演習④
6月25日(月)	6月26日(火)	6月27日(水)	6月28日(木)	6月29日(金)
8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~9:30 ユニットミーティング	8:30~8:45 ミーティング
9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 生徒指導のマネジメント 愛媛大学 教授 平松 義樹	9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 マネジメントの実践 群馬大学 准教授 高橋 望	9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 リスクマネジメント 鳴門教育大学 教授 阪根 健二	休憩 9:45~12:00 (休憩:15分×1回を 含む) 演習・協議 スクールコンプライア ンス	9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 研修成果の活用 山口大学 教授 霜川 正幸
昼休憩	昼休憩	昼休憩・準備	昼休憩・準備	昼休憩
13:15~16:30 (休憩15分を含む) 講義・演習 防災と安全管理 文部科学省 安全教育調査官 吉門 直子	13:15~16:30 (休憩15分を含む) 講義・演習 マネジメントの実践 群馬大学 准教授 高橋 望	13:30~17:15 (休憩:15分×2回を 含む) 演習・協議 スクールコンプライア ンス	13:30~17:00 (休憩:15分×2回を 含む) 演習・協議 スクールコンプライア ンス	13:15~14:45 特別講義 「リーダーシップ」 株式会社Indigo Blue 代表取締役会長 柴田励司
休憩	休憩			休憩
16:45~17:15 学校運営演習⑤	16:45~17:15 学校運営演習⑥		17:00~17:15 ミーティング	15:00~15:15 閉講式

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第3回中堅教員研修【第433回】								
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室								
研修目的	学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる中堅教員を育成する。								
受講対象	主として小学校の教諭 小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教諭・主幹教諭・指導教諭等で、今後、各地域の中核としての活躍が期待される者のうち、教職経験が概ね10～20年の者（大臣指針で示された「第二ステージ（充実・円熟期）」の成長段階を想定）								
開催期日	平成30年7月23日（月）～平成30年8月3日（金）			10日間					
受講人数	標準定員 (計画人数)	200	人	受講者数	220	人	参加率	110.0%	
開催場所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）								

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,899 人、参加率 111.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	193	22	0	0	1	4	220
割合 (%)	89.8	10.2	0.0	0.0	0.5	1.8	
	215						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・全国の同じような立場の先生方と出会い、悩みや教育実践を出し合い、講師の先生方からこれからの教育で必要なことをお聞きし、深く学ぶ機会となった。 ・著名な講師の先生からそれぞれの専門分野について事例を交えながら講義いただき、それを使った演習も取り入れることによって、知識だけではなく、実践力も高めることができた。 ・自分が管理職に就いた場合、何をどのように見ていけばよいかを具体的に知ることができたので、とても有意義でした。 ・「教師は人間関係のプロでなければならない」という言葉が、この中央研修の大きなテーマであり、収穫だったと思った。また、リーダー育成、学校の経営者として大切な資質を学ぶための研修だったと思います。 ・教職のライフステージの今の自分、そして次の自分に求められる力について、示唆をいただける内容の研修が充実していた。 ・カリキュラム・マネジメント（外国語・道徳含）について具体的に演習したかった。 ・新しい学びの推進では、もう少し主体的・対話的で深い学びについて詳しく学びたかった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営の中核人材として期待される教職経験概ね10年～20年の中堅教員が、中央研修への参加がより容易になる方策として、「中堅教員研修」の研修期間を15日間から10日間に短縮するとともに、研修の実施回数を5回から6回に拡大した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミドルリーダーの視点からスクールリーダーの視点へ移行し、自校をよりよい学校にリードするために必要な研修体系を構築する。 ・スクールコンプライアンスについては、受講者が見通しを持った上で、効率的に実施するために、運営方法等を見直す。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度 教職員等中央研修 第3回中堅教員研修

7月23日(月)	7月24日(火)	7月25日(水)	7月26日(木)	7月27日(金)
	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング
9:00~9:30 受付	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)
9:30~10:10 オリエンテーション	講義・演習 メンタルヘルスマネジメント	講義・演習 カリキュラム・マネジメント	講義・演習 道徳教育のマネジメント	講義・演習 インクルーシブ教育システムの構築
10:10~10:30 開講式				
休憩				
10:45~12:15 講義 教育政策の諸動向 文部科学省	明治大学 教授 諸富 祥彦	筑波大学 准教授 根津 朋実	香川大学大学院 教授 植田 和也	新潟大学 教授 長澤 正樹
昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩
13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)
講義・演習 学校組織マネジメント	講義・演習 教育法規	講義・演習 新しい学びの推進	講義・演習 地域の教育活性化と スクールリーダー	講義・演習 組織作りとコーチング
広島大学 教授 曾余田 浩史	清水法律事務所 弁護士 清水 幹裕	信州大学 教授 伏木 久始	東京学芸大学 准教授 末松 裕基	東京聖栄大学 教授 有村 久春
休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 学校運営演習①	16:45~17:15 学校運営演習②	16:45~17:15 学校運営演習③	16:45~17:15 学校運営演習④
7月30日(月)	7月31日(火)	8月1日(水)	8月2日(木)	8月3日(金)
8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~9:30 ユニットミーティング	8:30~8:45 ミーティング
9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	休憩	9:00~10:30 特別講義「リーターナツプ」 岐阜聖徳学園大学 教授 玉置 崇
講義・演習 生徒指導のマネジメント 国立教育政策研究所 総括研究官 藤平 敦	講義・演習 マネジメントの実践 茨城大学大学院 准教授 加藤 崇英	講義・演習 リスクマネジメント 淑徳大学 教授 黒川 雅子	9:45~12:00 (休憩:15分×1回を 含む)	休憩
			演習・協議 スクールコンプライア ンス	
昼休憩	昼休憩	昼休憩・準備	昼休憩・準備	10:45~14:45 (昼休憩60分を含む)
13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:30~17:15 (休憩:15分×2回を 含む)	13:30~17:00 (休憩:15分×2回を 含む)	講義・演習 研修成果の活用
講義・演習 防災と安全管理	講義・演習 マネジメントの実践	演習・協議 スクールコンプライア ンス	演習・協議 スクールコンプライア ンス	山口大学 教授 霜川 正幸
塩竈市立第一中学校 校長 身崎 裕司	茨城大学大学院 准教授 加藤 崇英			休憩
休憩	休憩			15:00~15:15 閉講式
16:45~17:15 学校運営演習⑤	16:45~17:15 学校運営演習⑥		17:00~17:15 ミーティング	

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第4回中堅教員研修【第436回】								
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室								
研修目的	学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる中堅教員を育成する。								
受講対象	主として中学校の教諭 小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教諭・主幹教諭・指導教諭等で、今後、各地域の中核としての活躍が期待される者のうち、教職経験が概ね10～20年の者（大臣指針で示された「第二ステージ（充実・円熟期）」の成長段階を想定）								
開催期日	平成30年8月13日（月）～平成30年8月24日（金）			10日間					
受講人数	標準定員 (計画人数)	180	人	受講者数	172	人	参加率	95.6%	
開催場所	独立行政法人教職員支援機構つくば中央研修センター（茨城県つくば市）								

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,899 人、参加率 111.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	153	18	0	0	0	1	172
割合 (%)	89.5	10.5	0.0	0.0	0.0	0.6	
	171						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・近年の学校に関する諸問題、どう学校を守るのかということが深く学べた。また、若い教員が増えつつある今、ミドルリーダーとしてどう学校経営をサポートするのか、将来リーダーとしてどう学校を運営すべきなのか、見えてきた。 ・専門的な知識を学べ、意見を交わすことで中堅教員としてどうあるべきかを考えることができた。演習を多く行うことで、実際にどうなるのか、学校ではどう実践していけばよいのか考えることができた。また、全国に仲間ができて、貴重な2週間であった。 ・組織マネジメント、コーチング、メンタルヘルス、そして何よりスクールコンプライアンス。管理職と一般職員の架け橋として、法令の学び、危機管理など、この研修で学べたことをしっかりと活かしていけるよう、努めていきたい。 ・一部の講義で内容が重複していたような気がする（8/16カリキュラム・マネジメントと8/21マネジメントの実践など） ・「スクールマネジメント」「学校改善」「実践開発」と分かれていたが、その関連性をあまり意識せず臨んだので、その辺りも事前にもう少しきちんと伝えていただければありがたいかもしれません。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営の中核人材として期待される教職経験概ね10年～20年の中堅教員が、中央研修への参加がより容易になる方策として、「中堅教員研修」の研修期間を15日間から10日間に短縮するとともに、研修の実施回数を5回から6回に拡大した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミドルリーダーの視点からスクールリーダーの視点へ移行し、自校をよりよい学校にリードするために必要な研修体系を構築する。 ・スクールコンプライアンスについては、受講者が見通しを持った上で、効率的に実施するために、運営方法等を見直す。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度 教職員等中央研修 第4回中堅教員研修

8月13日(月)	8月14日(火)	8月15日(水)	8月16日(木)	8月17日(金)
	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング
9:00~9:30 受付	9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 教育法規 学習院女子大学 教授 大桃 敏行	9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 道徳教育のマネジメント 京都産業大学 教授 柴原 弘志	9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 カリキュラム・マネジメント 明星大学 教授 吉富 芳正	9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 インクルーシブ教育システムの構築 新潟大学 教授 長澤 正樹
9:30~10:10 オリエンテーション				
10:10~10:30 開講式				
休憩				
10:45~12:15 講義 教育政策の諸動向 文部科学省				
昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩
13:15~16:30 (休憩15分を含む) 講義・演習 学校組織マネジメント 広島大学 教授 曾余田 浩史	13:15~16:30 (休憩15分を含む) 講義・演習 地域の教育活性化と スクールリーダー 滋賀大学 教授 大野 裕己	13:15~16:30 (休憩15分を含む) 講義・演習 メンタルヘルスマネジ メント 明治大学 教授 諸富 祥彦	13:15~16:30 (休憩15分を含む) 講義・演習 新しい学びの推進 岡山大学 教授 高旗 浩志	13:15~16:30 (休憩15分を含む) 講義・演習 組織作りとコーチング 株式会社エムディー 代表取締役 椎名 規夫
休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 学校運営演習①	16:45~17:15 学校運営演習②	16:45~17:15 学校運営演習③	16:45~17:15 学校運営演習④
8月20日(月)	8月21日(火)	8月22日(水)	8月23日(木)	8月24日(金)
8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~9:30 ユニットミーティング	8:30~8:45 ミーティング
9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 生徒指導のマネジメン ト 文教大学 教授 松田 素行	9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 マネジメントの実践 群馬大学 准教授 高橋 望	9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 リスクマネジメント 淑徳大学 教授 黒川 雅子	休憩 9:45~12:00 (休憩:15分×1回を 含む) 演習・協議 スクールコンプライア ンス	9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 研修成果の活用 山口大学 教授 霜川 正幸
昼休憩	昼休憩	昼休憩・準備	昼休憩・準備	昼休憩
13:15~16:30 (休憩15分を含む) 講義・演習 防災と安全管理 富谷市立東向陽台小学校 校長 麻生川 敦	13:15~16:30 (休憩15分を含む) 講義・演習 マネジメントの実践 群馬大学 准教授 高橋 望	13:30~17:15 (休憩:15分×2回を 含む) 演習・協議 スクールコンプライア ンス	13:30~17:00 (休憩:15分×2回を 含む) 演習・協議 スクールコンプライア ンス	13:15~14:45 特別講義 「リーダーシップ」 株式会社イマージェンス 代表取締役社長 桑畑英紀
休憩	休憩			休憩
16:45~17:15 学校運営演習⑤	16:45~17:15 学校運営演習⑥		17:00~17:15 ミーティング	15:00~15:15 閉講式

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第5回中堅教員研修【第441回】								
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室								
研修目的	学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる中堅教員を育成する。								
受講対象	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭 小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教諭・主幹教諭・指導教諭等で、今後、各地域の中核としての活躍が期待される者のうち、教職経験が概ね10～20年の者（大臣指針で示された「第二ステージ（充実・円熟期）」の成長段階を想定）								
開催期日	平成30年11月19日（月）～平成30年11月30日（金）			15日間					
受講人数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	162	人	参加率	162.0%	
開催場所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）								

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,899 人、参加率 111.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	153	9	0	0	0	0	162
割合 (%)	94.4	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	
	162						100.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・現在の自身の課題についての気づきやその解決に向けての方向性を示していただける内容が多く、学んだ実感があった。また、社会や教育を取り巻く環境を冷静に見つめることもでき、学校や教育が果たす役割を客観的に見れたことも大きな収穫だった。 ・1つ1つの講義の内容はもちろん、先に受けた講義の内容が後の講義の内容につながり、様々なことを総合的に考えることで、自分の考えがどんどんブラッシュアップされていくことが実感できた。さらにそれを朝のミーティングや協議、夜の雑談などでアウトプットすることができ、自分の考えをより明確にすることができた。 ・現在、主幹教諭の立場であるが、自分が今学校においてどのような役割を果たしていくべきか、具体的に学ぶことができた。今後は校長の教育ビジョンを実現するために、今まで以上に学校の教育活動に関わっていきたい。また、全国の様々な校種の先生と触れ合い、情報交換できたことも大変有意義に感じた。 ・スクールコンプライアンスについては、どのように進めるのかということが講師の方によって違うということもあり、どのようにしたらよいのか不安が大きかった。 ・特別支援教育について、インクルーシブ教育や合理的配慮についての具体を学ぶ内容（実践的なもの、発達障害、LDに関わるものなど）があるとよい。 ・今回の研修のように膨大な情報を一気に詰め込むのもいいが、全国の先生方とアウトプットし、何か創り出したり、アイデアを結集させるようなことができればよかった。 ・適度な演習が良かった。逆にもっと準備をして下さいというの必要。やはり主体的にやらないと、身に付かない。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営の中核人材として期待される教職経験概ね10年～20年の中堅教員が、中央研修への参加がより容易になる方策として、「中堅教員研修」の研修期間を15日間から10日間に短縮するとともに、研修の実施回数を5回から6回に拡大した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミドルリーダーの視点からスクールリーダーの視点へ移行し、自校をよりよい学校にリードするために必要な研修体系を構築する。 ・スクールコンプライアンスについては、受講者が見通しを持った上で、効率的に実施するために、運営方法等を見直す。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度 教職員等中央研修 第5回中堅教員研修

11月19日(月)	11月20日(火)	11月21日(水)	11月22日(木)	11月24日(土)
	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング
9:00~9:30受付 9:30~10:10 オリエンテーション	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)
10:10~10:30 開講式	講義・演習 教育法規	講義・演習 カリキュラム・マネジメント	講義・演習 道徳教育のマネジメント	講義・演習 インクルーシブ教育システムの構築
休憩				
10:45~12:15 講義 教育政策の諸動向 文部科学省	日本女子大学 教授 坂田 仰	奈良教育大学 准教授 赤沢 早人	畿央大学 教授 島 恒生 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正	国立特別支援教育政策研究所 上席総括研究員 星 祐子
昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩
13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)
講義・演習 学校組織マネジメント 九州大学大学院 教授 元兼 正浩	講義・演習 地域の教育活性化と スクールリーダー 愛媛大学 教授 露口 健司	講義・演習 新しい学びの推進 信州大学 教授 伏木 久始	講義・演習 メンタルヘルスマネジメント 明治大学 教授 諸富 祥彦	講義・演習 組織作りとコーチング シナジープラス 三宅 裕之
休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 学校運営演習①	16:45~17:15 学校運営演習②	16:45~17:15 学校運営演習③	16:45~17:15 学校運営演習④
11月26日(月)	11月27日(火)	11月28日(水)	11月29日(木)	11月30日(金)
8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~9:30 ユニットミーティング	8:30~8:45 ミーティング
9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	休憩 9:45~12:00 (休憩:15分×1回を 含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)
講義・演習 生徒指導のマネジメント 鹿児島国際大学 教授 大坪 治彦	講義・演習 マネジメントの実践 兵庫教育大学 教授 浅野 良一	講義・演習 リスクマネジメント 大阪市立大学 准教授 辻野 けんま	演習・協議 スクールコンプライア ンス	講義・演習 研修成果の活用 山口大学 教授 霜川 正幸
昼休憩	昼休憩	昼休憩・準備	昼休憩・準備	昼休憩
13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:30~17:15 (休憩:15分×2回を 含む)	13:30~17:00 (休憩:15分×2回を 含む)	13:15~14:45 特別講義「リーダーシップ」 株式会社Indigo Blue 代表取締役会長 柴田 励司
講義・演習 防災と安全管理 富谷市立東向陽台小学校 校長 麻生川 敦	講義・演習 マネジメントの実践 兵庫教育大学 教授 浅野 良一	演習・協議 スクールコンプライア ンス	演習・協議 スクールコンプライア ンス	休憩
休憩	休憩			15:00~15:15 閉講式
16:45~17:15 学校運営演習⑤	16:45~17:15 学校運営演習⑥		17:00~17:15 ミーティング	

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第6回中堅教員研修【第443回】								
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室								
研修目的	学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる中堅教員を育成する。								
受講対象	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭 小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教諭・主幹教諭・指導教諭等で、今後、各地域の中核としての活躍が期待される者のうち、教職経験が概ね10～20年の者（大臣指針で示された「第二ステージ（充実・円熟期）」の成長段階を想定）								
開催期日	平成31年1月15日（火）～平成31年1月25日（金）			10日間					
受講人数	標準定員 (計画人数)	60	人	受講者数	52	人	参加率	86.7%	
開催場所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）								

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,899 人、参加率 111.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	49	3	0	0	0	0	52
割合 (%)	94.2	5.8	0.0	0.0	0.0	0.0	
	52						100.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・素晴らしい講師の方の話を毎日聴くことで、深く学ぶことができた。県レベルの研修で、これほど有名な方の講習をこれほど数多く受講することは不可能だと思う。 ・他の地域から来る先生方と出会えて、各地域や他校種の学校の生の情報を知ることができた。たった2週間でしたが、素晴らしい仲間に出会うことができた。 ・10日間という研修でしたが、最新の情報を凝縮して教えて頂き、本校と本地域の課題と照らし合わせて考えることができた。 ・現在の教育行政・喫緊課題・我々ミドルリーダーの役割と方向性等、濃い内容で、集中して、しばし、日頃の業務から離れて学ばせて頂いたことは大変有意義でした。 ・これからの日本の教育がどのような形を目指していくのか、分野ごとに専門的な多くの知識を得ることができた。知識も増え、視野も広がり、現場で頑張ろうという意欲が高まった。 ・警察に携わってこられた方、弁護士、民間の方、研究所の方など、学校外の多様な講師の方に幅広く様々な捉え方や具体的なことなど、多くの情報を頂くことができた。 ・講師の方々に毎時間充実した講義・演習をしていただき、学びの多い毎日でした。また、全国の先生方と情報交換・交流をする機会が大変貴重でした。これから学校に戻って、ミドルリーダーとしての役割を自覚しつつ、学校経営に積極的に参加していこうと思います。そのための武器をたくさん得ることができ、大変有意義でした。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営の中核人材として期待される教職経験概ね10年～20年の中堅教員が、中央研修への参加がより容易になる方策として、「中堅教員研修」の研修期間を15日間から10日間に短縮するとともに、研修の実施回数を5回から6回に拡大した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミドルリーダーの視点からスクールリーダーの視点へ移行し、自校をよりよい学校にリードするために必要な研修体系を構築する。 ・スクールコンプライアンスについては、受講者が見通しを持った上で、効率的に実施するために、運営方法等を見直す。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度 教職員等中央研修 第6回中堅教員研修

1月15日(火)	1月16日(水)	1月17日(木)	1月18日(金)	1月19日(土)
	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング
9:00~9:30 受付	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)
9:30~10:10 オリエンテーション	講義・演習 教育法規 清水法律事務所 弁護士 清水 幹裕	講義・演習 道徳教育のマネジメント 畿央大学 教授 島 恒生 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸	講義・演習 カリキュラム・マネジメント 甲南女子大学 教授 村川 雅弘	講義・演習 インクルーシブ教育システムの構築 FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男
10:10~10:30 開講式				
休憩				
10:45~12:15 講義 教育政策の諸動向 文部科学省	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)
昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩
13:15~16:30 (休憩15分を含む)	講義・演習 地域の教育活性化と スクールリーダー 愛媛大学 教授 露口 健司	講義・演習 メンタルヘルスマネジメント 明治大学 教授 諸富 祥彦	講義・演習 新しい学びの推進 國學院大學 教授 田村 学	講義・演習 組織作りとコーチング 株式会社エムディー 代表取締役 椎名 規夫
講義・演習 学校組織マネジメント 国士舘大学 教授 北神 正行	休憩	休憩	休憩	休憩
16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 学校運営演習①	16:45~17:15 学校運営演習②	16:45~17:15 学校運営演習③	16:45~17:15 学校運営演習④
1月21日(月)	1月22日(火)	1月23日(水)	1月24日(木)	1月25日(金)
8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~9:30 ユニットミーティング	8:30~8:45 ミーティング
9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	休憩	9:00~12:15 (休憩15分を含む)
講義・演習 生徒指導のマネジメント 文教大学 教授 松田 素行	講義・演習 マネジメントの実践 兵庫教育大学大学院 教授 浅野 良一	講義・演習 リスクマネジメント 大阪市立大学 准教授 辻野 けんま	9:45~12:00 (休憩:15分×1回を 含む) 演習・協議 スクールコンプライア ンス	講義・演習 研修成果の活用 山口大学 教授 霜川 正幸
昼休憩	昼休憩	昼休憩・準備	昼休憩・準備	昼休憩
13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:30~17:15 (休憩:15分×2回を 含む)	13:30~17:00 (休憩:15分×2回を 含む)	13:15~14:45 特別講義 「リーダーシップ」 岐阜聖徳学園大学 教授 玉置 崇
講義・演習 防災と安全管理 文部科学省 安全教育調査官 吉門 直子	講義・演習 マネジメントの実践 兵庫教育大学大学院 教授 浅野 良一	演習・協議 スクールコンプライア ンス	演習・協議 スクールコンプライア ンス	休憩
休憩	休憩			15:00~15:15 閉講式
16:45~17:15 学校運営演習⑤	16:45~17:15 学校運営演習⑥		17:00~17:15 ミーティング	

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第1回次世代リーダー育成研修【第435回】							
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室							
研 修 目 的	学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる次世代リーダーを育成する。							
受 講 対 象	小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教諭・主幹教諭・指導教諭等で、今後、各地域の中核としての活躍が期待される者のうち、教職経験が概ね10年前後の者（30代の若手教員を想定）							
開 催 期 日	平成30年8月6日（月）～平成30年8月10日（金）				5日間			
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	60	人	受講者数	106	人	参加率	176.7%
開 催 場 所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,899 人、参加率 111.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	92	13	0	0	0	1	106
割合 (%)	87.6	12.4	0.0	0.0	0.0	0.9	
	105						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・全国から来られた各県の先生方と一緒に研修を受けることができ、とても刺激を受けました。意見を交流する場面も多くあり、自分自身がどのぐらい理解し、他の先生方がどのような考えを持たれているのかを知ることができとても良かったです。 ・次世代リーダーの役割、責務等について漠然と不透明な理解しかしていなかったが、明確化され、これからの実践に見通しがもてた。ミドルリーダーとしての自覚が高まり、研修で得たことを帰校して実践したいと思った。 ・同世代の各都道府県の先生方の取組を研修中のグループワークで知ることができて刺激を受けました。また、今の自分の立ち位置をゆっくりと見つめ、今後自分には何ができるのかを考えられました。 ・研修1日目にグループで考えて、模造紙にまとめたことや各講義の先生方が説明して下さったことが、一本の線でつながる場面が複数あり、理解が深まりました。 ・今までの知識や経験が講義を受けることで批判的に見ることができた。自分の取組をここで得た内容のフィルターを通し、マネジメントを行い、積極的に参画したいと思った。何より、本県本地域ではミドルリーダー層が異常に少ないので、全国の同年代との交流が非常に刺激的なものとなった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ (新規事業)</p>
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象となる教職経験概ね10年前後の教諭は、日々の教育実践をより効果的に推進することが求められることを踏まえ、「道徳教育」「生徒指導」「インクルーシブ教育」に関する講座を新設する。また、早期のミドルリーダーを育成するニーズへの対応から、3ユニットから4ユニットへ、ユニット数の増を図る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

**平成30年度 教職員等中央研修
第1回次世代リーダー育成研修**

1日目(8/6月)	2日目(8/7火)	3日目(8/8水)	4日目(8/9木)	5日目(8/10金)
	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング
	休憩	休憩	休憩	休憩
9:00~9:30 受付	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)
9:30~10:10 オリエンテーション	講義・演習・協議	講義・演習・協議	講義・演習・協議	講義・演習・協議
10:10~10:30 開講式	学校組織マネジメント	学校改善と学校評価	カリキュラム・マネジメント	校内研修プログラムの開発
休憩				
10:45~12:15 教育政策の諸動向 文部科学省	群馬大学 准教授 高橋 望	筑波大学 教授 浜田 博文	奈良教育大学 教授 赤沢 早人	山口大学 教授 長友 義彦
12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩
13:15~15:15 講義・演習 校内研修の推進 教職員支援機構	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習・協議 ミドルリーダーの役割	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習・協議 学校と家庭、地域との連携	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習・協議 新しい学びの推進	13:15~14:45 特別講義 株式会社上司の魔法 代表取締役 黒岩 禪
休憩	日本教育カウンセラー協会理事 東京教育カウンセラー協会代表	島根大学教職大学院 中村 怜詞	岡山大学 教授 高旗 浩志	休憩
15:30~16:30 演習・協議 校内研修の推進 教職員支援機構	代表 藤川 章	島前ふるさと魅力化財団 大野 佳祐		15:00~15:15 閉講式
休憩	休憩	休憩	休憩	
16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 ユニットミーティング	

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第2回次世代リーダー育成研修【第442回】							
担当課	研修事業課 研修プロデュース室							
研修目的	学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる次世代リーダーを育成する。							
受講対象	小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教諭・主幹教諭・指導教諭等で、今後、各地域の中核としての活躍が期待される者のうち、教職経験が概ね10年前後の者（30代の若手教員を想定）							
開催期日	平成30年12月10日（月）～平成30年12月14日（金）			5日間				
受講人数	標準定員 (計画人数)	60	人	受講者数	46	人	参加率	76.7%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,899 人、参加率 111.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	43	3	0	0	0	0	46
割合 (%)	93.5	6.5	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	46						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・今まで感覚的に捉えていたことについて、理論的な背景や、国としての取り組み方などを学ぶことができ、自分が行っていたことについて肯定的に捉えること、見直さなければならないことなどが明確になった。また、現在のライフステージで求められる立場というものを改めて知り、学校においてどのように経営に関わっていくのかという視点を得ることができた。 ・学校の運営等に関しては、正直考えたことは殆どありませんでした。今回の研修で様々な側面から学ぶことができたことは大変有意義でした。とはいえ、管理職でもない立場で、学校を変えるのは容易ではないと思います。そこで、本研修で学んだように、ミドル世代として、仲間を巻き込み、小さなところから動きを起こしていけるようにしたいと思います。 ・刺激を受け、自分を振り返ることができました。今後勉強していくこと、学んでいくことが見えてきました。 ・指導要領や教科に関する研修のイメージが強かったが、次世代リーダー育成研修の意味が理解できた。こうしたい、あれは変？、変えたいと何気なく思って行動していたことを、自分の教材研究にとどまらず、後進たちのためにするべきなんだと強く思えた。 ・自分自身が、特にこれまで何の経験もないままできたので、今回の研修にはもっと将来有望な方が来ればよかったのではないかと、という思いがずっとありました。研修を受ける方の基準をもっと絞った方がよいのではないのでしょうか？ ・特別支援教育などがあってもよかったと思います。 ・他校種と同じ研修を受ける機会は少ないため、全体としては良かった。ただ、1つ1つの内容にも、小・中・高を盛り込まなければならず、講義が中途半端になってしまったりということがあったので、中には、校種ごとの研修日があってもよかったのではないかと考えた。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ (新規事業)</p> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象となる教職経験概ね10年前後の教諭は、日々の教育実践をより効果的に推進することが求められることを踏まえ、「道徳教育」「生徒指導」「インクルーシブ教育」に関する講座を新設する。また、早期のミドルリーダーを育成するニーズへの対応から、3ユニットから4ユニットへ、ユニット数の増を図る。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度 教職員等中央研修【第2回次世代リーダー育成研修】

1日目(12/10月)	2日目(12/11火)	3日目(12/12水)	4日目(12/13木)	5日目(12/14金)
	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング
	休憩	休憩	休憩	休憩
9:00~9:30 受付	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)
9:30~10:10 オリエンテーション	講義・演習・協議	講義・演習・協議	講義・演習・協議	講義・演習・協議
10:10~10:30 開講式	学校組織マネジメント	学校改善と学校評価	カリキュラム・マネジメント	校内研修プログラムの開発
休憩				
10:45~12:15 教育政策の諸動向 文部科学省	兵庫教育大学 教授 浅野 良一	滋賀大学 教授 大野 裕己	甲南女子大学 教授 村川 雅弘	山口大学 教授 長友 義彦
12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩
13:15~15:15 講義・演習 校内研修の推進 教職員支援機構	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習・協議 ミドルリーダーの役割	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習・協議 学校と家庭、地域との連携	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習・協議 新しい学びの推進	13:15~14:45 特別講義 株式会社佐々木常夫マ ネージメント・リサーチ 代表取締役 佐々木常夫
休憩	日本教育カウンセラー協会	島根大学教職大学院 中村 怜詞	國學院大學 教授 田村 学	休憩
15:30~16:30 演習・協議 校内研修の推進 (ユニットミーティング) 教職員支援機構	理事 藤川 章	島根県立隠岐島前高等学校 岡本 敏明		15:00~15:15 閉講式
休憩	休憩	休憩	休憩	
16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 ユニットミーティング (リフレクションを含む)	16:45~17:15 ユニットミーティング (リフレクションを含む)	16:45~17:15 ユニットミーティング (リフレクションを含む)	/

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第1回事務職員研修【第430回】							
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室							
研修目的	学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる事務職員を育成する。							
受講対象	小学校・中学校の事務職員 小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の事務長、学校事務の共同実施におけるリーダー的な役割を担う担当者またはそれに準じる者であって、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者							
開催期日	平成30年6月4日（月）～平成30年6月8日（金）				5日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	160	人	受講者数	186	人	参加率	116.3%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,899 人、参加率 111.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	151	34	0	0	0	1	186
割合 (%)	81.6	18.4	0.0	0.0	0.0	0.5	
	185						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・学校事務職員として、マネジメントという視点をどのように確立をしていけばよいのか、ということを経験を通じて学ぶことができました。 ・チーム学校において、事務職員として専門性を生かし、組織マネジメント・カリキュラムマネジメント・財務マネジメント等に主体的に取り組んでいくことの必要性を十分に理解することができ、大変有意義な研修でした。 ・今までの仕事に対する姿勢を大きく変える自信ができました。経営参画といっても・・・と消極でしたが、入っていける知識をいただきました。 ・いろいろな講義を聞くことにより、仕事に対する視点が変わった。学習指導要領・教育課程・校長のビジョン・自分の学校のこと・子どもたちのことなど、もっとよく知ることが大切だと思いました。全国の事務職員の方々といろいろな話ができて良かったです。 ・講義にグループワークが入っていて、他の方の考え方を聞く機会があり、身につくことが多くありました。また、もっと考えたり、学ばなくてはいけないことがたくさんあることも毎日実感しました。講座の内容も普段自分からはなかなか学びきれないことを設定してくださっていてありがたかったです。 ・研修の内容が学校事務職の事務ともう少し直結している、または学校事務職の、これからの役割に直結する内容だとよかったです。 ・ユニットグループ5～6名で、この講座5日を受けてどうだったとか、今後どうする、とかの話を1hくらいしたい。もっと深められる気がします。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営参画職としての位置づけを明確にするとともに、マネジメント力の育成のために必要と考えられる講座の構成とした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長研修、事務職員研修を同時期に実施し、一部の内容を合同で行うことにより、事務職員の立場からの学校経営参画について、現場の校長との協議を通じて深めるような内容とする。 ・現在の2回開催を校種別（小、中、高・特）に3回開催する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度 教職員等中央研修 第1回事務職員研修 日程表

(小・中学校)

6月4日(月)	6月5日(火)	6月6日(水)	6月7日(木)	6月8日(金)
/	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~11:45 (休憩:15分を含む)
	休憩	休憩	休憩	
9:00~9:30 受付	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	ケース・メソッド マネジメントの実践 全国公立小中学校 事務職員研究会 (第二研修棟2階)
9:30~10:10 オリエンテーション	講義・演習・協議 学校組織マネジメント 筑波大学 教授 浜田 博文 (第二研修棟2階)	講義・演習・協議 カリキュラム・マネジ メント 千葉大学 特任教授 天笠 茂 (第二研修棟2階)	講義・演習・協議 スクールコンプライア ンスとリスクマネジメント 福岡教育大学 准教授 河内 祥子 (第二研修棟2階)	
10:10~10:30 開講式				
休憩				
10:45~12:15 講義 教育政策の諸動向 文部科学省 (講堂)				
11:55~12:15 研修成果の活用 (第二研修棟2階)				
昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩
13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習・協議 チームとしての学校 国立教育政策研究所 総括研究官 藤原 文雄 (第二研修棟2階)	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習・協議 チームワークと コミュニケーション 神田外語大学 客員教授 嶋崎 政男 (第二研修棟2階)	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習・協議 学校と家庭、地域との 連携 学校法人渡辺学園 顧問 貝ノ瀬 滋 (第二研修棟2階)	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習・協議 学校財務マネジメント 日本大学 教授 末富 芳 (第二研修棟2階)	13:15~14:45 特別講義 株式会社Indigo Blue 代表取締役会長 柴田 励司 (講堂)
休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
16:45~17:15 ユニットミーティング (指定研修室)	16:45~17:15 ユニットミーティング (指定研修室)	16:45~17:15 ユニットミーティング (指定研修室)	16:45~17:15 ユニットミーティング (指定研修室)	15:00~15:15 閉講式
/	/	/	/	/

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第2回事務職員研修【第439回】							
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室							
研修目的	学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる事務職員等を育成する。							
受講対象	高等学校・特別支援学校の事務職員 小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の事務長、学校事務の共同実施におけるリーダー的な役割を担う担当者またはそれに準じる者であって、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者							
開催期日	平成30年10月15日（月）～平成30年10月19日（金）				5日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	104	人	参加率	104.0%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,899 人、参加率 111.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	84	18	0	0	0	2	104
割合 (%)	82.4	17.6	0.0	0.0	0.0	1.9	
	102						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・チーム学校が提案された背景が明確となった。その中で、事務職員として行うべき内容や方法等が具体的に体系づけて説明がされた。 ・研修内容もちろんだが、研修期間中、外部との接触がない中で、他県の事務長と互いの実情を話す中で、自県にない新たな視点を見つけるきっかけとなった。 ・これまで気づけなかった視点を与えていただきました。一環したテーマのもとに組み立てられた内容で、深く学ぶことができました。 ・演習・協議が入っていて、集中力も途切れることなく受講できたこと、ユニットミーティングで振り返りができ、記憶の定着に役に立ったことは良かった。 ・（校長との合同研修）校長先生側の意見や考えを聞きながら、それぞれの立場での対応等、参考になった。今回受講したほぼ全ての講義が合同でもよかった。校長先生方にも知っておいて欲しい。認識しておいて欲しい内容ばかりだった。 ・（校長との合同研修）校長先生の考えが聞けて有意義であったが、成果物を作る際に積極的に発言しない方が多かったのが残念であった。研修の対象者の要件を明示して推薦を依頼するとよいのでは。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営参画職としての位置づけを明確にするとともに、マネジメント力の育成のために必要と考えられる講座の構成とした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の2回開催を校種別（小、中、高・特）に3回開催する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度 教職員等中央研修 第2回事務職員研修 日程表

(高校・特別支援)

10月15日(月)	10月16日(火)	10月17日(水)	10月18日(木)	10月19日(金)
/	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~11:45 (休憩:15分を含む)
	休憩	休憩	休憩	
9:00~9:30 受付	9:00~12:15	9:00~12:15	9:00~12:15	ケース・メソッド マネジメントの実践 全国公立高等学校 事務職員協会
9:30~10:10 オリエンテーション ※校長研修と合同	(休憩:15分を含む)	(休憩:15分を含む)	(休憩:15分を含む)	
10:10~10:30 開講式 ※校長研修と合同	講義・演習・協議 学校組織マネジメント	講義・演習・協議 スクールコンプライアンス とリスクマネジメント	講義・演習・協議 人材育成とコーチング	
休憩	国土館大学 教授 北神 正行	日本女子大学 教授 坂田 仰	神田外語大学 客員教授 嶋崎 政男	
10:45~12:15 講義 教育政策の諸動向 文部科学省 ※校長研修と合同	※校長研修と合同			
昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩	休憩
13:15~16:30 (休憩:15分を含む)	13:15~16:30 (休憩:15分を含む)	13:15~16:30 (休憩:15分を含む)	13:15~16:30 (休憩:15分を含む)	13:15~14:45 特別講義 教育改革実践家 奈良市立一条高校・前校長 藤原 和博
講義・演習・協議	協議	講義・演習・協議	講義・演習・協議	※校長研修と合同
チームとしての学校	学校組織マネジメント	学校と家庭、地域との 連携	学校財務マネジメント	休憩
国立教育政策研究所 総括研究官 藤原 文雄	国土館大学 教授 北神 正行	大正大学 教授 浦崎 太郎	日本大学 教授 末富 芳	15:00~15:15 閉講式 ※校長研修と合同
休憩	※校長研修と合同			/
16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 ユニットミーティング	
休憩	休憩	休憩	休憩	

I 研修概要

研 修 名	学校組織マネジメント指導者養成研修（A日程）						
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室						
研 修 目 的	<p>学校は、校長のリーダーシップの下、カリキュラム、日々の教育活動、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして能力を発揮する必要がある。</p> <p>本研修では、受講者が学校組織マネジメントの理論を身につけ、的確な校長のリーダーシップと経営理念のもとに戦略を構築し、学校内外の資源を活用することができるようにする。そのうえで、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等を行うことのできる指導者の養成を図る。</p>						
受 講 対 象	<p>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会や教育センター等で学校組織マネジメントの普及・充実、研修を担当する指導主事、及びそれに準ずる者</p> <p>・幼稚園の園長、副園長、及び小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭であって、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の企画、運営または講師等としての活動を行う予定である者</p> <p>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生</p>						
開 催 期 日	平成30年8月27日（月）～平成30年8月30日（木）				4日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	120	人	受講者数	161	参加率	134.2%
開 催 場 所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体標準定員 240 人、受講者数 369 人、参加率 153.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	148	9	0	0	3	1	161
割合 (%)	92.5	5.6	0.0	0.0	1.0	0.6	
	157	98.1					

2. 研修内容に関する主な意見

・学校現場において、今考えなければいけないことの再確認と具体的な取り組み法が分かり、内容的に有意義なものだった。

・マネジメントの理論や方法等、多岐にわたり学ぶことができた。4日間のそれぞれの講話、演習等が有機的に結びついており、関連付けながら受講することができた。

・現在、教育委員会勤務ですが、学校訪問で指導助言したり、学校経営管理計画を集めたりといった業務に携わっており、それらに有効に活用できる研修内容でした。

・これまで学校組織マネジメントにおいて成功した事、失敗した事がありましたが、どうして成功したのか、どうして失敗したのか論理的に理解することができました。ありがとうございました。

・昨年は5日間だったと聞いていた。今回4日間にブラッシュアップされたのだと思う一方で、もう1日あれば、他校種の先生方との交流や連携をテーマにしたプログラム等、より充実するのでは、と思った。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

・研修期間を5日間から4日間に短縮するとともに、8月27日（月）～8月31日（金）の間、月曜日開始のA日程と、火曜日開始のB日程に受講者を振り分け、演習における受講者人数の適正化を図った。

次年度に向けて

・研修ニーズの多さに対応するため2回開催とし、研修期間を4日間から5日間に延長する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研修名	学校組織マネジメント指導者養成研修（B日程）							
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室							
研修目的	<p>学校は、校長のリーダーシップの下、カリキュラム、日々の教育活動、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして能力を発揮する必要がある。</p> <p>本研修では、受講者が学校組織マネジメントの理論を身につけ、的確な校長のリーダーシップと経営理念のもとに戦略を構築し、学校内外の資源を活用することができるようにする。そのうえで、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等を行うことのできる指導者の養成を図る。</p>							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会や教育センター等で学校組織マネジメントの普及・充実、研修を担当する指導主事、及びそれに準ずる者 ・幼稚園の園長、副園長、及び小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭であって、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の企画、運営または講師等としての活動を行う予定である者 ・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生 							
開催期日	平成30年8月28日（火）～平成30年8月31日（金）					4日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	120	人	受講者数	98	人	参加率	81.7%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体標準定員 240 人、受講者数 369 人、参加率 153.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	90	7	0	0	1	0	98
割合 (%)	91.8	7.1	0.0	0.0	1.0	0.0	
	97						
	99.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・学校組織マネジメントの理論、今必要とされている、今後取り組まなければならない経緯、背景、将来の展望を説明いただき、演習、実践的な研修に入ったのでこの研修を生かしていく、モチベーションは高いものとなった。カリキュラムマネジメントもプログラムに組み込まれており、充実した研修内容であった。 ・タイムリーで、「今後」を見越した内容でとても良かったです。理論・実践等織り交ぜながら、大変よく理解することができました。いろいろとやる気もわいてきました。 ・他の学校や地域の事例を学べる仕掛けにもなる、協働作業を伴う研修形式は、とても有意義でした。また、本来のねらいであるワークショップ形式の学びと気づきが多くありました。 ・4日間かけ、段階的に研修を進めることができた。本研修の趣旨が達成できるよう適切にプログラムが組まれていたと感じる。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修期間を5日間から4日間に短縮するとともに、8月27日（月）～8月31日（金）の間、月曜日開始のA日程と、火曜日開始のB日程に受講者を振り分け、演習における受講者人数の適正化を図った。
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修ニーズの多さに対応するため2回開催とし、研修期間を4日間から5日間に延長する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度学校組織マネジメント指導者養成研修日程表

A日程:平成30年8月27日(月)～8月30日(木)

B日程:平成30年8月28日(火)～8月31日(金)

第1日 【A日程】8/27(月) 【B日程】8/28(火)	8:30	9:00	9:30	10:00	10:45	12:15	12:45	13:15	14:45	15:00	16:30	16:45	17:15
	休憩 ミーティング (20分) 8:30-8:50	受付 (30分) 9:00-9:30	オリエンテーション (40分) 9:30-10:10	開講式 (20分) 10:25-10:45	政策に見る新しい学校経営の動向 文部科学省 初等中等教育局 参事官付 (90分) 10:45-12:15	昼食・休憩 (60分) 12:15-13:15	経営理念の構築とリーダーシップ ～人と組織を活かした学校経営～ 株式会社イマーゼンス 代表取締役社長 桑畑英紀 (90分) 13:15-14:45	休憩 15分	協議 学校組織マネジメント上の課題の 分析 (90分) 15:00-16:30	休憩 15分	休憩 ミーティング (30分) 16:45-17:15		
第2日 【A日程】8/28(火) 【B日程】8/29(水)	8:30	9:00	9:30	10:00	10:45	12:15	12:45	13:15	14:45	15:00	16:30	16:45	17:15
	休憩 ミーティング (20分) 8:30-8:50	～管理職とリーダー教員にとつて のマネジメントの課題～ 協賛 (90分) 9:00-10:30	実践発表・協議 ア 学校組織の活性化 (30分) イ 学校と地域の連携・協働(30分) 協賛 (30分) 10:45-12:15	休憩 15分	実践発表・協議 ウ 研修成果の活用(30分) 協賛(15分) 質疑(30分) 講評(15分) 13:15-14:45	昼食・休憩 (60分) 12:15-13:15	講義 学校ビジョンと戦略(2) ～管理職とリーダー教員にとつての マネジメントの課題～ 国士館大学 教授 北神正行 (90分) 15:00-16:30	休憩 15分	講義 学校組織マネジメントの実践 に向けて ～学校の戦略マップを作る(3)～ 兵庫教育大学大学院 教授 浅野良一 (90分) 15:00-16:30	休憩 15分	休憩 ミーティング (30分) 16:45-17:15		
第3日 【A日程】8/29(水) 【B日程】8/30(木)	8:30	9:00	9:30	10:00	10:45	12:15	12:45	13:15	14:45	15:00	16:30	16:45	17:15
	休憩 ミーティング (20分) 8:30-8:50	～学校の戦略マップを作る(1)～ 兵庫教育大学大学院 教授 浅野良一 (90分) 9:00-10:30	講義・演習 学校組織マネジメントの実践 に向けて ～学校の戦略マップを作る(2)～ 兵庫教育大学大学院 教授 浅野良一 (90分) 10:45-12:15	休憩 15分	講義・演習 学校組織マネジメントの実践 に向けて ～学校の戦略マップを作る(3)～ 兵庫教育大学大学院 教授 浅野良一 (90分) 13:15-14:15	昼食・休憩 (60分) 12:15-13:15	講義・演習 やる気を引き出す ヒューマンリソース・ マネジメント(1) 早稲田大学 教授 河村茂雄 (90分) 12:45-14:15	休憩 15分	講義・演習 やる気を引き出す ヒューマンリソース・ マネジメント(2) 早稲田大学 教授 河村茂雄 (90分) 14:30-16:00	休憩 15分	休憩 ミーティング (30分) 16:45-17:15		
第4日 【A日程】8/30(木) 【B日程】8/31(金)	8:30	9:00	9:30	10:00	10:45	12:15	12:45	13:15	14:45	15:00	16:30	16:45	17:15
	休憩 ミーティング (20分) 8:30-8:50	特色ある学校づくりのための カリキュラム・マネジメント(1) 大阪教育大学 教授 田村 知子 (90分) 8:30-10:00	講義・演習 特色ある学校づくりのための カリキュラム・マネジメント(2) 大阪教育大学 教授 田村 知子 (90分) 10:15-11:45	休憩 15分	昼食・休憩 (60分) 11:45-12:45	講義・演習 やる気を引き出す ヒューマンリソース・ マネジメント(1) 早稲田大学 教授 河村茂雄 (90分) 12:45-14:15	講義・演習 やる気を引き出す ヒューマンリソース・ マネジメント(2) 早稲田大学 教授 河村茂雄 (90分) 14:30-16:00	休憩 15分	閉講式 (20分) 16:10-16:30	休憩 15分	休憩 ミーティング (30分) 16:45-17:15		

I 研修概要

研修名	学校組織マネジメント指導者養成研修（C日程）				
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室				
研修目的	<p>学校は、校長のリーダーシップの下、カリキュラム、日々の教育活動、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして能力を発揮する必要がある。</p> <p>本研修では、受講者が学校組織マネジメントの理論を身につけ、的確な校長のリーダーシップと経営理念のもとに戦略を構築し、学校内外の資源を活用することができるようにする。そのうえで、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等を行うことのできる指導者の養成を図る。</p>				
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会や教育センター等で学校組織マネジメントの普及・充実、研修を担当する指導主事、及びそれに準ずる者 ・幼稚園の園長、副園長、及び小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭であって、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の企画、運営または講師等としての活動を行う予定である者 ・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生 				
開催期日	平成31年1月7日（月）～平成31年1月10日（木）			4日間	
受講人数	標準定員 (計画人数)	人	受講者数	110	参加率
開催場所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）				

※ 全体標準定員 240 人、受講者数 369 人、参加率 153.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	104	4	0	0	0	2	110
割合 (%)	96.3	3.7	0.0	0.0	0.0	1.8	
	108	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・学校組織マネジメントの意義、各校での今後の取組について認識を深めることができた。自校の課題を演習で見直すことができた。 ・カリキュラム・マネジメントの定義とカリキュラムを評価する視点を学ぶことができました。マネジメントする視点においては、学校経営と共通する点が多くあると思いました。演習内容を活用していきたいと思います。 ・学校組織マネジメントはプランを作るだけでなく、その評価・点検をどのように実行していくかについて、とても具体的に教えて頂きました。 ・グループ討議の時間が充分に取られ、他の都道府県の事例を見聞きし、自校の課題を考えるきっかけとすることができた。また、今後の校務に対して、見通しを持つことができた。 ・学校教育目標は形式が決まっており、変化のしようがないものと思込んでいたが、現状を見つめ学校のレベルアップに役立つ戦略ツールであることを改めて認識させられた。 ・学校ビジョンと戦略、学校組織マネジメントの実践に向けた戦略マップ作成において、より具体を知ることができ、経営に直結するよい内容でした。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修期間を5日間から4日間に短縮するとともに、8月27日（月）～8月31日（金）の間、月曜日開始のA日程と、火曜日開始のB日程に受講者を振り分け、演習における受講者人数の適正化を図った。 ・A日程（161名）、B日程（98名）に入りきれず、C日程（110名）を急遽追加で設定した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修ニーズの多さに対応するため2回開催とし、研修期間を4日間から5日間に延長する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度学校組織マネジメント指導者養成研修日程表

C日程：平成31年1月7日(月)～1月10日(木)

	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	17:15	
第1日		受付 (30分) 9:00-9:30	オリエンテーション (40分) 9:30-10:10	休憩 15分 10:25-10:45	開講式 (20分) 10:45-11:05	政策に見る新しい学校経営の動向 文部科学省 (90分) 10:45-12:15	講義 学校組織の活性化 (30分) 12:15-13:15	昼食・休憩 (60分) 12:15-13:15	学校組織マネジメント上の課題の 分析(1) (90分) 13:15-14:45 教職員支援機構	学校組織マネジメント上の課題の 分析(2) (90分) 14:45-16:15 教職員支援機構	休憩 15分	休憩 15分	学校組織マネジメント上の課題 の分析(2) (90分) 15:00-16:30 教職員支援機構	休憩 15分	ミーティング 30分		
第2日	ミーティング (20分) 8:30-8:50	学校ビジョンと戦略(1) ～管理職とリーダー教員にとつ てのマネジメントの課題～ 国士館大学 教授 北神正行 (90分) 9:00-10:30	講義 実践発表・協議 学校組織の活性化 (30分) 10:30-11:00	休憩 15分 11:00-11:15	実践発表・協議 協議(15分) 質疑(30分) 講評(15分) 11:15-12:45	講義 学校と地域の連携・協働(30 分) 協議(30分) 12:45-14:15	昼食・休憩 (60分) 12:15-13:15	ウ 研究発表・協議 協議(15分) 質疑(30分) 講評(15分) 13:15-14:45	学校組織マネジメント上の課題 の分析(1) (90分) 13:15-14:45 教職員支援機構	学校ビジョンと戦略(2) ～管理職とリーダー教員にとつ てのマネジメントの課題～ 国士館大学 教授 北神正行 (90分) 15:00-16:30	休憩 15分	休憩 15分	学校組織マネジメントの実践 に向けて ～学校の戦略マップを作る(4) 兵庫教育大学大学院 教授 浅野良一 (90分) 15:00-16:30	休憩 15分	ミーティング 30分		
第3日	ミーティング (20分) 8:30-8:50	学校組織マネジメントの実践 に向けて ～学校の戦略マップを作る(1)～ 兵庫教育大学大学院 教授 浅野良一 (90分) 9:00-10:30	講義・演習 学校組織マネジメントの実践 に向けて ～学校の戦略マップを作る(2)～ 兵庫教育大学大学院 教授 浅野良一 (90分) 10:45-12:15	休憩 15分 12:15-12:30	講義・演習 学校組織マネジメントの実践 に向けて ～学校の戦略マップを作る(3)～ 兵庫教育大学大学院 教授 浅野良一 (90分) 13:15-14:45	講義・演習 学校組織マネジメントの実践 に向けて ～学校の戦略マップを作る(4) 兵庫教育大学大学院 教授 浅野良一 (90分) 15:00-16:30	昼食・休憩 (60分) 12:15-13:15	学校組織マネジメントの実践 に向けて ～学校の戦略マップを作る(3)～ 兵庫教育大学大学院 教授 浅野良一 (90分) 13:15-14:45	学校組織マネジメントの実践 に向けて ～学校の戦略マップを作る(4) 兵庫教育大学大学院 教授 浅野良一 (90分) 15:00-16:30	休憩 15分	休憩 15分	休憩 15分	学校組織マネジメントの実践 に向けて ～学校の戦略マップを作る(4) 兵庫教育大学大学院 教授 浅野良一 (90分) 15:00-16:30	休憩 15分	ミーティング 30分		
第4日	特色ある学校づくりのための カリキュラム・マネジメント (1) 筑波大学 准教授 根津朋実 (90分) 8:30-10:00	講義・演習 特色ある学校づくりのための カリキュラム・マネジメント (2) 筑波大学 准教授 根津朋実 (90分) 10:15-11:45	講義・演習 特色ある学校づくりのための カリキュラム・マネジメント (2) 筑波大学 准教授 根津朋実 (90分) 11:45-12:45	休憩 15分 12:45-13:00	講義・演習 やる気を引き出す マネジメント(1) 早稲田大学 教授 河村茂雄 (90分) 12:45-14:15	講義・演習 やる気を引き出す マネジメント(2) 早稲田大学 教授 河村茂雄 (90分) 14:30-16:00	閉講式 20分	休憩 10分	休憩 15分	休憩 15分	休憩 15分	休憩 15分	休憩 15分	休憩 15分	休憩 15分	閉講式 20分	休憩 10分

I 研修概要

研修名	カリキュラム・マネジメント指導者養成研修							
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室							
研修目的	新学習指導要領に基づいて、学校において、校長のリーダーシップの下、組織的、計画的に「カリキュラム・マネジメント」を展開するための手立て、カリキュラムの自己点検・評価に関する手法等、「カリキュラム・マネジメント」を円滑に行うために必要となる知識等を習得し、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 ・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者として活動を行う者 ・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生 							
開催期日	平成30年9月10日（月）～平成30年9月14日（金）					5日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	140	人	受講者数	244	人	参加率	174.3%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	206	37	0	0	1	0	244
割合 (%)	84.4	15.2	0.0	0.0	0.4	0.0	
	243						
	99.6						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・はじめに「日本一の研修だと自負しております」との言葉がありました。ホンマでした。どの講師の先生も「おもしろい、楽しい、わかりやすい」三拍子そろっておりました。素晴らしい先生方でした。 ・研修がおもしろいと初めて感じました。こんなに長い研修で意味があるのかと思いましたが、始まると時間がたりなく熱中しました。 ・カリキュラム・マネジメントとは、のどころから説明していただけたので、今までよりも理解が進んだ。また、実際の場面で生かせるような内容もあったので、大変勉強になった。 ・様々な角度から話を聞くことによって、カリキュラム・マネジメントの三つの視点(手だて)を整理できたので、つなぎ、理念へ接近できるようにしたいと思った。 ・ご講義される先生によって、カリマネの概念や重視する点に差があり、混乱されている受講生もいた。 ・より多くの具体的な事例を参考にできればよかったと思う。非常に特別な(特徴のある)事例であったので、一般的な事例発表があれば良かった。 ・講義後には必ず質疑応答の時間が欲しい。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ別の部会で行っていた演習について、校種別に変更し、「小学校・中学校・高等学校・特別支援学校」の4部会とした。
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦者数の多さへの対応、新学習指導要領において示された「カリキュラム・マネジメント」の重要性に鑑み、年間1回から2回開催とする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度 カリキュラム・マネジメント指導者養成研修 日程表

9月10日(月)

9:30	10:00	11:00	11:10	12:00	13:00	17:00
受付	オンラインセッション	休憩	講義1 新学習指導要領とカリキュラム・マネジメント 一学習指導要領総則の記述を中心として 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教育課程企画室 専門官 石田 有記 ◎目的:新学習指導要領における「カリキュラム・マネジメント」の 位置づけや学校に求められていることを理解する	風食・休憩	講義・演習 「カリキュラム・マネジメント」の新たな展開—新学習指導要領の告示に関わって— 千葉大学 特任教授 天笠 茂	休憩

9月11日(火)

9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	16:30	17:00
講義2 学校ビジョンと戦略 滋賀大学 教授 大野 裕己 ◎目的:学校の資源、特色を生かした学校ビジョンと戦略、評価 について理解を深める	休憩	事例発表・協議・指導助言 小学校の部 事例発表 新宿区立西新宿小学校 校長 清水 仁 指導助言: 甲南女子大学 教授 村川 雅弘 滋賀大学 教授 大野 裕己 ◎目的:先行事例をとおして、学校の資源、特色を生かしたカリキュラムの編成とその適切な継続マネジメントによる学校改善の手法等について学ぶとともに、各校や担当地域の課題やこれまでの成果をより明確にする	風食・休憩	(引き続き事例発表・協議・指導助言) 中学校の部 事例発表: 岐阜県白川村立白川郷学園 校長 水川 和彦 指導助言: 甲南女子大学 教授 村川 雅弘 奈良教育大学 教授 赤沢 早人	休憩	(引き続き事例発表・協議・指導助言) 高等学校の部 事例発表 福島県立ふたば未来学園高等学校 副校長 南郷 市兵 指導助言: 滋賀大学 教授 大野 裕己 奈良教育大学 教授 赤沢 早人	振りの返り	

9月12日(水)

8:30	10:00	10:15	12:15	13:15	14:45	15:00	17:00
講義3 校長のリーダーシップと学校組織 愛媛大学 教授 露口 健司 ◎目的:校長のリーダーシップのもと学校組織の構成員 および地域、保護者と協力しての学校運営についての 理解を深める	休憩	講義4 「カリキュラム・マネジメント」による評価と改善 甲南女子大学 教授 村川 雅弘 大阪教育大学 教授 田村 知子 ◎目的:学校づくりに関し活かすカリキュラム評価の考え方、進め方について学ぶ	風食・休憩	(引き続き講義4)	休憩	講義5 「カリキュラム・マネジメント」を促進するための 研修の在り方 甲南女子大学 教授 村川 雅弘	◎目的:各学校において組織的「カリキュラム・マネジメント」を 実行するための研修手法及びその効果についての知識を得、理 解する

9月13日(木)

8:30	10:30	10:45	12:15	13:15	15:10	15:30	17:00
演習1 協議 「カリキュラム・マネジメント」の実際 A【小学校の部】 高崎健康福祉大学 教授 栗原 幸正 B【中学校の部】 大阪教育大学 教授 田村 知子 C【高等学校の部】 奈良教育大学 教授 赤沢 早人 D【特別支援学校の部】 福岡教育大学 教授 一木 薫 ◎目的:学校全体で「カリキュラム・マネジメント」の意義を理解し、組織的な取り組みによって学校教育目標の達成をめざす方策を検討する	休憩	風食・休憩	(引き続き演習1)	部会別発表 (引き続き演習1)	全体発表・パネルディスカッション (引き続き演習1)	休憩・移動	

9月14日(金)

8:30	10:15	10:30	12:00	12:20
演習2 「カリキュラム・マネジメント」を推進するための 研修プランの作成 独立行政法人教職員支援機構 ◎目的:これまで学んできたことを活用して、「カリキュラム・マ ネジメント」を推進するための研修を企画する	休憩	講義6 「カリキュラム・マネジメント」と組織化 千葉大学 特任教授 天笠 茂 ◎目的:本研修を振り返るとともに、「カリキュラム・マネジメント」の組織的な取組 について理解を深める	閉講式	

I 研修概要

研 修 名	生徒指導指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室							
研 修 目 的	<p>生徒指導は、学校がその教育目標を達成するための重要な機能の一つであり、各学校においては、生徒指導の実践に際し教職員間の共通理解を図り、組織的・体系的生徒指導の取組をしている。</p> <p>しかし、社会の変化が著しい現代において、いじめ、暴力行為、自殺、不登校などは依然として相当数に上っており、学校教育推進上の大きな課題となっている。そのため学校や教育委員会等による、児童生徒の問題行動等の未然防止、早期発見・早期解決の推進が一層求められている。</p> <p>本研修では、「喫緊の課題を解決するための理論習得及び実践的力量的向上」、「生徒指導におけるマネジメント力の向上」を図り、生徒指導を核とした学校運営を推進する指導者の養成を図る。</p>							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会や教育センター等で生徒指導を担当する指導主事及びこれに準じる者 ・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の主幹教諭、教諭であつて、各地域において本研修を踏まえた研修の企画・運営または講師等としての活動を行う（予定を含む）者 ・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生 							
開 催 期 日	前半：平成30年7月2日（月）～平成30年7月6日（金） 後半：平成30年12月3日（月）～平成30年12月5日（水）					8日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	129	人	参加率	129.0%
開 催 場 所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	119	7	0	0	0	1	127
割合 (%)	94.4	5.6	0.0	0.0	0.0	0.8	
	126						100.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・事例研究が多く、より実践に近い形で検討できただけでなく多くの意見を知ることで、全国での悩みや考えを学ぶことができた。 ・生徒指導全般に関わる講義を受けることができ、法規・指導の在り方・保護者との連携に関する現場に役立つものを学ぶことができた。 ・全国の仲間との出会いや協議が何より有意義でした。また、講師の先生方から新しい知識や技法を得ることができたことも良かった。 ・前期の講義が大変充実していた。大元となる部分をしっかりと学ぶことができた。そして、その理論を持って現場で実践し、そこで生まれた疑問や課題を後期の事例の研究で検討することができた。大変有意義な研修になった。 ・講義と演習の部分があって、知識を勉強できる時間と、それをどのように活用していくかを他の人と話し合うことで深めることができたので、大変良かった。 ・多くの生徒指導に悩む同志たちの思いを聞き、とても勉強になりました。また、心強く、今後苦しい時に相談し合える仲間ができたことが、何より有意義でした。 ・1つ1つが生徒指導としてとても大切な内容ばかりで、かつとても興味深く、楽しみながら研修を進めさせていただき、本当にありがたかった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10日間連続開催を、7月に5日間、12月に3日間のインターバル開催とし、理論的講座の受講後に地域に戻り実践し、12月に事例研究や演習・協議等を行うことにより、研修成果の活用促進と研修の質の向上を図った。
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修期間を8日間から5日間とし、受講者が、研修を受講しやすい体制を整える。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度生徒指導指導者養成研修日程表

【前半】平成30年7月2日(月)～7月6日(金)

期日(曜)	8:30	9:00	9:10	10:00	10:30	10:45	11:45	12:15	13:15	14:45	15:00	16:30	16:45	17:15
1	7月2日(月)	受付 (9:20～9:40)	オリエンテーション (9:40～10:10)	開講式 (10:10～10:30)	休憩	文部科学省 初等中等教育局児童生徒課 生徒指導室長 松林 高樹	生徒指導上の重要課題と対策 加古川市教育委員会 青少年育成課 教育相談センター 校長 支援カウンセラー 阪中 順子	重要課題を踏まえた生徒指導の進め方(1) 関西外国語大学 教授 新井 肇	休憩	重要課題を踏まえた生徒指導の進め方(2) 関西外国語大学 教授 新井 肇	休憩	重要課題を踏まえた生徒指導の進め方(2) 関西外国語大学 教授 新井 肇	16:45	17:15
2	7月3日(火)	ミーティング	自校予防に向けた取組(1) 加古川市教育委員会 青少年育成課 教育相談センター 校長 支援カウンセラー 阪中 順子	休憩	加古川市教育委員会 青少年育成課 教育相談センター 校長 支援カウンセラー 阪中 順子	自校予防に向けた取組(2) 加古川市教育委員会 青少年育成課 教育相談センター 校長 支援カウンセラー 阪中 順子	不登校について(1) 鹿児島国際大学 教授 大坪 治彦	休憩	不登校について(2) 鹿児島国際大学 教授 大坪 治彦	休憩	不登校について(2) 鹿児島国際大学 教授 大坪 治彦	休憩	不登校について(2) 鹿児島国際大学 教授 大坪 治彦	17:15
3	7月4日(水)	ミーティング	生徒指導と教育法規(1) 日本女子大学 教授 坂田 仰	休憩	生徒指導と教育法規(2) 日本女子大学 教授 坂田 仰	生徒指導と教育法規(2) 日本女子大学 教授 坂田 仰	いじめの未然防止と対応(1) 国立教育政策研究所 総括研究官 藤平 敦	休憩	いじめの未然防止と対応(1) 国立教育政策研究所 総括研究官 藤平 敦	休憩	いじめの未然防止と対応(2) 国立教育政策研究所 総括研究官 藤平 敦	休憩	いじめの未然防止と対応(2) 国立教育政策研究所 総括研究官 藤平 敦	17:15
4	7月5日(木)	ミーティング	情報モラル教育の充実(1) 兵庫県立大学 准教授 竹内 和雄	休憩	情報モラル教育の充実(2) 兵庫県立大学 准教授 竹内 和雄	情報モラル教育の充実(2) 兵庫県立大学 准教授 竹内 和雄	特別支援教育と生徒指導(1) 国立特別支援教育総合研究所 総括研究員 横山 貴一	休憩	特別支援教育と生徒指導(1) 国立特別支援教育総合研究所 総括研究員 横山 貴一	休憩	特別支援教育と生徒指導(2) 国立特別支援教育総合研究所 総括研究員 横山 貴一	休憩	特別支援教育と生徒指導(2) 国立特別支援教育総合研究所 総括研究員 横山 貴一	17:15
5	7月6日(金)	ミーティング	児童虐待防止に向けた取組(1) 大正大学 教授 玉井 邦夫	休憩	児童虐待防止に向けた取組(2) 大正大学 教授 玉井 邦夫	児童虐待防止に向けた取組(2) 大正大学 教授 玉井 邦夫	事例研究に向けた今後の取組 教職員支援機構 研修プログラムコーディネーター 遠藤 弘太郎	諸連絡	事例研究に向けた今後の取組 教職員支援機構 研修プログラムコーディネーター 遠藤 弘太郎	休憩	事例研究に向けた今後の取組 教職員支援機構 研修プログラムコーディネーター 遠藤 弘太郎	休憩	事例研究に向けた今後の取組 教職員支援機構 研修プログラムコーディネーター 遠藤 弘太郎	17:15

【後半】平成30年12月3日(月)～12月5日(水)

期日(曜)	8:30	8:45	8:55	9:00	9:10	10:30	10:45	11:45	12:00	12:15	13:00	13:15	14:45	15:00	15:45	16:30	16:45	17:15
1	12月3日(月)	受付 (8:30～8:50)	学校・家庭・地域・外部機関との連携(1) 神田外語大学 特任教授 嶋崎 政男	休憩	学校・家庭・地域・外部機関との連携(2) 神田外語大学 特任教授 嶋崎 政男	学校・家庭・地域・外部機関との連携(2) 神田外語大学 特任教授 嶋崎 政男	事例協議(1) 教職員支援機構 研修プログラムコーディネーター 倉橋 琢也	休憩	事例協議(1) 教職員支援機構 研修プログラムコーディネーター 倉橋 琢也	休憩	事例協議(2) 教職員支援機構 研修プログラムコーディネーター 倉橋 琢也	休憩	事例協議(2) 教職員支援機構 研修プログラムコーディネーター 倉橋 琢也	16:45	17:15			
2	12月4日(火)	ミーティング	1ユニット 2ユニット 3ユニット 4ユニット 5ユニット	講義	1ユニット 2ユニット 3ユニット 4ユニット 5ユニット	1ユニット 2ユニット 3ユニット 4ユニット 5ユニット	生徒指導事例研究(1)	講義	生徒指導事例研究(1)	休憩	1ユニット 2ユニット 3ユニット 4ユニット 5ユニット	休憩	1ユニット 2ユニット 3ユニット 4ユニット 5ユニット	16:45	17:15			
3	12月5日(水)	ミーティング	1ユニット 2ユニット 3ユニット 4ユニット 5ユニット	講義	1ユニット 2ユニット 3ユニット 4ユニット 5ユニット	1ユニット 2ユニット 3ユニット 4ユニット 5ユニット	生徒指導事例研究(3)	講義	生徒指導事例研究(3)	休憩	1ユニット 2ユニット 3ユニット 4ユニット 5ユニット	休憩	1ユニット 2ユニット 3ユニット 4ユニット 5ユニット	16:00	16:45	17:15		

I 研修概要

研 修 名	教育相談指導者養成研修						
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室						
研 修 目 的	<p>いじめ、不登校、暴力行為など生徒指導上の諸問題は、依然として憂慮すべき状況にある。さらに、虐待や貧困など新しい形の問題が顕在化し、生徒指導上の問題は一層多様化、深刻化している。これらの問題に適切に対応するためには、教員個人が問題を抱え込むことなく、「チーム学校」の観点から学校全体で組織的に取り組むことや、外部機関や家庭、地域との連携・協働を促進して、効果的に教育相談を推進することが求められている。</p> <p>本研修では、「チーム学校」として組織的な教育相談体制を構築し、効果的に教育相談を実践する力を高め、教育相談の組織的な取組みをマネジメントする力を身に付けて、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等を行うことのできる指導者の養成を図ることを目的とする。</p>						
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・各都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者。 ・幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の教職員であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者。 ・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生。 						
開 催 期 日	平成30年6月11日（月）～平成30年6月14日（木）				4日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	60	人	受講者数	90	参加率	150.0%
開 催 場 所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）						

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	77	13	0	0	0	0	90
割合 (%)	85.6	14.4	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・喫緊の課題であるいじめ・不登校などの対策としてチーム学校体制の整備の重要性、そして、SC・SSWの活用を含め、予防的・開発的マネジメントの大切さを認識できました。 ・期待通りの、ねらいにそった研修でした。自分の中で、生徒指導と教育相談の立ち位置を理解したつもりであっても、それを学校の先生に伝えるための根拠や伝え方に自信がなかったのですが、この研修に参加したことで、不安だったことがすっきり解消でき、今後の自分の仕事に自信をもって当たっていきそうです。 ・国の方針から現場経験者による講義等、幅広い内容について知ることができた。また、教育相談を行う際の教育側からの立場（医療・福祉等の連携もとても大事だが）からの視点で、やるべきこと等について理解を深めることができた。 ・学校として教育側からの立場で子どもたちにどのような思いと技術で関わっていくことが必要なのか、とても分かりやすく教えていただきました。事例について、自分が対応してきたものと似たところがあり、「あの時、この内容を知っていれば対応も違っていただけたかもしれない」と感じたところでした。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者等からのニーズが高い、「不登校児童・生徒の支援と教育相談」「特別支援教育と教育相談」に関する講義を追加した。
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「不登校児童・生徒の支援と教育相談」「特別支援教育と教育相談」に関しては、講義とともに演習を導入し具体的な手立てについて考える。 ・チーム学校として実際に対応しているSSWからの講義実施について検討する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度教育相談指導者養成研修日程表

8:30	9:00	9:30	9:50	11:20	11:35	12:15	13:15	14:45	15:00	16:30	16:40	17:00	
第1日	9:00	受付	開講式	講義 「『チーム学校』の構築と教育相談」 文部科学省 初等中等教育局児童生徒課生徒指導室 課長補佐 栗野 道夫	休憩	オリエンテーション	屋食・休憩	講義 「教育相談に関するマネジメントの推進」 ～マネジメントの効果的な進め方を学ぶ～ 神田外語大学客員教授 嶋崎 政男	休憩	講義 「教育相談に関するマネジメントの推進」 ～マネジメントの効果的な進め方を学ぶ～ 神田外語大学客員教授 嶋崎 政男	休憩・準備	リフレクシヨン	
	9:00	準備・休憩	講義 「教育相談の効果的な実践(1)」 ～教育相談の理論と実践を学ぶ～ 文科大学 教授 柳生 和男	講義 「教育相談の効果的な実践(2)」 ～教育相談の理論と実践を学ぶ～ 文科大学 教授 柳生 和男	講義 「教育相談の効果的な実践(3)」 ～具体的な手立ての方策を考える～ 文科大学 教授 柳生 和男	講義 「教育相談の効果的な実践(4)」 ～具体的な手立ての方策を考える～ 文科大学 教授 柳生 和男	講義 「教育相談に関するマネジメントの推進」 ～マネジメントの効果的な進め方を学ぶ～ 神田外語大学客員教授 嶋崎 政男	講義 「教育相談に関するマネジメントの推進」 ～マネジメントの効果的な進め方を学ぶ～ 神田外語大学客員教授 嶋崎 政男	講義 「『チーム学校』の構築(1)」 ～実践事例から学ぶ～ 専門スタッフの参画①②③ ①愛知県名古屋市教育委員会子ども応援委員会制度担当 子ども応援室 主任指導主事 坂野 誠 ②大阪府堺市教育委員会 スクールソーシャルワーカー 水流添 綾 ③近所のおじちゃん・おばちゃんクラブ 代表 能登山 明美 日本教育カウンセラー協会 理事 藤川 章	講義 「『チーム学校』の構築(2)」 ～実践事例から学ぶ～ 専門スタッフの参画①②③ ①愛知県名古屋市教育委員会子ども応援委員会制度担当 子ども応援室 主任指導主事 坂野 誠 ②大阪府堺市教育委員会 スクールソーシャルワーカー 水流添 綾 ③近所のおじちゃん・おばちゃんクラブ 代表 能登山 明美 日本教育カウンセラー協会 理事 藤川 章	講義 「『チーム学校』の構築(3)」 ～チーム体制の構築を考える～ 日本教育カウンセラー協会 理事 藤川 章	講義 「『チーム学校』の構築(4)」 ～チーム体制の構築を考える～ 日本教育カウンセラー協会 理事 藤川 章	休憩・準備
第2日	9:00	準備・休憩	講義 「『チーム学校』の構築(1)(2)」 ～実践事例から学ぶ～ 専門スタッフの参画①②③ ①愛知県名古屋市教育委員会子ども応援委員会制度担当 子ども応援室 主任指導主事 坂野 誠 ②大阪府堺市教育委員会 スクールソーシャルワーカー 水流添 綾 ③近所のおじちゃん・おばちゃんクラブ 代表 能登山 明美 日本教育カウンセラー協会 理事 藤川 章	講義 「教育相談の効果的な実践(1)」 ～教育相談の理論と実践を学ぶ～ 文科大学 教授 柳生 和男	講義 「教育相談の効果的な実践(2)」 ～教育相談の理論と実践を学ぶ～ 文科大学 教授 柳生 和男	講義 「教育相談の効果的な実践(3)」 ～具体的な手立ての方策を考える～ 文科大学 教授 柳生 和男	講義 「教育相談の効果的な実践(4)」 ～具体的な手立ての方策を考える～ 文科大学 教授 柳生 和男	講義 「『チーム学校』の構築(1)」 ～実践事例から学ぶ～ 専門スタッフの参画①②③ ①愛知県名古屋市教育委員会子ども応援委員会制度担当 子ども応援室 主任指導主事 坂野 誠 ②大阪府堺市教育委員会 スクールソーシャルワーカー 水流添 綾 ③近所のおじちゃん・おばちゃんクラブ 代表 能登山 明美 日本教育カウンセラー協会 理事 藤川 章	講義 「『チーム学校』の構築(2)」 ～実践事例から学ぶ～ 専門スタッフの参画①②③ ①愛知県名古屋市教育委員会子ども応援委員会制度担当 子ども応援室 主任指導主事 坂野 誠 ②大阪府堺市教育委員会 スクールソーシャルワーカー 水流添 綾 ③近所のおじちゃん・おばちゃんクラブ 代表 能登山 明美 日本教育カウンセラー協会 理事 藤川 章	講義 「『チーム学校』の構築(3)」 ～チーム体制の構築を考える～ 日本教育カウンセラー協会 理事 藤川 章	講義 「『チーム学校』の構築(4)」 ～チーム体制の構築を考える～ 日本教育カウンセラー協会 理事 藤川 章	休憩・準備	リフレクシヨン
	9:00	準備・休憩	講義 「不登校児童・生徒の支援と教育相談」 FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男	講義 「特別支援教育と教育相談」 FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男	閉講式	閉講式	閉講式	閉講式	閉講式	閉講式	閉講式	閉講式	閉講式
第3日	9:00	準備・休憩	講義 「不登校児童・生徒の支援と教育相談」 FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男	講義 「特別支援教育と教育相談」 FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男	閉講式	閉講式	閉講式	閉講式	閉講式	閉講式	閉講式	閉講式	
	9:00	準備・休憩	講義 「不登校児童・生徒の支援と教育相談」 FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男	講義 「特別支援教育と教育相談」 FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男	閉講式	閉講式	閉講式	閉講式	閉講式	閉講式	閉講式	閉講式	
第4日	9:00	準備・休憩	講義 「不登校児童・生徒の支援と教育相談」 FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男	講義 「特別支援教育と教育相談」 FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男	閉講式	閉講式	閉講式	閉講式	閉講式	閉講式	閉講式	閉講式	
	9:00	準備・休憩	講義 「不登校児童・生徒の支援と教育相談」 FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男	講義 「特別支援教育と教育相談」 FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男	閉講式	閉講式	閉講式	閉講式	閉講式	閉講式	閉講式	閉講式	

I 研修概要

研修名	いじめの問題に関する指導者養成研修（中央指導者研修）							
担当課 グループ	研修事業課 研修プロデュース室							
研修目的	<p>教員は、児童生徒の命を奪うことにもなるいじめの問題と向き合い、その未然防止及び早期発見と指導に努め、問題の根絶を目指さなければならない。</p> <p>本研修においては、法律及び国の基本方針への理解を深め、特にネットいじめへの対応や保護者との連携の在り方等について学び合うことを通して、組織を育てマネジメントを行う力を身につけた指導者の養成を図る。</p>							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会や教育センター等でいじめの問題を担当する指導主事及びこれに準じる者 ・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、教諭であって、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の企画・運営又は講師等としての活動を行う（予定を含む）者 ・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生 							
開催期日	平成30年5月7日（月）～平成30年5月11日（金）				5日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	120	人	受講者数	116	人	参加率	96.7%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体標準定員 360 人、受講者数 413 人、参加率 114.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	111	5	0	0	0	0	116
割合 (%)	95.7	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	116	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・自分が知らなかった視点を教えていただき、知らないことがいかにまづいか、分かりました。 ・いじめに関する法的な部分、普段の中ではなかなか学ぶことができないことについて知ることができ、分かり易く教えていただいたことで、伝達しやすいです。 ・演習を通して具体的に学ぶ機会が多く、理解をしやすかった。グループワークが多かったことも、様々な実践に触れるよい機会となった。 ・5日間を通して研修内容が系統的に配置されていることもあり、理解が深まった。各講師から「今年は昨年とこの部分を変えた」という声があり、毎年見直しを行いながら改善を加えている様子もわかり、受講者としてありがたいと思った。 ・これからの自分に必要になると思われる内容。普段忙しくて、じっくりと資料を読むことができていない内容だったので勉強になりました。帰ってから自分が行わなければいけない研修についても、資料提供していただけて良かったです。 ・「いじめ」の法による定義と社会通念上の認識の違いがあり、それにより様々な問題が生まれている。この点を改善することの必要性・重要性が様々な事例を通して理解できた。 ・ネットの匿名性の恐ろしさを実感しました。ネットいじめは喫緊の課題であり、それをやめさせることはもちろん、メディア機器をうまく活用することを我々自身、学んでいかねばならないと再認識しました。 ・現代の子どもたちには必要で必ず持っているスマホについて、ルール作りが大切であると改めて確認できた。また、ネットいじめに関して、大人が意識しないと見つからないため、常にアンテナを高くしておきたい。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットいじめに関する内容に特化した講座を取り入れた。
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめの問題に関する保護者との連携、信頼関係構築の在り方」の講義では、保護者側と教師側の双方を体験するロールプレイングの時間を増やす。 ・4会場すべての研修期間を4日間に統一し、全会場で同一内容の研修を提供する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度 いじめの問題に関する指導者養成研修日程(5日間)

【つくば開催】5月7日(月)～5月11日(金)

8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	12:00 12:15	13:00 13:15	14:30 14:45 15:00	16:15 16:30	17:15			
第1日 5/7	休憩 10分 9:00-9:30	受付 (30分) 9:00-9:30	オリエン テーション 30分 (9:30- 10:00)	休憩 10分 10:00-10:30	開講式 20分	「いじめの問題に関する現状と取組」 文部科学省初等中等教育局 児童生徒課生徒指導室長 松林 高樹 (90分) 10:30-12:00	屋食・休憩(80分)	講義 「いじめの問題への取組の 考え方と実践(2)」 関西外国語大学 教授 新井 肇 (90分) 13:00-14:30	休憩 15分 14:45-16:15	協義 「いじめの問題への組織的取組に 関する課題の分析」 関西外国語大学 教授 新井 肇 (90分) 14:45-16:15	休憩 15分 16:30- 17:15	ユニッ トミー ング (45分) 16:30- 17:15
第2日 5/8	≡ー テイ ング(2 0分)	休憩 10分 9:00-10:30	講義・協義 「いじめの問題への組織的な取組の 考え方と実践(1)」 関西外国語大学 教授 新井 肇 (90分) 9:00-10:30	休憩 15分 10:45-12:15	講義・協義 「いじめの問題への組織的な取組の 考え方と実践(2)」 関西外国語大学 教授 新井 肇 (90分) 10:45-12:15	屋食・休憩(80分)	講義・協義 「いじめの問題への組織的な取組の 考え方と実践(3)」 関西外国語大学 教授 新井 肇 (90分) 13:15-14:45	休憩 15分 15:00-16:30	講義・協義 「いじめの問題への組織的な取組の 考え方と実践(4)」 関西外国語大学 教授 新井 肇 (90分) 15:00-16:30	休憩 15分 16:45- 17:15	ユニッ トミー ング (30分) 16:45- 17:15	
第3日 5/9	≡ー テイ ング(2 0分)	休憩 10分 9:00-10:30	講義・協義 「いじめの問題への組織的な取組の 考え方と実践(1)」 日本女子大学 教授 坂田 仰 (90分) 9:00-10:30	休憩 15分 10:45-12:15	講義・協義 「法を踏まえたいじめの問題への対 応(2)」 日本女子大学 教授 坂田 仰 (90分) 10:45-12:15	屋食・休憩(80分)	講義・協義 「法を踏まえたいじめの問題への対 応(3)」 日本女子大学 教授 坂田 仰 (90分) 13:15-14:45	休憩 15分 15:00-16:30	講義・協義 「法を踏まえたいじめの問題への対 応(4)」 日本女子大学 教授 坂田 仰 (90分) 15:00-16:30	休憩 15分 16:45- 17:15	ユニッ トミー ング (30分) 16:45- 17:15	
第4日 5/10	≡ー テイ ング(2 0分)	休憩 10分 9:00-10:30	講義・協義 「ネットいじめの未然防止及び解決 に向けた指導と対応(1)」 鳴門教育大学 教授 阪根 健二 (90分) 9:00-10:30	休憩 15分 10:45-12:15	講義・協義 「ネットいじめの未然防止及び解決 に向けた指導と対応(2)」 鳴門教育大学 教授 阪根 健二 (90分) 10:45-12:15	屋食・休憩(80分)	講義・協義 「いじめの問題に関する保護者との 連携・信頼関係構築の在り方(1)」 日本社会福祉士会 アドバイザー 愛沢 隆一 (90分) 13:15-14:45	休憩 15分 15:00-16:30	講義・協義 「いじめの問題に関する保護者との 連携・信頼関係構築の在り方(2)」 日本社会福祉士会 アドバイザー 愛沢 隆一 (90分) 15:00-16:30	休憩 15分 16:45- 17:15	ユニッ トミー ング (30分) 16:45- 17:15	
第5日 5/11	≡ー テイ ング(2 0分)	休憩 10分 9:00-10:30	講義・協義 「いじめの問題に関するマネジメント の推進(1)」 国立教育政策研究所 総括研究官 藤平 敦 (90分) 9:00-10:30	休憩 15分 10:45-12:15	講義・協義 「いじめの問題に関するマネジメント の推進(2)」 国立教育政策研究所 総括研究官 藤平 敦 (90分) 10:45-12:15	屋食・休憩(80分)	講義・協義 「いじめの問題に関する研修の企画・ 運営・評価」 教職員支援機構 研修プロフェッサー 遠藤 弘太郎 (90分) 13:15-14:45	休憩 15分 15:00-16:30	開講式 20分	休憩 15分 16:45- 17:15		

I 研修概要

研 修 名	いじめの問題に関する指導者養成研修（仙台会場）						
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室						
研 修 目 的	<p>教員は、児童生徒の命を奪うことにもなるいじめの問題と向き合い、その未然防止及び早期発見と指導に努め、問題の根絶を目指さなければならない。</p> <p>本研修においては、法律及び国の基本方針への理解を深め、特にネットいじめへの対応や保護者との連携の在り方等について学び合うことを通して、組織を育てマネジメントを行う力を身につけた指導者の養成を図る。</p>						
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会や教育センター等でいじめの問題を担当する指導主事及びこれに準じる者 ・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、教諭であって、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の企画・運営又は講師等としての活動を行う（予定を含む）者 ・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生 						
開 催 期 日	平成30年9月3日（月）～平成30年9月6日（木）				4日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	80	人	受講者数	71	参加率	88.8%
開 催 場 所	フォレスト仙台（宮城県仙台市）						

※ 全体標準定員 360 人、受講者数 413 人、参加率 114.7%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	66	5	0	0	0	0	71
割合 (%)	93.0	7.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	71						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・4日間の研修内容が大変有意義でした。今まで知りたいと思っていた情報はもちろん、SNS、保護者、具体的な方法、今後のやるべきことを教えていただいたと感じます。</p> <p>・一番印象に残っているのは、3日目の午前、ネットいじめについての講義だ。自分自身がアプリについて、全然知らなかったこと、再確認させられた。どういう環境に育ってきた子どもたちなのか、予め情報収集しておくことは重要だと感じる一方、“心の教育”という根底は不易で変わらないことを忘れずに指導にあたりたいと思った。</p> <p>・「つかむ」「深める」「生かす」という流れにふさわしい内容の研修会でした。講師の先生方がとても魅力的で、様々な気づきや学びを与えてくださったことはもちろんですが、何よりエネルギーをいただきました。これは研修会を企画・運営していただいたプロデューサーの方々の力と強い思いがあったからこそだと思います。</p> <p>・自己有用感を育成したり、学校の取組を整理し、見える化し、具体的な行動を示し、校長やミドルリーダーとしてのマネジメントで問題の起こりにくい、いじめの未然防止に力を入れた学校の取組をしていきたい。</p> <p>・たくさん情報をスライドを通してわかりやすく知ることができた。アイスブレイクやグループでの協議はあっという間に時間が過ぎた。アクティブ・ラーニングではないが、受身ではなく能動的に活動すると、充実感や達成感、人との深まりを覚えた。自分が次回、県に戻って他の先生へ伝える時は、活動を入れた取組をしたい。</p> <p>・実践と関連づけたり、現場を見直したりする機会が設けられていて、理論と実践をつなげて研修することができた。</p> <p>・内容だけでなく研修を行うにあたっての企画の仕方、運営するための手段・評価など、自分自身の体験を通して考えることができたのは良い経験となりました。</p> <p>・どの講師の方も「短縮ver.」で話されていた感じがします。本来5日間のものを4日間にしてくださったので(?)仕方ないと思いますが、ちょっとだけ残念でした。逆に言えば、どの講義も「もう少し聴きたいほど面白かった」ということです。ありがとうございました。</p>
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットいじめに関する内容に特化した講座を取り入れた。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめの問題に関する保護者との連携、信頼関係構築の在り方」の講義では、保護者側と教師側の双方を体験するロールプレイの時間を増やす。 ・4会場すべての研修期間を4日間に統一し、全会場で同一内容の研修を提供する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度 いじめの問題に関する指導者養成研修日程(4日間)

【仙台】9月 3日(月)～9月 6日(木)

8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	12:00	13:00	14:30	14:45	15:00	16:15	16:30	17:00
第1日	受付 (30分)	オリエンテーション (30分)	休憩 10分	開講式 20分	「いじめの問題に関する現状と取組」 文部科学省 文部科学戦略官 坪田 知広 (90分) 10:30-12:00	屋食・休憩(60分)	「いじめの問題の捉え方」 鳴門教育大学 特任教授 森田 洋司 (90分) 13:00-14:30	休憩 15分	「いじめの問題への組織的取組に関する課題の分析」 関西外国語大学 教授 新井 肇 独立行政法人 教職員支援機構 研修プロフェッサー 遠藤 弘太郎 (90分) 14:45-16:15	休憩 15分	ミーティング 30分	
第2日	受付	「いじめの問題への組織的取組の考え方と実践(1)」 関西外国語大学 教授 新井 肇 (90分) 9:00-10:30	休憩 15分	「いじめの問題への組織的取組の考え方と実践(2)」 関西外国語大学 教授 新井 肇 (90分) 10:45-12:15	屋食・休憩(60分)	「法を踏まえたいじめの問題への対応(1)」 戸田 恵蔵 弁護士 (90分) 13:15-14:45	休憩 15分	「法を踏まえたいじめの問題への対応(2)」 戸田 恵蔵 弁護士 (90分) 15:00-16:30	休憩 10分	ミーティング 20分		
第3日	受付	「ネットいじめの未然防止及び解決に向けた指導と対応(1)」 兵庫県立大学 准教授 竹内 和雄 (90分) 9:00-10:30	休憩 15分	「ネットいじめの未然防止及び解決に向けた指導と対応(2)」 兵庫県立大学 准教授 竹内 和雄 (90分) 10:45-12:15	屋食・休憩(60分)	「いじめの問題に関する保護者との連携、信頼関係構築の在り方(1)」 日本社会福祉会・前副会長 愛沢 隆一 愛沢 隆一 (90分) 13:15-14:45	休憩 15分	「いじめの問題に関する保護者との連携、信頼関係構築の在り方(2)」 日本社会福祉会・前副会長 愛沢 隆一 愛沢 隆一 (90分) 15:00-16:30	休憩 10分	ミーティング 20分		
第4日	受付	「いじめの問題に関するマネジメントの推進(1)」 国立教育政策研究所・総括研究官 藤平 敦 (90分) 9:00-10:30	休憩 15分	「いじめの問題に関するマネジメントの推進(2)」 国立教育政策研究所・総括研究官 藤平 敦 (90分) 10:45-12:15	屋食・休憩(60分)	「いじめの問題に関する研修の企画・運営・評価」 教職員支援機構 研修プロフェッサー 倉橋 琢也 (90分) 13:15-14:45	休憩 15分	閉講式 20分				

I 研修概要

研修名	いじめの問題に関する指導者養成研修（京都会場）							
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室							
研修目的	<p>教員は、児童生徒の命を奪うことにもなるいじめの問題と向き合い、その未然防止及び早期発見と指導に努め、問題の根絶を目指さなければならない。</p> <p>本研修においては、法律及び国の基本方針への理解を深め、特にネットいじめへの対応や保護者との連携の在り方等について学び合うことを通して、組織を育てマネジメントを行う力を身につけた指導者の養成を図る。</p>							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会や教育センター等でいじめの問題を担当する指導主事及びこれに準じる者 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、教諭であって、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の企画・運営又は講師等としての活動を行う（予定を含む）者 当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生 							
開催期日	平成30年5月29日（火）～平成30年6月1日（金）			4日間				
受講人数	標準定員 (計画人数)	80	人	受講者数	138	人	参加率	172.5%
開催場所	京都テルサ（京都府京都市）							

※ 全体標準定員 360 人、受講者数 413 人、参加率 114.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	120	12	0	0	1	5	138
割合 (%)	90.2	9.0	0.0	0.0	0.7	3.6	
	132						
	99.2						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> いじめの定義を再確認できた。また、いじめ防止対策推進法についての理解を深めることができた。 国の法律がどのような背景があつて、どのようなねらいを持って作られたか、よく理解できた。話を聞いて、いじめの認知、組織対応の重要性を再確認できた。 「いじめ」の現状について詳しく確認することができました。「いじめ」の定義や認知について、最新の情報を交えて詳しく伺うことができ、一番最初の導入の講義として大変有意義でした。 1日目の1コマ目で「入り口が大切である」の一言は身の引き締まる言葉でした。いじめについての先生の思いや子ども・保護者の気持ちや思いを、そして事実をデータを基にお話いただいたことは、受け止める側としてはありがたい思いになりました。事実や思いはストレートに伝えていきます。 個々が捉えているいじめと法におけるいじめのギャップを組織として捉え直しをしなければならない。いじめの認知は解消に向けたスタートラインであると、プラス評価できる意識にしていきたい。 上司や管理職とのコミュニケーション、環境でだいぶ報告の仕方、スムーズさで違ってくるということが改めて分かった。普段からの「連携体制」「子どもを守る」という姿勢を忘れず、安全・安心な学校を目指していきたい。 具体的な事例が多く、組織的にどのように対応すべきか、よくわかった。今後、研修を実施する際のイメージもつかみやすい。 いじめ問題に対し、未然防止の取組・早期対応の際のリスクマネジメント・対処の方策等、取組に必要な側面に関する内容を網羅した講義（研修）であり、とても役立つ内容であった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ネットいじめに関する内容に特化した講座を取り入れた。
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 「いじめの問題に関する保護者との連携、信頼関係構築の在り方」の講義では、保護者側と教師側の双方を体験するロールプレイの時間を増やす。 4会場すべての研修期間を4日間に統一し、全会場で同一内容の研修を提供する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度 いじめの問題に関する指導者養成研修日程(4日間)

【京都】5月29日(火)～6月1日(金)

8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	12:00	13:00	14:30	14:45	15:00	16:15	16:30	17:00	
第1日 5/29	受付 (30分)	オリエンテーション	休憩 10分	開講式 20分	「いじめの問題に関する現状と取組」 文部科学省 初等中等教育局児童生徒課長 坪田 知広 (90分) 10:30-12:00	屋食・休憩(60分)	「いじめの問題の捉え方」 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター 客員研究員 滝 充 (90分) 13:00-14:30	休憩 15分	「いじめの問題への組織的取組に関する課題の分析」 愛媛大学 教授 平松 義樹 (90分) 14:45-16:15		休憩 15分	ミーティング 30分		
			休憩 15分	「法を踏まえたいじめの問題への対応(1)」 戸田 恵蔵 (90分) 13:15-14:45		休憩 15分	「法を踏まえたいじめの問題への対応(2)」 戸田 恵蔵 (90分) 15:00-16:30		休憩 10分	ミーティング 20分				
第2日 5/30	受付	「いじめの問題への組織的取組の考え方と実践(1)」 愛媛大学 教授 平松 義樹 (90分) 9:00-10:30		休憩 15分	「いじめの問題への組織的取組の考え方と実践(2)」 愛媛大学 教授 平松 義樹 (90分) 10:45-12:15		屋食・休憩(60分)	「ネットいじめの未然防止及び解決に向けた指導と対応(1)」 鳴門教育大学 教授 阪根 健二 (90分) 9:00-10:30		休憩 15分	「ネットいじめの未然防止及び解決に向けた指導と対応(2)」 鳴門教育大学 教授 阪根 健二 (90分) 10:45-12:15		休憩 10分	ミーティング 20分
		「いじめの問題に関するマネジメントの推進(1)」 国立教育政策研究所・総括研究官 藤平 敦 (90分) 9:00-10:30		休憩 15分	「いじめの問題に関するマネジメントの推進(2)」 国立教育政策研究所・総括研究官 藤平 敦 (90分) 10:45-12:15		屋食・休憩(60分)	「いじめの問題に関する研修の企画・運営・評価」 教職員支援機構 研修特別研究員 吉田 尚史 (90分) 13:15-14:45		休憩 15分	閉講式 20分		休憩 10分	ミーティング 20分
第3日 5/31	受付	「ネットいじめの未然防止及び解決に向けた指導と対応(1)」 鳴門教育大学 教授 阪根 健二 (90分) 9:00-10:30		休憩 15分	「ネットいじめの未然防止及び解決に向けた指導と対応(2)」 鳴門教育大学 教授 阪根 健二 (90分) 10:45-12:15		屋食・休憩(60分)	「いじめの問題に関する保護者との連携、信頼関係構築の在り方(1)」 神田外語大学 特任教授 嶋崎 政男 (90分) 13:15-14:45		休憩 15分	「いじめの問題に関する保護者との連携、信頼関係構築の在り方(2)」 神田外語大学 特任教授 嶋崎 政男 (90分) 15:00-16:30		休憩 10分	ミーティング 20分
		「いじめの問題に関するマネジメントの推進(1)」 国立教育政策研究所・総括研究官 藤平 敦 (90分) 9:00-10:30		休憩 15分	「いじめの問題に関するマネジメントの推進(2)」 国立教育政策研究所・総括研究官 藤平 敦 (90分) 10:45-12:15		屋食・休憩(60分)	「いじめの問題に関する研修の企画・運営・評価」 教職員支援機構 研修特別研究員 吉田 尚史 (90分) 13:15-14:45		休憩 15分	閉講式 20分		休憩 10分	ミーティング 20分
第4日 6/1	受付	「ネットいじめの未然防止及び解決に向けた指導と対応(1)」 鳴門教育大学 教授 阪根 健二 (90分) 9:00-10:30		休憩 15分	「ネットいじめの未然防止及び解決に向けた指導と対応(2)」 鳴門教育大学 教授 阪根 健二 (90分) 10:45-12:15		屋食・休憩(60分)	「いじめの問題に関する保護者との連携、信頼関係構築の在り方(1)」 神田外語大学 特任教授 嶋崎 政男 (90分) 13:15-14:45		休憩 15分	「いじめの問題に関する保護者との連携、信頼関係構築の在り方(2)」 神田外語大学 特任教授 嶋崎 政男 (90分) 15:00-16:30		休憩 10分	ミーティング 20分
		「いじめの問題に関するマネジメントの推進(1)」 国立教育政策研究所・総括研究官 藤平 敦 (90分) 9:00-10:30		休憩 15分	「いじめの問題に関するマネジメントの推進(2)」 国立教育政策研究所・総括研究官 藤平 敦 (90分) 10:45-12:15		屋食・休憩(60分)	「いじめの問題に関する研修の企画・運営・評価」 教職員支援機構 研修特別研究員 吉田 尚史 (90分) 13:15-14:45		休憩 15分	閉講式 20分		休憩 10分	ミーティング 20分

I 研修概要

研修名	いじめの問題に関する指導者養成研修（福岡会場）							
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室							
研修目的	<p>教員は、児童生徒の命を奪うことにもなるいじめの問題と向き合い、その未然防止及び早期発見と指導に努め、問題の根絶を目指さなければならない。</p> <p>本研修においては、法律及び国の基本方針への理解を深め、特にネットいじめへの対応や保護者との連携の在り方等について学び合うことを通して、組織を育てマネジメントを行う力を身につけた指導者の養成を図る。</p>							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会や教育センター等でいじめの問題を担当する指導主事及びこれに準じる者 ・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、教諭であって、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の企画・運営又は講師等としての活動を行う（予定を含む）者 ・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生 							
開催期日	平成30年5月15日（火）～平成30年5月18日（金）					4日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	80	人	受講者数	88	人	参加率	110.0%
開催場所	福岡国際会議場（福岡県福岡市）							

※ 全体標準定員 360 人、受講者数 413 人、参加率 114.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	81	4	0	0	3	0	88
割合 (%)	95.3	4.7	0.0	0.0	3.4	0.0	
	85						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの問題を中心としながらも、学校の対応や生徒にどう寄り添うかなど、いじめ問題以外の部分も考えることができた。この内容を学校に持ち帰り、伝えていきたい。 ・いじめについて、法的なこと、組織に関すること、ネットに関すること、予防に関することなど、たくさんの知識を深めることができました。指導主事として、今後研修をする上で大きな財産となると思います。 ・いじめ問題への対応等について、知っているつもりだったが、それぞれの講師の専門的見地から、いじめの捉え方・早期対応、マネジメント等の知識・手法等を得ることができたため。現場の先生方に広めたいという意識が向上した。 ・講義・協議を織り交ぜ、内容もさることながら、講師のプレゼンテーション能力に感動した。 ・教師としての生き方よりも、人としての接し方・子どもを人としてきちんと見て接することの大切さ、人として生きることの大切さを感じさせられました。謙虚に物事に当たること、思い込み、自分の物差しだけで考えることの怖さを考えました。 ・いじめ問題への対応等について、知っているつもりだったが、それぞれの講師の専門的見地から、いじめの捉え方・早期対応、マネジメント等の知識・手法等を得ることができたため。現場の先生方に広めたいという意識が向上した。 ・いじめの問題を中心としながらも、学校の対応や生徒にどう寄り添うかなど、いじめ問題以外の部分も考えることができた。この内容を学校に持ち帰り、伝えていきたい。 ・いじめに対する最新の考え方・アプローチの仕方を理論面・実践面の両面から学ぶことができた。また、他県の先生方と問題を共有することができ、ネットワークが構築できた。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットいじめに関する内容に特化した講座を取り入れた。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめの問題に関する保護者との連携、信頼関係構築の在り方」の講義では、保護者側と教師側の双方を体験するロールプレイの時間を増やす。 ・4会場すべての研修期間を4日間に統一し、全会場で同一内容の研修を提供する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度 いじめの問題に関する指導者養成研修日程(4日間)

【福岡】5月15日(火)～5月18日(金)

8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	12:00	13:00	14:30	14:45	15:00	16:15	16:30	17:00
第1日 5/15	受付 (30分)	オリエンテーション	休憩 10分	開講式 20分	「いじめの問題に関する現状と取組」 文部科学省 初等中等教育局児童生徒課長 坪田 知広 (90分) 10:30-12:00	屋食・休憩(60分)	「いじめの問題の捉え方」 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター 客員研究員 滝 充 (90分) 13:00-14:30	休憩 15分	「いじめの問題への組織的取組に関する課題の分析」 愛媛大学 教授 平松 義樹 (90分) 14:45-16:15		休憩 15分	ミーティング 30分	
			休憩 15分	「いじめの問題への組織的取組の考え方と実践(1)」 愛媛大学 教授 平松 義樹 (90分) 9:00-10:30	「いじめの問題への組織的取組の考え方と実践(2)」 愛媛大学 教授 平松 義樹 (90分) 10:45-12:15	屋食・休憩(60分)	「法を踏まえたいじめの問題への対応(1)」 弁護士 三ツ角 直正 (90分) 13:15-14:45	休憩 15分	「法を踏まえたいじめの問題への対応(2)」 弁護士 三ツ角 直正 (90分) 15:00-16:30	休憩 10分	ミーティング 20分		
第2日 5/16	受付	「ネットいじめの未然防止及び解決に向けた指導と対応(1)」 兵庫県立大学 准教授 竹内 和雄 (90分) 9:00-10:30	休憩 15分	「ネットいじめの未然防止及び解決に向けた指導と対応(2)」 兵庫県立大学 准教授 竹内 和雄 (90分) 10:45-12:15	「ネットいじめの問題に関する保護者との連携、信頼関係構築の在り方(1)」 神田外国語大学 特任教授 嶋崎 政男 (90分) 13:15-14:45	屋食・休憩(60分)	「いじめの問題に関する保護者との連携、信頼関係構築の在り方(2)」 神田外国語大学 特任教授 嶋崎 政男 (90分) 15:00-16:30	休憩 15分	「いじめの問題に関する保護者との連携、信頼関係構築の在り方(2)」 神田外国語大学 特任教授 嶋崎 政男 (90分) 15:00-16:30		休憩 10分	ミーティング 20分	
								休憩 15分	「いじめの問題に関するマネジメントの推進(1)」 国立教育政策研究所・総括研究官 藤平 敦 (90分) 9:00-10:30	「いじめの問題に関するマネジメントの推進(2)」 国立教育政策研究所・総括研究官 藤平 敦 (90分) 10:45-12:15	屋食・休憩(60分)	「いじめの問題に関する研修の企画・運営・評価」 教職員支援機構 研修プログラムセンター 倉橋 琢也 (90分) 13:15-14:45	休憩 15分
第3日 5/17	受付	「いじめの問題に関するマネジメントの推進(1)」 国立教育政策研究所・総括研究官 藤平 敦 (90分) 9:00-10:30	休憩 15分	「いじめの問題に関するマネジメントの推進(2)」 国立教育政策研究所・総括研究官 藤平 敦 (90分) 10:45-12:15	「いじめの問題に関するマネジメントの推進(1)」 国立教育政策研究所・総括研究官 藤平 敦 (90分) 9:00-10:30	屋食・休憩(60分)	「いじめの問題に関するマネジメントの推進(2)」 国立教育政策研究所・総括研究官 藤平 敦 (90分) 10:45-12:15	休憩 15分	「いじめの問題に関するマネジメントの推進(2)」 国立教育政策研究所・総括研究官 藤平 敦 (90分) 10:45-12:15		休憩 15分	閉講式 20分	
								休憩 15分	「いじめの問題に関するマネジメントの推進(2)」 国立教育政策研究所・総括研究官 藤平 敦 (90分) 10:45-12:15	屋食・休憩(60分)	「いじめの問題に関する研修の企画・運営・評価」 教職員支援機構 研修プログラムセンター 倉橋 琢也 (90分) 13:15-14:45	休憩 15分	閉講式 20分
第4日 5/18	受付	「いじめの問題に関するマネジメントの推進(1)」 国立教育政策研究所・総括研究官 藤平 敦 (90分) 9:00-10:30	休憩 15分	「いじめの問題に関するマネジメントの推進(2)」 国立教育政策研究所・総括研究官 藤平 敦 (90分) 10:45-12:15	「いじめの問題に関するマネジメントの推進(1)」 国立教育政策研究所・総括研究官 藤平 敦 (90分) 9:00-10:30	屋食・休憩(60分)	「いじめの問題に関するマネジメントの推進(2)」 国立教育政策研究所・総括研究官 藤平 敦 (90分) 10:45-12:15	休憩 15分	「いじめの問題に関するマネジメントの推進(2)」 国立教育政策研究所・総括研究官 藤平 敦 (90分) 10:45-12:15		休憩 15分	閉講式 20分	
								休憩 15分	「いじめの問題に関するマネジメントの推進(2)」 国立教育政策研究所・総括研究官 藤平 敦 (90分) 10:45-12:15	屋食・休憩(60分)	「いじめの問題に関する研修の企画・運営・評価」 教職員支援機構 研修プログラムセンター 倉橋 琢也 (90分) 13:15-14:45	休憩 15分	閉講式 20分

I 研修概要

研修名	外国人児童生徒等に対する日本語指導 指導者養成研修【管理者用コース】									
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室									
研修目的	日本語指導が必要な児童生徒等の増加等を踏まえ、これらの児童生徒に対し適応指導・日本語指導を行うとともに、関係機関と連携し、受入れ体制を整備するなど、学校全体できめ細かな対応を図ることが重要である。 本研修では、学校全体での外国人児童生徒の受入れ体制の整備、関係機関との連携、日本語指導の方法等について、必要な知識等を習得させ、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。									
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの外国人児童生徒等教育担当者並びにこれらに準じる者 ・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者として活動を行う者 ・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生 									
開催期日	平成30年6月19日（火）～平成30年6月20日（水）					2日間				
受講人数	標準定員 (計画人数)	40	人	受講者数	43	人	参加率	107.5%		
開催場所	三重県総合教育センター（三重県津市）									

※ 全体標準定員 100 人、受講者数 116 人、参加率 116.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	35	7	0	0	1	0	43
割合 (%)	81.4	16.3	0.0	0.0	2.3	0.0	
	42	97.7					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導の根本ともなる考え方、体制整備の在り方、他県の実践例などを知ることが出来、とても勉強になりました。 ・外国人児童生徒に対する日本語指導について現状と課題、その指導や支援体制について、とても詳しく講話や事例協議が行われ、これから何が必要で現場の先生方へはどのような点に注意をしていけばよいのか等の助言をするにあたり、大変勉強になる研修でありました。 ・広域行政の立場としては、受け入れ態勢構築支援と予算獲得が主なミッションになります。その根拠となる情報を講師の先生や他府県の方々からいただいたことが一番大きかったです。 ・実践校の取り組みを小・中・高・教育委員会とすべて聞いたことは勉強になった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校視察では、授業を行った担当者と受講者の交流の時間を設けた。 ・特別の教育課程に取り組んでいる学校を紹介した内容を講義し、県、市、学校の管理者の事例発表協議につなげた。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本語指導者用コース」と「管理者用コース」の2コース制を廃止し、「管理者用コース」のみに一本化することにより、各地域で中核となって活躍する指導者養成に焦点化する。 ・研修成果の活用を促進するため、事前に研修成果活用計画書を事前課題として課し、研修プラン作成の演習を充実させる。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修 日程表

【第1日目】	8:45	9:15	9:40	10:20	10:30	12:00	13:00	15:50	16:00	17:00
	面コース共通									
6月19日(火)	開講式・オリエンテーション	施設説明 「外国人児童生徒等に対する文部科学省の施策について」 講師 文部科学省 初等中等教育局 国際教育課 日本語指導係長 宮田 緑	講義1 「外国人児童生徒等教育の現状と課題」 講師 明治大学 特任教授 佐藤 郡衛	昼食	講義2・事例協議1 「子どものための日本語教育プログラム—個別の指導計画を立てるために—」 【講義】 講師 東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ	休憩	講義3 「外国人児童生徒等教育の現状と課題」 講師 明治大学 特任教授 佐藤 郡衛	講義4 「外国人児童生徒等教育の現状と課題」 講師 明治大学 特任教授 佐藤 郡衛	講義5 「外国人児童生徒等教育の現状と課題」 講師 明治大学 特任教授 佐藤 郡衛	講義6 「外国人児童生徒等教育の現状と課題」 講師 明治大学 特任教授 佐藤 郡衛
	受付	目的：外国人児童生徒等教育の現状と課題について学び、外国人児童生徒等の生活及び学習上の課題等を社会的、文化的、心理的側面から理解し、指導や支援の在り方について学ぶ。	目的：学校現場における外国人児童生徒等の受入れ状況や指導体制について学び、外国人児童生徒等の生活及び学習上の課題等を社会的、文化的、心理的側面から理解し、指導や支援の在り方について学ぶ。	目的：外国人児童生徒等の受入れ体制における課題解決策の検討	目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報共有し、今後の課題解決への糸口を探る。	目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報共有し、今後の課題解決への糸口を探る。	目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報共有し、今後の課題解決への糸口を探る。	目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報共有し、今後の課題解決への糸口を探る。	目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報共有し、今後の課題解決への糸口を探る。	目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報共有し、今後の課題解決への糸口を探る。

【第2日目】	8:30	9:20	9:35	11:50	12:50	14:00	14:10	16:30	16:45	17:00	
	管理者用コース										
6月20日(水)	講義3 「外国人児童生徒等の教育に關し、体制整備とその他について学ぶ。」 講師 京都教育大学 教授 浜田 麻里	講義4 「外国人児童生徒等の教育に關し、体制整備とその他について学ぶ。」 講師 京都教育大学 教授 浜田 麻里	講義5 「外国人児童生徒等の教育に關し、体制整備とその他について学ぶ。」 講師 京都教育大学 教授 浜田 麻里	講義6 「外国人児童生徒等の教育に關し、体制整備とその他について学ぶ。」 講師 京都教育大学 教授 浜田 麻里	講義7 「外国人児童生徒等の教育に關し、体制整備とその他について学ぶ。」 講師 京都教育大学 教授 浜田 麻里	講義8 「外国人児童生徒等の教育に關し、体制整備とその他について学ぶ。」 講師 京都教育大学 教授 浜田 麻里	講義9 「外国人児童生徒等の教育に關し、体制整備とその他について学ぶ。」 講師 京都教育大学 教授 浜田 麻里	講義10 「外国人児童生徒等の教育に關し、体制整備とその他について学ぶ。」 講師 京都教育大学 教授 浜田 麻里	講義11 「外国人児童生徒等の教育に關し、体制整備とその他について学ぶ。」 講師 京都教育大学 教授 浜田 麻里	講義12 「外国人児童生徒等の教育に關し、体制整備とその他について学ぶ。」 講師 京都教育大学 教授 浜田 麻里	講義13 「外国人児童生徒等の教育に關し、体制整備とその他について学ぶ。」 講師 京都教育大学 教授 浜田 麻里
	目的：外国人児童生徒等の教育に關し、体制整備とその他について学ぶ。	目的：外国人児童生徒等の教育に關し、体制整備とその他について学ぶ。	目的：外国人児童生徒等の教育に關し、体制整備とその他について学ぶ。	目的：外国人児童生徒等の教育に關し、体制整備とその他について学ぶ。							

【第3日目】	8:30	9:20	9:35	11:50	12:50	14:00	14:10	16:30	16:45	17:00	
	日本語指導者用コース										
6月20日(水)	実践先遣校視察 Aコース (四日市市立笹川東小学校又は同市立笹川西小学校) 8:00 四日市駅(集合) Bコース (三重県立飯野高等学校) 8:15 白子駅(集合) Cコース (初期適応支援教室「いっほ」) 8:15 松阪駅(集合)	講義1 「外国人児童生徒等の教育に關し、体制整備とその他について学ぶ。」 講師 京都教育大学 教授 浜田 麻里	講義2 「外国人児童生徒等の教育に關し、体制整備とその他について学ぶ。」 講師 京都教育大学 教授 浜田 麻里	講義3 「外国人児童生徒等の教育に關し、体制整備とその他について学ぶ。」 講師 京都教育大学 教授 浜田 麻里	講義4 「外国人児童生徒等の教育に關し、体制整備とその他について学ぶ。」 講師 京都教育大学 教授 浜田 麻里	講義5 「外国人児童生徒等の教育に關し、体制整備とその他について学ぶ。」 講師 京都教育大学 教授 浜田 麻里	講義6 「外国人児童生徒等の教育に關し、体制整備とその他について学ぶ。」 講師 京都教育大学 教授 浜田 麻里	講義7 「外国人児童生徒等の教育に關し、体制整備とその他について学ぶ。」 講師 京都教育大学 教授 浜田 麻里	講義8 「外国人児童生徒等の教育に關し、体制整備とその他について学ぶ。」 講師 京都教育大学 教授 浜田 麻里	講義9 「外国人児童生徒等の教育に關し、体制整備とその他について学ぶ。」 講師 京都教育大学 教授 浜田 麻里	講義10 「外国人児童生徒等の教育に關し、体制整備とその他について学ぶ。」 講師 京都教育大学 教授 浜田 麻里
	目的：三重県内の外国人児童生徒等の指導体制や教育実践で先進的な取り組みを行っている学校や支援教室を訪問し、初期段階の適応支援・日本語指導の実態や、「JSLカリキュラム」による教科と日本語の統合学習の授業を参観する。フィールド(現場)での観察や情報収集を通して、地域の実態に応じた支援の仕組みや指導内容・方法について学ぶ。	目的：外国人児童生徒等の教育に關し、体制整備とその他について学ぶ。									

※日程等について変更することがあります。

I 研修概要

研修名	外国人児童生徒等に対する日本語指導 指導者養成研修【日本語指導者用コース】									
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室									
研修目的	日本語指導が必要な児童生徒等の増加等を踏まえ、これらの児童生徒に対し適応指導・日本語指導を行うとともに、関係機関と連携し、受入れ体制を整備するなど、学校全体できめ細かな対応を図ることが重要である。 本研修では、学校全体での外国人児童生徒の受入れ体制の整備、関係機関との連携、日本語指導の方法等について、必要な知識等を習得させ、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。									
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの外国人児童生徒等教育担当者並びにこれらに準じる者 外国人児童生徒等に対する日本語指導等について経験を有する小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校等の主幹教諭、指導教諭及び教諭等であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者として活動を行う者 当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生 									
開催期日	平成30年6月19日（火）～平成30年6月22日（金）					4日間				
受講人数	標準定員 (計画人数)	60	人	受講者数	73	人	参加率	121.7%		
開催場所	三重県総合教育センター（三重県津市）									

※ 全体標準定員 100 人、受講者数 116 人、参加率 116.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	59	14	0	0	0	0	73
割合 (%)	80.8	19.2	0.0	0.0	0.0	0.0	
	73	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> 実践校の視察、実践発表、具体的な先生方からの講話など、研修機会がなかなかないので、情報を知ることができた。実際にDLAの体験や教材研究も良かった。 自分自身の力を高めるのはもちろんのこと、校内や地域、他の機関とも連携していき、チームとして取り組むことが大切だと、改めて感じました。 今回学んだことをまず自校で実践し、できるだけ多くの先生方（まずは県／教育事務所管内）に伝達を行いたいと思います。たくさんの資料や先生方の実践は、これからの指導に必ず生かしていきたいと強く思いました。4日間の研修では、他県（都道府）の先生方と出会い、各地の現状や指導方法、教材等の情報交換をすることができました。とても貴重な体験になりました。 日本語指導の経験もなく、初めは不安いっぱいでしたが、今年度入学してきた外国人児童に、自分ができることをこの場に学びに来たんだ！という目的がだんだんはっきりとし、そして、やれそうなことをたくさん見つけ、いただきました。そして、一番思ったことは特別なことではない、子どもたちに分かる授業を！ということです。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校視察では、授業を行った担当者と受講者の交流の時間を設けた。 3日目は3プログラム共通で授業づくりに関する講義を入れ、その後、各プログラムに分かれての講義、演習を進めた。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 「日本語指導者用コース」と「管理者用コース」の2コース制を廃止し、「管理者用コース」のみに一本化することにより、各地域で中核となって活躍する指導者養成に焦点化する。 研修成果の活用を促進するため、事前に研修成果活用計画書を事前課題として課し、研修プラン作成の演習を充実させる。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修 日程表

【第1日目】	8:45	9:15	9:40	10:20	10:30	12:00	13:00	15:50	16:00	17:00	
	面コース共通										
6月19日(火)	開講式・オリエンテーション	【施設説明】 「外国人児童生徒等に対する文部科学省の施策について」 講師 文部科学省 初等中等教育局 国際教育課 日本語指導係長 宮田 緑	【講義1】 「外国人児童生徒等教育の現状と課題」 講師 明治大学 特任教授 佐藤 郡衛	【講義2・事例協議1】 「子どものための日本語教育プログラム—個別の指導計画を立てるために—」 【講義】 講師 東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ	【事例発表】 事例1 群馬県大泉町立西小学校 教諭 市川 昭彦 事例2 横浜市長見中学校 教諭 熱海 まき子 事例3 学校で実施されている日本語プログラムについて知り、「特別の教育課程」の導入が必要となる「個別の指導計画」の立て方を学び、小中学校の事例をもとに検討する。	【事例発表】 事例1 群馬県大泉町立西小学校 教諭 市川 昭彦 事例2 横浜市長見中学校 教諭 熱海 まき子 事例3 学校で実施されている日本語プログラムについて知り、「特別の教育課程」の導入が必要となる「個別の指導計画」の立て方を学び、小中学校の事例をもとに検討する。	【事例発表】 事例1 群馬県大泉町立西小学校 教諭 市川 昭彦 事例2 横浜市長見中学校 教諭 熱海 まき子 事例3 学校で実施されている日本語プログラムについて知り、「特別の教育課程」の導入が必要となる「個別の指導計画」の立て方を学び、小中学校の事例をもとに検討する。	【事例発表】 事例1 群馬県大泉町立西小学校 教諭 市川 昭彦 事例2 横浜市長見中学校 教諭 熱海 まき子 事例3 学校で実施されている日本語プログラムについて知り、「特別の教育課程」の導入が必要となる「個別の指導計画」の立て方を学び、小中学校の事例をもとに検討する。	【事例発表】 事例1 群馬県大泉町立西小学校 教諭 市川 昭彦 事例2 横浜市長見中学校 教諭 熱海 まき子 事例3 学校で実施されている日本語プログラムについて知り、「特別の教育課程」の導入が必要となる「個別の指導計画」の立て方を学び、小中学校の事例をもとに検討する。	【事例発表】 事例1 群馬県大泉町立西小学校 教諭 市川 昭彦 事例2 横浜市長見中学校 教諭 熱海 まき子 事例3 学校で実施されている日本語プログラムについて知り、「特別の教育課程」の導入が必要となる「個別の指導計画」の立て方を学び、小中学校の事例をもとに検討する。	【事例発表】 事例1 群馬県大泉町立西小学校 教諭 市川 昭彦 事例2 横浜市長見中学校 教諭 熱海 まき子 事例3 学校で実施されている日本語プログラムについて知り、「特別の教育課程」の導入が必要となる「個別の指導計画」の立て方を学び、小中学校の事例をもとに検討する。
	目的： 外国人児童生徒等の受入れ体制について先進的な地域の取組の理解を深める。										

【第2日目】	8:30	9:20	9:35	11:50	12:50	14:00	14:10	16:30	16:45	17:00	
	管理者用コース										
6月20日(水)	【講義3】 「外国人児童生徒等の指導・支援体制づくり～その課題と可能性～」 講師 京都教育大学 教授 浜田 麻里	【事例発表】 事例1 佐賀県教育庁 学校教育課 指導主事 鶴田 智樹 事例2 門真市立砂子小学校 校長 菅戸 利子 事例3 岐阜県立東濃高等学校 教諭 吉田 益穂	【事例発表】 事例1 佐賀県教育庁 学校教育課 指導主事 鶴田 智樹 事例2 門真市立砂子小学校 校長 菅戸 利子 事例3 岐阜県立東濃高等学校 教諭 吉田 益穂	【事例発表】 事例1 佐賀県教育庁 学校教育課 指導主事 鶴田 智樹 事例2 門真市立砂子小学校 校長 菅戸 利子 事例3 岐阜県立東濃高等学校 教諭 吉田 益穂	【事例発表】 事例1 佐賀県教育庁 学校教育課 指導主事 鶴田 智樹 事例2 門真市立砂子小学校 校長 菅戸 利子 事例3 岐阜県立東濃高等学校 教諭 吉田 益穂	【事例発表】 事例1 佐賀県教育庁 学校教育課 指導主事 鶴田 智樹 事例2 門真市立砂子小学校 校長 菅戸 利子 事例3 岐阜県立東濃高等学校 教諭 吉田 益穂	【事例発表】 事例1 佐賀県教育庁 学校教育課 指導主事 鶴田 智樹 事例2 門真市立砂子小学校 校長 菅戸 利子 事例3 岐阜県立東濃高等学校 教諭 吉田 益穂	【事例発表】 事例1 佐賀県教育庁 学校教育課 指導主事 鶴田 智樹 事例2 門真市立砂子小学校 校長 菅戸 利子 事例3 岐阜県立東濃高等学校 教諭 吉田 益穂	【事例発表】 事例1 佐賀県教育庁 学校教育課 指導主事 鶴田 智樹 事例2 門真市立砂子小学校 校長 菅戸 利子 事例3 岐阜県立東濃高等学校 教諭 吉田 益穂	【事例発表】 事例1 佐賀県教育庁 学校教育課 指導主事 鶴田 智樹 事例2 門真市立砂子小学校 校長 菅戸 利子 事例3 岐阜県立東濃高等学校 教諭 吉田 益穂	【事例発表】 事例1 佐賀県教育庁 学校教育課 指導主事 鶴田 智樹 事例2 門真市立砂子小学校 校長 菅戸 利子 事例3 岐阜県立東濃高等学校 教諭 吉田 益穂
	目的： 外国人児童生徒等の受入れ体制について先進的な地域の取組の理解を深める。										

6月20日(水)	8:30	9:20	9:35	11:50	12:50	14:00	14:10	16:30	16:45	17:00	
	日本語指導者用コース										
6月20日(水)	【実践先遣校視察】 Aコース (四日市市立笹川東小学校又は同市立笹川西小学校) 8:00 四日市駅(集合) Bコース (三重県立飯野高等学校) 8:15 白子駅(集合) Cコース (初期適応支援教室「いっほ」) 8:15 松阪駅(集合)	【講義4】 「外国人児童生徒等のためのJSL対話型アセスメントDLA～日本語能力の評価の在り方」 講師 東京外国語大学 副学長 伊東 祐郎 【DLAの取組事例発表】 豊橋市立飯村小学校 大谷 喜久代									
	目的： 三重県内の外国人児童生徒等の指導体制や教育実践で先進的な取組を行っている学校や支援教室を訪問し、初期段階の適応支援・日本語指導の実態や、「JSLカリキュラム」による教科と日本語の統合学習の授業を参観する。フィールド(現場)での観察や情報収集を通して、地域の実態に応じた支援の仕組みや指導内容・方法について学ぶ。										

※日程等について変更することがあります。

【第3日目】	8:30 日本語指導者用コース [3プログラム共通] 講義 「日本語指導の方法と授業づくり～初期指導・中期指導・教科指導～」 講師 東京学芸大学 齋藤 ひろみ 教授	10:30 10:45 日本語指導者用コース [初期指導プログラム 講義・演習] 講義 「日本語初期指導における授業づくり」 講師・指導助言者 愛知県豊橋市教育委員会 外国人児童生徒教育相談員 齋藤 櫻井 千穂 同志社大学 准教授	12:00 13:00 昼食 博士 千穂	13:00 演習 「日本語初期指導の活動計画の実践」 目的： 日本語初期指導のプログラム「サバイバル日本語」「日本語基礎（語彙・文型）」の学習指導計画を作成することを通して、初期段階の日本語指導について理解を深め、授業を実践する力を高める。	17:00 各ユニットでプログラム内容の共有
6月21日(木)	日本語指導者用コース [中期・後期指導プログラム 講義・演習] 講義 「日本語中期・後期指導における授業づくり」 講師・指導助言者 港区立第一小学校 主任教諭 花島 健司 東京学芸大学 准教授 菅原 雅枝	12:00 13:00 昼食	13:00 演習 「日本語中期・後期指導の活動計画の実践」 目的： 日本語の「読む」「書く」技能を中心にした活動の学習指導計画を作成し、中期・後期段階の日本語指導について理解を深め、授業を実践する力を高める。	17:00 各ユニットでプログラム内容の共有	
	日本語指導者用コース [教科指導実践プログラム 講義・演習] 講義 「JSLカリキュラムの授業づくり」 講師・指導助言者 甲府市立大國小学校 教諭 今澤 慎 京都市教育委員会 指導主事 大菅 佐紀子 愛知教育大学 准教授 川口 直巳	12:00 13:00 昼食	13:00 演習 「JSLカリキュラムの実践」 目的： JSLカリキュラムの授業づくり 目的： 日常会話ができる児童生徒を対象とした「読む力・書く力」を高めるための日本語プログラムの内容と指導方法について知り、事例をもとに授業の立て方、授業運営上の留意点について学ぶ。	17:00 各ユニットでプログラム内容の共有	

【第4日目】	8:30 日本語指導者用コース [3プログラム共通] 全体発表・協議 「日本語指導の実践～全体発表・協議～」 指導助言者 東京学芸大学 教授 外国人児童生徒教育相談員 齋藤 ひろみ 同志社大学 准教授 櫻井 千穂 港区立第一小学校 主任教諭 花島 健司 甲府市立大國小学校 教諭 今澤 慎 京都市教育委員会 指導主事 大菅 佐紀子 愛知教育大学 准教授 川口 直巳	10:30 10:45 休憩	12:00 13:00 昼食	13:00 講義5 「外国人児童生徒等教育を推進するリーダーとして～研修を設計する～」 講師 東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ 目的： 外国人児童生徒等教育の研修（校内研修、担当者研修、支援者研修等）を設計することを通して、本研修で学んだことを振り返るとともに、本研修の成果をこの教育に関わる教員・地域の支援者等と共有し、教育コミュニケーションを形成するための案を検討する。	14:45 15:00 閉講式
6月22日(金)	日本語指導者用コース [3プログラム共通] 全体発表・協議 「日本語指導の実践～全体発表・協議～」 指導助言者 東京学芸大学 教授 外国人児童生徒教育相談員 齋藤 ひろみ 同志社大学 准教授 櫻井 千穂 港区立第一小学校 主任教諭 花島 健司 甲府市立大國小学校 教諭 今澤 慎 京都市教育委員会 指導主事 大菅 佐紀子 愛知教育大学 准教授 川口 直巳	12:00 13:00 昼食	13:00 講義5 「外国人児童生徒等教育を推進するリーダーとして～研修を設計する～」 講師 東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ 目的： 外国人児童生徒等教育の研修（校内研修、担当者研修、支援者研修等）を設計することを通して、本研修で学んだことを振り返るとともに、本研修の成果をこの教育に関わる教員・地域の支援者等と共有し、教育コミュニケーションを形成するための案を検討する。	14:45 15:00 閉講式	

※日曜等に変更することがあります。

I 研修概要

研修名	小学校における外国語教育指導者養成研修									
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室									
研修目的	小学校の外国語教育を担当する教諭及び、指導主事等に、中学校との接続を意識し、児童が意欲的に取り組む活動の設定・指導法及び学習評価についての講義や演習等、教員の外国語教育指導力向上のための研修を通して、新小学校学習指導要領における外国語教育の在り方についての知識等を総合的に習得させ、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。									
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 ・小学校及び特別支援学校、中学校外国語科の教諭等であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師及び、小学校における外国語教育推進の指導者としての活動を行う者 ・当機構の修了証をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生 									
開催期日	平成31年2月27日（水）～平成31年3月1日（金）					3日間				
受講人数	標準定員 (計画人数)	120	人	受講者数	174	人	参加率	145.0%		
開催場所	福井県教育総合研究所（福井県坂井市）									

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	169	5	0	0	0	0	174
割合 (%)	97.1	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	
	174		100.0				

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・全国各地の先生方や指導主事、大学の先生等、様々な方々と英語教育について、また、それ以外の話もでき、つながることができたことが大変よかった。 ・実際に授業を見せていただいたり後援を聞いたりすることで、授業の具体がイメージできました。 ・特に直山調査官のお話を聞いて、こちらが抱えていた不安が払拭されました。この話を適切に現場の先生方に伝えて、担任の先生方の不安感を払拭したいです。 ・福井の授業を見せていただいたことがとてもよかった。6校どの授業も同じくよかったと聞いているが、他の授業や研究協議もみたい。データの共有（参加者のみ）できるとよい。 ・講師の先生方の発言の中に「子どもを使う」というのがあって、少し違和感を感じました。また、Small Talkに関して、講師の先生方の見解が異なるため、少し混乱してしまう場面が自分にはありました。自分なりにもう一度解釈して伝達できるよう勉強したいと思いました。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会場の収容人数を踏まえた講義及び演習を実施した。 ・授業参観での協議がスムーズにいくための協議内容や指導助言の観点の事前提示をするなど更なる充実を図った。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井県の特徴を活かした公開研究授業参観の充実を図る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度小学校における外国語教育指導者養成研修 日程表

	9:30	10:00	10:30	12:00	14:00	16:50
2月27日(水)	受付	オリエンテーション 講式	講義1 外国語活動の現状と外国語教育の今後の方向性Ⅰ 講師 文部科学省初等中等教育局口教育課程課 情報教育・外国語教育課 教科調査官 直山 木綿子 ◎目的：学校教育における外国語活動の現状と課題を踏まえ、新学習指導要領における外国語教育の在り方を理解する。	屋・食・休・憩 移・動	研究授業参観・研究協議 外国語活動の充実及び、外国語教育の今後のために求められること 指導助言者 文部科学省初等中等教育局 情報教育・外国語教育課 教科調査官 直山 木綿子 上田 外史彦 大下 邦幸 紺渡 弘幸 伊達 正起 水上 直子 ◎目的：福井県内の各小学校の研究授業参観を通して、外国語科の実施に向けた推進方策等について理解を深める。	各ユニットで内容の共有

	8:30	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	17:00
2月28日(木)	受付	講義2 外国語活動の現状と外国語教育の今後の方向性Ⅱ 講師 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 情報教育・外国語教育課 教科調査官 直山 木綿子 ◎目的：「研究授業参観・研究協議」の整理を通して、新学習指導要領における外国語教育の具体について理解する。	休 憩	講義3 外国語教育を円滑に進める指導力向上のための方策Ⅰ 講師 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 情報教育・外国語教育課 教科調査官 直山 木綿子 福岡県篠栗町立篠栗小学校 教頭 大田 亜紀 北九州市教育委員会 山田 百合子 指導主事 山田 百合子 岐阜県瑞浪市立瑞浪小学校 教諭 勝部 佳純 徳島県鳴門市林崎小学校 教諭 坂田 美佳 ◎目的：新教材の特色を知り、その活用について理解する。	屋・食・休・憩	講義4 外国語教育を円滑に進める指導力向上のための方策Ⅱ 講師 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 情報教育・外国語教育課 教科調査官 直山 木綿子 福岡県篠栗町立篠栗小学校 教頭 大田 亜紀 北九州市教育委員会 山田 百合子 指導主事 山田 百合子 岐阜県瑞浪市立瑞浪小学校 教諭 勝部 佳純 徳島県鳴門市林崎小学校 教諭 坂田 美佳 ◎目的：新教材の特色を知り、その活用について理解する。	休 憩	演習1 外国語教育を円滑に進める指導力向上のための方策Ⅲ 指導助言者 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 情報教育・外国語教育課 教科調査官 直山 木綿子 情報教育・外国語教育課 専門職 上田 外史彦 福井県教育庁義務教育課 参事 尾形 俊弘 越前市坂口小学校 教頭 水上 直子 ◎目的：外国語科の実施に向けて必要な事項を整理し、推進方策等についての知識・指導法を班別協議を通して深める。	各ユニットで内容の共有

	8:30	9:00	10:00	10:10	11:00	12:00	13:00	14:30	14:45
3月1日(金)	受付	演習2 外国語教育を円滑に進める指導力向上のための方策Ⅳ 発表準備 指導助言者 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 情報教育・外国語教育課 教科調査官 直山 木綿子 上田 外史彦 尾形 俊弘 水上 直子 ◎目的：外国語科の実施に向けて必要な事項を整理し、推進方策等についての知識・指導法等を発表を通して深める。	休 憩	講義5 外国語教育を推進するための指導者として 講師 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 情報教育・外国語教育課 教科調査官 直山 木綿子 ◎目的：本研修を振り返り、成果等をまとめるとともに、研修講師となるための課題を整理する。	屋・食・休・憩	講義5 外国語教育を推進するための指導者として 講師 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 情報教育・外国語教育課 教科調査官 直山 木綿子 ◎目的：本研修を振り返り、成果等をまとめるとともに、研修講師となるための課題を整理する。	各ユニットで内容の共有	閉 講 式	

※日程等について変更することがあります。

I 研修概要

研 修 名	外国語指導助手研修(来日直後オリエンテーション)						
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室						
研 修 目 的	我が国の外国語教育を推進し、国際社会に生きる子供達を育成するため、全国の外国語指導助手（ALT）に対して、日本の外国語教育等について適切に理解し、各学校において一層効果的な職務遂行ができるようにするために必要な知識等を習得させる。（JETプログラムにより日本に招致した外国語指導助手（ALT）に対する来日直後オリエンテーション（一般財団法人自治体国際化協会主催）の一環として実施）						
受 講 対 象	総務省・外務省・文部科学省の協力の下に実施しているJETプログラムにより招致した外国語指導助手（ALT）						
開 催 期 日	(4月期) 平成30年4月9日（月）				1日間		
	(A日程) 平成30年7月30日（月）				1日間		
	(B日程) 平成30年8月6日（月）				1日間		
	(第2次) 平成30年8月20日（月）				1日間		
受 講 人 数	定員 (計画人数)	4月期	1,600人	受講者数	1,989人	参加率	—
		A日程					—
		B日程					—
		第2次					—
	計	1,600人	計	1,989人	計	124.3%	
開 催 場 所	4月期=ルポール麹町（東京都千代田区） A日程、B日程、第2次=京王プラザホテル（東京都新宿区）						

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった				あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義		おおむね有意義						
人数 (人)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
割合 (%)	—	—	—	—	—	—	—	—	—

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・（学習指導要領等の説明では）各学年、学校種毎の日本の英語教育の目標について理解できた。また、英語教育の課題とその課題解決のために実施されていることも知ることができた。 ・（特別支援教育の説明では）日本における特別支援教育について概要を知ることができ、有益だった。 ・模擬授業をは、ALTと生徒、ALTと教員との関係や授業づくりを理解するのに非常に役立ちました。 ・模擬授業を見ることは、ALTの役割や教え方を理解するために大きな助けとなった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション内容や運営面について、受講者の要望に対応できるよう、引き続き自治体国際化協会と文部科学省との情報共有を積極的に行った。 ・「特別支援教育の現状」のコマを導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション内容や運営面について、受講者の要望に対応できるよう、引き続き自治体国際化協会と文部科学省との情報共有を積極的に行い、効率的かつ円滑に運営する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

2018 Post-Arrival Orientation (April) Schedule

平成30年度来日直後オリエンテーション（4月）開催日程

時間	内容						Location
7:00 - 8:30	Breakfast / 朝食						Emerald エメラルド
9:00 - 9:20	Opening Ceremony / 開会式						Marble マーブル
9:20 - 9:35	Break for moving between rooms / 移動						
時間	英語圏ALT分科会	場所	中国語圏ALT分科会	場所	時間	CIR分科会	場所
9:35 - 10:20	JETプログラムに関する重要事項の説明と防災について	Sapphire サファイア	JETプログラムに関する重要事項の説明と防災について (日本語)	Ruby ルビー	9:35 - 10:20	JETプログラムに関する重要事項の説明と防災について (日本語)	Ruby ルビー
10:20 - 10:35	Break / 休憩				10:20 - 10:35	Break / 休憩	
10:35 - 11:20	基調演説	Sapphire サファイア	基調演説※通訳	Sapphire サファイア	10:35 - 11:20	基調演説	Ruby ルビー
11:20 - 12:35	Lunch / 昼食						Marble マーブル
12:35 - 13:20	自己管理	Sapphire サファイア	自己管理 英語圏ALT分科会参加 ※通訳	Sapphire サファイア	12:35 - 13:55	CIRとしての基礎スキル 「翻訳」	中国語一 Ruby ルビー ポルトガル語一 Lescaleレスカル 英語一 Topaz トパーズ 韓国語一Garnet ガーネット
13:20 - 13:35	Break / 休憩				13:55 - 14:10	Break / 休憩	
13:35 - 14:20	文部科学省 学習指導要領の説明	Sapphire サファイア	文部科学省 学習指導要領の説明 英語圏ALT分科会参加 ※通訳	Sapphire サファイア	14:10 - 15:30	CIRとしての基礎スキル 「通訳」	中国語一 Ruby ルビー
14:20 - 14:35	Break / 休憩						ポルトガル語一 Lescaleレスカル
14:35 - 15:20	文部科学省 特別支援教育の現状	Sapphire サファイア	文部科学省 特別支援教育の現状 (英語圏ALT分科会参加)	Sapphire サファイア			英語一 Topaz トパーズ
15:20 - 15:35	Break / 休憩				15:30 - 15:50	Break / 休憩	
15:35 - 16:50	文部科学省 チーム・ティーチングデモンストレーションと効果的な授業計画 (中学校・高校)	Sapphire サファイア	文部科学省 チーム・ティーチングデモンストレーションと効果的な授業計画 (中国ALT向け)	Topaz トパーズ	15:50 - 16:50	CIR業務について 「イベント企画・実施」	Ruby ルビー
16:50 - 18:30	Break / 休憩						
18:30 - 20:00	Welcome Reception / 歓迎夕食会						Marble マーブル
7:00 - 8:30	Breakfast / 朝食						Marble マーブル
時間	英語圏ALT分科会	場所	中国語圏ALT分科会	場所	時間	CIR分科会	場所
9:00 - 9:45	文部科学省分科会 ① (中学校・高校)	Sapphire サファイア	文部科学省分科会 ① (中国ALT向け)	Topaz トパーズ	9:00 - 10:30	CIRとしての基礎スキル 「日本のビジネスマナーの基礎」	Ruby ルビー
9:45 - 10:00	文部科学省分科会 ① (小学校)	Garnet ガーネット			10:30 - 10:45	Break	
10:00 - 10:45	文部科学省分科会 ② (中学校・高校)	Sapphire サファイア	文部科学省分科会 ② (中国ALT向け)	Topaz トパーズ	10:45 - 11:45	CIRとしての基礎知識 「地方自治体の行政機構」	Ruby ルビー
10:45 - 11:00	文部科学省分科会 ② (小学校)	Garnet ガーネット					
11:00 - 11:45	文部科学省分科会 ③ (中学校・高校)	Sapphire サファイア	文部科学省分科会 ③ (中国ALT向け)	Topaz トパーズ			
11:45 - 13:00	Lunch / 昼食						Marble マーブル
13:00 - 13:45	文部科学省分科会 ④ (中学校・高校)	Sapphire サファイア	文部科学省分科会 ④ (中国ALT向け)	Topaz トパーズ	13:00 - 13:50	CIR業務について 「外国語講座」	Ruby ルビー
13:45 - 14:00	文部科学省分科会 ④ (小学校)	Garnet ガーネット			13:50 - 14:05	Break	
14:00 - 15:00	ALTのための役立つ情報 (小学校・中学校)	Sapphire サファイア	ALTのための役立つ情報 (高校)	Lescale レスカル	14:05 - 14:55	CIR業務について 「学校訪問」	Ruby ルビー
15:00 - 15:15	ALTのための役立つ情報 (高校)	Lescale レスカル	ALTのための役立つ情報 (英語圏ALT分科会参加※通訳)		14:55 - 15:10	Break	
15:15 - 16:30	パネルディスカッション: 小学校・中学校	Sapphire サファイア	先輩からのアドバイス (中国ALT向け)	Topaz トパーズ	15:10 - 16:30	パネルディスカッション	Ruby ルビー
16:30 - 16:45	Break						
16:45 - 17:35	Host Prefecture/Designated City Meeting / 取りまとめ団体別ミーティング						Marble/Garnet マーブル・ガーネット
17:35 - 17:45	Survey Completion & Submission / アンケート記入・提出						
6:45 - 9:00	Breakfast						Marble マーブル
~ 11:00	Departure for Host Prefecture/Designated City / 出発						

平成30年度来日直後オリエンテーション(A・B日程) 開催日程

時間	内容		会場		
	朝食		花(4F)・エミネンス(5F)		
	開会式		コンコード(5F)		
9:20 - 9:35	移動				
時間	ALT分科会	会場	時間	CIR分科会	会場
9:35 - 10:15	JETプログラムに関する重要事項の説明と防災について	コンコード(5F)	9:35 - 10:15	JETプログラムに関する重要事項の説明と防災について	スターライト(43F)
10:15 - 10:20	日本の法律について		10:15 - 10:20	日本の法律について	
10:20 - 10:35	休憩		10:20 - 10:35	休憩	
10:35 - 11:20	基調演説	コンコード(5F)	10:35 - 11:20	基調演説	スターライト(43F)
11:20 - 12:35	昼食		花(4F)・エミネンス(5F)		
12:35 - 13:20	メンタルヘルスケア	コンコード(5F)	12:35 - 13:35	CIRとしての基礎知識「地方自治体の行政機構」	スターライト(43F)
13:20 - 13:35	休憩		13:35 - 13:55	休憩	
13:35 - 14:10	文部科学省 学習指導要領の説明	コンコード(5F)	13:55 - 15:15	CIRとしての基礎スキル「翻訳」	スターライト(43F)
14:10 - 15:20	文部科学省 特別支援教育の現状				
15:20 - 15:35	休憩		15:15 - 15:30	休憩	
15:35 - 16:50	文部科学省(MEXT)「ティームティーチングデモンストレーションと効果的な授業計画」		15:30 - 16:50	CIRとしての基礎スキル「通訳」	スターライト(43F)
	小学校(クラス1)	扇(4F)			
	中学校(クラス2)	花A(4F)			
	中学校(クラス3)	花B(4F)			
	中学校(クラス4)	花C(4F)			
	高校(クラス5)	花D(4F)			
高校(クラス6)	鯨(4F)				
16:50 - 18:30	休憩				
18:30 - 20:00	歓迎夕食会		コンコード(5F)		
7:00 - 8:30	朝食		コンコード・エミネンス(5F)		
時間	ALT分科会	会場	時間	CIR分科会	会場
9:00 - 9:45	文部科学省(MEXT)ワークショップ①		9:00 - 10:30	CIRとしての基礎スキル「日本のビジネスマナーの基礎」	スターライト(43F)
	小学校(クラス1)	扇(4F)			
	中学校(クラス2)	花A(4F)			
	中学校(クラス3)	花B(4F)			
	中学校(クラス4)	花C(4F)			
	高校(クラス5)	花D(4F)			
9:45 - 10:00	休憩				
10:00 - 10:45	文部科学省(MEXT)ワークショップ②		10:30 - 10:45	休憩	
	小学校(クラス1)	扇(4F)			
	中学校(クラス2)	花A(4F)			
	中学校(クラス3)	花B(4F)			
	中学校(クラス4)	花C(4F)			
	高校(クラス5)	花D(4F)			
10:45 - 11:00	休憩				
11:00 - 11:45	文部科学省(MEXT)ワークショップ③		10:45 - 11:45	CIR業務について「学校訪問」	スターライト(43F)
	小学校(クラス1)	扇(4F)			
	中学校(クラス2)	花A(4F)			
	中学校(クラス3)	花B(4F)			
	中学校(クラス4)	花C(4F)			
	高校(クラス5)	花D(4F)			
11:45 - 13:00	昼食		コンコード・エミネンス(5F)		
13:00 - 13:45	文部科学省(MEXT)ワークショップ④		13:00 - 13:50	CIR業務について「イベント企画・実施」	スターライト(43F)
	小学校(クラス1)	扇(4F)			
	中学校(クラス2)	花A(4F)			
	中学校(クラス3)	花B(4F)			
	中学校(クラス4)	花C(4F)			
	高校(クラス5)	花D(4F)			
13:45 - 14:10	休憩		13:50 - 14:05	休憩	
14:10 - 15:10	ALTのための役立つ情報		14:05 - 14:55	CIR業務について「外国語講座」	スターライト(43F)
	小学校・中学校(クラスA)	コンコードAB(5F)			
	公立高校(クラスB)	コンコードC(5F)			
15:10 - 15:25	私立学校(クラスC)		花A(4F)		
15:10 - 15:25	休憩		14:55 - 15:10	休憩	
15:25 - 16:35	パネルディスカッション		15:10 - 16:35	パネルディスカッション	スターライト(43F)
	小学校・中学校(クラスA)	コンコードAB(5F)			
	公立高校(クラスB)	コンコードC(5F)			
16:35 - 16:50	私立学校(クラスC)		花A(4F)		
16:35 - 16:50	休憩				
16:50 - 17:35	取りまとめ団体別ミーティング		鯨・扇・花A(4F)・エミネンス(5F)		
17:35 - 17:45	アンケート記入・提出				
17:45 - 20:00	集荷		花BCD(4F)		
3日目	6:00 - 9:00*	朝食		エミネンス、コンコードC、鯨	
	7:00 - 9:00	出発		花ABCD(4F) コンコードAB(5F)	

平成30年度来日直後オリエンテーション（7・8月）開催日程（C日程）								
時間	内容			会場				
7:00-8:30	朝食			アンサンブル(44F)				
9:00-9:20	開会式			ハーモニー(44F)				
9:20-9:35	移動							
時間	ALT分科会	会場	時間	CIR分科会	会場	時間	SEA分科会	会場
9:35-10:15	JETプログラムに関する重要事項の説明と防災について	ハーモニー(44F)	9:35-10:15	JETプログラムに関する重要事項の説明と防災について	アリア(44F)	9:35-10:15	JETプログラムに関する重要事項の説明と防災について	ハーモニー(44F)
10:15-10:20	日本の法律について		10:15-10:20	日本の法律について		10:15-10:20	日本の法律について	
10:20-10:35	休憩		10:20-10:30	休憩		10:20-10:35	休憩	
10:35-11:20	基調演説	ハーモニー(44F)	10:30-11:20	CIRとしての基礎知識「地方自治体の行政機構」	アリア(44F)	10:35-11:20	SEAの職務について	ひかり(47F)
11:20-12:35	昼食			アンサンブル(44F)				
12:35-13:20	メンタルヘルスケア	ハーモニー(44F)	12:35-13:35	CIR業務について「イベント企画・実施」	アリア(44F)	12:35-13:20	SEAの基礎スキル	ひかり(47F)
13:20-13:35	休憩		13:35-13:50	休憩		13:20-13:35	休憩	
13:35-14:10	文部科学省 学習指導要領の説明	ハーモニー(44F)	13:50-16:50	関連機関訪問	外出	13:35-15:05	日本における体育授業と部活動の現状 ※通訳あり	ひかり(47F)
14:10-15:20	文部科学省 特別支援教育の現状	ハーモニー(44F)				15:05-15:20	休憩	
15:20-15:35	休憩					15:20-16:50	学校訪問及び部活動見学	外出
15:35-16:50	文部科学省(MEXT) 「ティームティーチングデモンストレーションと効果的な授業計画」							
	小学校	ひかり(47F)						
	中学校	あおぞら(47F)						
	高校	あかね(47F)						
16:50-18:30	歓迎夕食会			アンサンブル(44F)				
18:30-20:00	朝食			アンサンブル(44F)				
時間	ALT分科会	会場	時間	CIR分科会	会場	時間	SEA分科会	会場
9:00-9:45	文部科学省(MEXT) ワークショップ①		9:00-10:30	CIRとしての基礎スキル「日本のビジネスマナーの基礎」	アリア(44F)	9:00-9:30	SEAのための日本語学習	ひかり(47F)
	小学校	あかね(47F)						
	中学校・高校	あおぞら(47F)						
9:45-10:00	休憩							
10:00-10:45	文部科学省(MEXT) ワークショップ②		10:30-10:45	休憩		9:30-9:40	休憩	
	小学校	あかね(47F)						
	中学校・高校	あおぞら(47F)						
10:45-11:00	休憩							
11:00-11:45	文部科学省(MEXT) ワークショップ③		10:45-11:45	CIR業務について「学校訪問」	アリア(44F)	9:40-10:25	現役SEA事例発表	ひかり(47F)
	小学校	あかね(47F)				10:25-10:40	休憩	
	中学校・高校	あおぞら(47F)				10:40-11:45	パネルディスカッション	ひかり(47F)
11:45-13:00	昼食			アンサンブル(44F)				
13:00-13:45	文部科学省(MEXT) ワークショップ④		13:00-13:45	CIR業務について「外国語講座」	アリア(44F)	13:00-14:10	コーチとしての経験 ※通訳あり	ひかり(47F)
	小学校	あかね(47F)						
	中学校・高校	あおぞら(47F)						
13:45-14:00	休憩		13:45-13:55	休憩		14:10-14:25	休憩	
14:00-15:00	ALTのための役立情報		13:55-15:15	CIRとしての基礎スキル「翻訳」	アリア(44F)	14:25-15:35	SEAの効果的なコーチングを 目指して：課題の共有と対応方法 ※通訳あり	ひかり(47F)
	小学校・中学校(クラスA)	あおぞら(47F)						
	高校(クラスB)	あかね(47F)						
15:00-15:10	休憩		15:15-15:20	休憩		15:35-15:45	休憩	
15:10-16:35	パネルディスカッション		15:20-16:35	CIRとしての基礎スキル「通訳」	アリア(44F)	15:45-16:30	救命講習会 ※通訳あり	外出
	小学校・中学校(クラスA)	あおぞら(47F)						
	高校(クラスB)	あかね(47F)						
16:35-16:50	休憩			アンサンブル(44F)				
16:50-17:35	取りまとめ団体別ミーティング			アンサンブル(44F)				
17:35-17:45	アンケート記入・提出			アンサンブル(44F)				
時間	内容			会場				
6:30-9:00	朝食			アンサンブル(44F)				
~11:00	出発			正面玄関(3F) 団体ロビー(3F)				

I 研修概要

研修名	英語教育海外派遣研修									
担当グループ	研修事業課 研修支援係									
研修目的	各地域において、英語教育を推進する中核的教員を海外に派遣し、英語教育に関する指導方法等についての実践的な研究、大学等での専門的な授業及び実生活を通じ、指導力の向上及び確かな知識の習得を図り、その成果を各学校や地域における研修の講師や企画・立案等に活かし、グローバル化に対応する指導者を養成する。									
受講対象	以下の要件を満たす者であって、かつ心身共に健康で海外における所定の期間の研修及び生活に適応できる者 ①中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の英語科教員で、現に英語の授業を担当し、5年以上の勤務実績がある者 ②都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 ③50歳以下の者で、英語教育を推進する中核的教員又は中核的教員として活躍が期待される者で、研修成果の普及を複数年にわたり実施できる者(年齢は平成30年度末現在) ④海外研修に対応できる英語力(英検準1級、TOEFL iBT 80点、TOEIC 730点以上のいずれか)を有している者 ⑤過去に文部科学省又は教育研修センターが実施した教職員等海外派遣研修により派遣されたことがない者									
開催期日	別紙のとおり				別紙のとおり					
受講人数	標準定員 (計画人数)	20	人	受講者数	20	人	参加率	100.0%		
開催場所	事前・事後研修会：独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市） 海外派遣：英国・米国									

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった				あまり意義 なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	20	0	0	0	0	0	0	0	20
割合 (%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	20		100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

・アメリカの文化や歴史も含めて授業で取り扱ってくれる講師や、即時に授業で扱えるような活動に重点を絞った講師など、それぞれ個性や特徴があって良かった。
 ・大学での授業内容は、実践が多く、理論に基づいた内容で、すべてのことがつながっている。理論だけでなく、それをどう授業に応用するのか、実際に生徒として体験できる貴重な経験であった。
 ・大学関係者は、授業内容に関することに非常に協力的であり、いかなる意見にも耳を傾けてくださった。途中、大学入試の新共通テストに対応した授業を組み入れて欲しいという要望にも、スケジュールを変更して講義していただき、ありがたかった。
 ・8週間の研修カリキュラムは参加者の理解度を踏まえて内容が段階的に深化するものだった。指導の改善法、課題の分析ができ、解決の向けて有効な内容であった。日本での現場に応用できるかを今後試してみたい。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
 ・参加決定から事前研修会までの期間が短いと、「研修主題の設定」に係る時間が充分に取れず、研修で取組みたい課題等を絞りきれないとの意見から、英語教育海外派遣研修実施についての通知を12月中旬、参加決定を2月下旬にするよう事務を進めた。
 ・「研修主題」については、新学習指導要領との関連、どの部分にスポットを当てた研究テーマ・主題にしているのか、項目を明確にすると良いとの意見から、「研修主題の設定理由及び研修成果の活用方策」の様式を改定し、新たに「研修主題と学習指導要領との関連」を記述するように項目を追加した。
 ・研修成果報告書は、研修内容の活用事例が核となる。実践された授業の学習指導案を研修成果報告書に別途添付し、指導案集となるようにすると研修成果としての還元構想となるのではないかと意見から、学習指導案の書式設定を行った。

次年度に向けて
 ・研修の見直しにより、事後研修会の実施を取り止めることに伴い、事前研修会の内容を検討、研修報告書のクオリティを上げる内容にする、海外派遣研修中に大学毎に「日本の英語教育の課題」についてまとめる、また、教育委員会には、これまで以上に研修参加者の研修成果活用場の確保に配慮することを依頼するなどの見直しを図る。
 ・研修成果報告書作成の際、指定された書式に整えるために時間を要していたことから、web上に「研修報告書テンプレート」を掲載し、報告書作成の軽減を図る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度英語教育海外派遣研修

派遣国	大学名	参加人数	事前研修会	派遣期間	日数	事後研修会
イギリス	エクセター大学	8	5/7(月)~8(火) 教職員支援機構 (茨城県つくば市)	6/23(土)~8/20(月)	59	11/8(木)~9(金) 教職員支援機構 (茨城県つくば市)
アメリカ	デンバー大学	12		7/8(日)~9/4(火)	59	
計		20				

I 研修概要

研修名	体力向上マネジメント指導者養成研修							
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室							
研修目的	本研修では、校長のリーダーシップの下、日々の教育活動、学校の資源を一体的にマネジメントした、各学校や地域の実態等に即した体力向上を図るための手法等を習得し、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 ・幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭並びに教諭等であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者 ・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生 							
開催期日	平成30年6月19日（火）～平成30年6月22日（金）			4日間				
受講人数	標準定員 (計画人数)	120	人	受講者数	114	人	参加率	95.0%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	101	11	1	0	0	1	114
割合 (%)	89.4	9.7	0.9	0.0	0.0	0.9	
	112						
	99.1						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上マネジメントについて考え方やポイントを学び、事例発表を聞き、実際に伝達する場面とイメージして演習を行うことで、具体的な進め方をイメージすることができたので、大変有意義だった。 ・マネジメントについての理論を様々な視点から学ぶことができ、かつ理論と実践を結びつけたり、事例を紹介していただいたり作り出すことができたので良かった。 ・カリキュラム・マネジメントについて、いろいろな講師先生のお話を伺い、自分の中で整理していくことができました。また、演習は何より有意義でした。 ・「体力向上」さえできればよいという考え方ではなく、他教科等への理念を通した連携やWin-Winの関わりが必要だということが理解できた。 ・学校という組織がひとつにまとまって体力向上を図っていくことの大切さや、協力を得て組織力を向上させていく大切さを改めて知ることができた。 ・研修全体の軸がしっかりしており、前半の講義と後半の班別演習がリンクしたものになっていて有難かった。 ・自分に足りない（必要とする）内容であった。教科指導・クラス運営に加え、組織的に考える視点が必要である。今後、さらに研修を進めたい。 ・どの講師の先生方の話も大変わかりやすく勉強になったのですが、重複する内容が多すぎたと思うので、もっと視点を変えてお話頂けたらもっとよかったです。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「体育・保健を中心としたカリキュラム・マネジメント」に関する講義を実施した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育・保健を中心としたカリキュラム・マネジメントに加え、特別活動の健康安全・体育的行事に関する内容のコマを新設し、充実を図る。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度体力向上マネジメント指導者養成研修日程

日程：平成30年6月19日(火)～6月22日(金) 会場：独立行政法人教職員支援機構つくば本部

第1日目	9:30	10:00	10:25	10:40	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	16:30	16:40	17:00

第2日目	8:45	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	16:30	16:40	17:00

第3日目	8:45	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	16:30	16:40	17:00

第4日目	8:45	10:15	10:30	12:00	12:20

I 研修概要

研 修 名	健康教育指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室							
研 修 目 的	多様化・深刻化している健康課題を解決するため、各都道府県等における健康教育に関する推進体制の構築、学校における健康教育に関する指導の充実等について、必要な知識等を習得し、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにこれに準じる者 ・幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭及び養護教諭であって、各学校や地域において本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者 ・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生 							
開 催 期 日	平成30年9月18日（火）～平成30年9月21日（金）					4日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	200	人	受講者数	221	人	参加率	110.5%
開 催 場 所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	198	22	0	0	1	0	221
割合 (%)	89.6	10.0	0.0	0.0	0.5	0.0	
	220						
	99.5						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育に関する基礎的な知識から実践的な演習、最先端の内容まで幅広い講義、演習内容が魅力的でした。 ・効果的な研修の運営の方法、手順について大きな流れをつかむことができた。立案では研修企画の目的、方法、何をねらいとするかで、活発な意見交流を行い、他の先生のアイデアに触れ、立案のヒントを多くつかむことができた。実際の研修計画立案実施に役立てたいと考える。 ・マネジメントを実際うまくできるか、今後の課題です。1人ではできないこと、この演習そのものがチームとして議論し、作り上げていくプロセスを学びました。養護教諭、担任、指導主事という異なる立場や異なる校種の編成グループだったので、各学校の課題や地域の実態、立場から発信したいことなど、交流を深め、本音で語り合い視野が広がりました。 ・健康教育は非常に重要であるが、現場での意識が低いのが現状である。この研修の成果を広め、有効な健康教育が推進されるようにしていきたい。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容の高度化を図るため、実施要項に、指導案を作成する演習を含むことをあらかじめ明記し、より質の高い、指導案の作成ができるよう要項に記入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校保健マネジメント」についての受講者ニーズの多さへの対応、並びに、組織の一員として学校保健にかかわることの重要性、新学習指導要領を理解してカリキュラムマネジメントを推進することの必要性に鑑み、マネジメントを中心に据えた研修を取り入れる。 ・時代のニーズとして「現代的な疾病の予防」のコマにがん教育に関わる内容を取り入れる。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度健康教育指導者養成研修 日程表

		9:00	9:30	10:00	11:30	12:30	13:30	13:40	14:40	14:50	15:50	16:00	17:00	
9/18 (火) 第1日目	受付	オリエンテーション	講義1(90分)			昼食・休憩	講義2(60分)		講義3(60分)		講義4(60分)		講義5(60分)	
			健康教育の充実の在り方及び研修の進め方 ◎目的: 健康教育の充実のため、現状と課題、意義、目的を踏まえた研修のねらい並びに本研修の全般的構成について理解する スポーツ庁 教科調査官 横嶋 剛				保健管理の在り方(環境衛生) ◎目的: 保健管理は、学校保健安全法等により規定されており、全職員の共通理解のもとに実施されるものであることを理解する。 文部科学省 健康教育調査官 小出 彰宏		保健管理の在り方 ◎目的: 保健管理は、学校保健安全法等により規定されており、全職員の共通理解のもとに実施されるものであることを理解する。 文部科学省 健康教育調査官 松崎 美枝		保健教育の在り方 ◎目的: 体育、保健体育を中心に、特別活動、総合的な学習の時間等と関連を図った保健教育の進め方について理解を深める。 茨城大学 教授 上地 勝		学校保健マネジメント ◎目的: 学校保健を推進するための効果的なマネジメントについて理解を深める 筑波大学 教授 柳沢 和雄	

		8:15	8:30	12:00	13:00	17:00
9/19 (水) 第2日目	受付	講義・演習1-1(210分)			講義・演習1-2(240分)	
		①保健教育の在り方 ◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ 茨城大学 教授 上地 勝 心の健康 愛知県立瀬戸高等学校 教頭 丸山 洋生 医薬品・喫煙・飲酒・薬物乱用 文部科学省 健康教育調査官 小出 彰宏 青森市立佃小学校 教頭 越田 強 現代的な疾病の予防 東海大学 教授 岡崎 勝博 栃木県教育委員会 副主幹 吉川 真弓 ②学校保健マネジメント ◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ 筑波大学 教授 柳沢 和雄 福岡県教育委員会 指導主事 甲斐田 修 ③保健管理の在り方(現代的健康課題への対応) ◎目的: 学校における児童生徒の健康課題解決の基本的な進め方(教職員等の果たす役割、組織での支援等)について学ぶ びわこ学院大学 教授 岩崎 信子			①保健教育の在り方 ◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ 茨城大学 教授 上地 勝 心の健康 愛知県立瀬戸高等学校 教頭 丸山 洋生 医薬品・喫煙・飲酒・薬物乱用 文部科学省 健康教育調査官 小出 彰宏 青森市立佃小学校 教頭 越田 強 現代的な疾病の予防 東海大学 教授 岡崎 勝博 栃木県教育委員会 副主幹 吉川 真弓 ②学校保健マネジメント ◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ 筑波大学 教授 柳沢 和雄 福岡県教育委員会 指導主事 甲斐田 修 ③保健管理の在り方(健康観察の重要性) ◎目的: 教職員による健康観察の重要性について学ぶ 名古屋市教育委員会 主任指導主事 山口 純枝	

		8:15	8:30	11:30	12:30	15:00	15:15	17:00
9/20 (木) 第3日目	受付	講義・演習1-3(180分)			講義・演習1-4(150分)		講義・演習2(105分)	
		①保健教育の在り方 ◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ 茨城大学 教授 上地 勝 心の健康 愛知県立瀬戸高等学校 教頭 丸山 洋生 医薬品・喫煙・飲酒・薬物乱用 文部科学省 健康教育調査官 小出 彰宏 青森市立佃小学校 教頭 越田 強 現代的な疾病の予防 東海大学 教授 岡崎 勝博 栃木県教育委員会 副主幹 吉川 真弓 ②学校保健マネジメント ◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ 筑波大学 教授 柳沢 和雄 福岡県教育委員会 指導主事 甲斐田 修 ③保健管理の在り方(事例検討会の進め方) ◎目的: 学校における事例検討会の進め方や指導助言のあり方を学ぶ 【小学校】滋賀県長浜市立神照小学校 校長 伊部 加代 【中学校】高知県安芸市立井ノ口小学校 校長 大城 由美 【高等学校】筑紫女学園大学 准教授 大西 良			①保健教育の在り方 ◎目的: 課題別演習の成果発表を通じて、保健教育について理解を深める 心の健康 講師は講義・演習1-3と同じ 医薬品・喫煙・飲酒・薬物乱用 現代的な疾病の予防 ②学校保健マネジメント ◎目的: 部会別演習における成果発表を通じて望ましい組織体制についての理解を深める 講師は講義・演習1-3と同じ ③保健管理の在り方(疾病管理と地域の連携機関との連携) ◎目的: 学校における疾病管理と地域の関係機関との連携について学ぶ 公益財団法人日本学校保健会 専務理事 弓倉 整		子供の心のケア ◎目的: 学校における児童生徒のメンタルヘルス及び発達障害等に関する現状を理解するとともに、その対応方法について学ぶ 京都大学 教授 十一 元三	

		8:15	8:30	10:15	10:30	12:00	13:00	15:00	15:15
9/21 (金) 第4日目	受付	講義・演習3(105分)			講義・演習4(90分)		講義・演習5(120分)		
		A.学校における救急処置に関する研修の在り方 医療法人社団筑波記念会病院 筑波記念病院 救急科診療部長 立川 法正 B.児童虐待への対応 児童心理治療施設静岡県立吉原林間学園 治療指導課長 市原 真記			学校における感染症対策の在り方 国立感染症研究所 感染症疫学センター第三室 室長 多屋 馨子 ◎目的: 学校における感染症対策の在り方について理解を深める		健康教育の指導者として 文部科学省 健康教育調査官 松崎 美枝 ◎目的: 健康教育に関する教員研修の構想・企画をとおして、本研修における成果を整理するとともに、研修講師としての必要な知識や技術等についての理解を深める		

※推薦依頼発出時の実施要項、日程表とは、講座番号が一部異なっています。

I 研修概要

研 修 名	食育指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室							
研 修 目 的	食育の重要性に鑑み、学校において食育を推進するため、各都道府県等における食に関する指導体制の整備、食に関する指導の充実に資するよう、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県及び市町村教育委員会の指導主事等であって、食に関する指導を担当する者 ・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、教諭及び学校栄養職員等であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者 ・栄養教諭であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者 当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生							
開 催 期 日	平成30年10月9日（火）～平成30年10月12日（金）					4日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	120	人	受講者数	143	人	参加率	119.2%
開 催 場 所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	133	8	0	0	2	0	143
割合 (%)	93.0	5.6	0.0	0.0	1.4	0.0	
	141						
	98.6						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・最新情報の講義、それをもとにした演習と、内容の濃い研修でした。とくに、新学習指導要領について詳しく学ぶことができたことが大変意義深いです。全校の皆さんと横のつながりができたこともうれしいです。 ・新学習指導要領に基づいて行う食育について、最近の知識や考え方、全国の先生方の多くの貴重な実践の事例を得ることができました。この内容を自分一人でなく少しずつでも学校、地域にも伝えられるようがんばりたいと思います。 ・国の行動や、これからの食育のあり方や栄養教諭としてやらなければいけないことなど、とても有意義な時間を過ごすことができました。また、演習等はグループ別に意見交換でき、他のグループの発表も聞くことができ、とても参考になりました。 ・今回、一番学びたいと思っていたことは、食育と教科、特に家庭、保健体育、総合、特活の中での食育のポイントと指導の在り方と違い(比較して)を知りたく、4日間で、ねらいは十分達成することができました。来週すぐに食育研修会の助言があります。ホヤホヤの学びを生かして助言します。 ・持参する資料が多すぎ、重くなりすぎて大変でした。講義中に配布する資料もそうですが、タブレットを全員に渡し、データで見れば印刷しなくて済みますので、紙と時間の無駄が減ります。 ・要項には受講対象に教諭も入っていますが、実際は栄養教諭と指導主事がほとんどです。食育を広げていくためには、教諭の視点での意見も必要と感じた。次年度は教諭の参加も増えるとなお演習が充実するのではと思いました。 ・食育＝栄養教諭というのはもちろんわかるのですが、本当に食育を推進するには、一般の教諭の理解が不可欠です。本研修の参加者ほとんどが栄養教諭あるいは指導主事だったことは、少々残念です。もっと一般教諭の参加ができるような投げかけ方をしたら、食育が学校に広まるはずなのに・・・と思いました。また相互の理解を深める機会となると思います。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマネジメントについて理解し、教科横断的な視点から食育を捉えることができるよう、「体育、保健体育」「家庭」「総合的な学習の時間」「特別活動」についてすべての教科領域の食育に関わる指導のポイントの講義を受講者全員が参加できるようにした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織全体での食育推進のため、栄養教諭や教諭、そして管理職の参加を促していく。 ・栄養教諭として10年以上の経験を持つ人がおり、授業づくりについては、十分充実してきていることから、演習内容を指導案づくりからカリキュラムマネジメントや全体計画の作成にシフトする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度食育指導者養成研修 日程

10月9日(火)	9:00	受付	9:30	オリエンテーション	10:00	講義1 学校における食育の推進 文部科学省初等中等教育局 食育調査官 清久利和 ◎学校における食育の果たす役割や食育を推進するための基本的な考え方を理解する	11:10	11:20	講義2 学校給食を活用した食育の推進 文部科学省初等中等教育局 学校給食調査官 齊藤のみ	12:30	12:30	13:30	講義3 食に関する指導に係る全体計画の作成について 文部科学省初等中等教育局 食育調査官 清久利和 ◎食に関する指導に係る全体計画について、作成の意義、盛り込むべき内容、作成手順等について理解を深める	15:00	15:15	演習1 各学校や地域の実情に応じた「食に関する指導に係る全体計画」の作成 文部科学省初等中等教育局 食育調査官 清久利和 ◎班別演習を通して、自己の学校や地域の実情を踏まえた「全体計画」の在り方について知る	17:00
	10:00	休題	11:10	休題	12:30	休題	13:30	休題	15:00	休題	17:00	休題					

10月10日(水)	8:30	講義4 食育を効果的に推進するためのカリキュラム・マネジメントの進め方 甲南女子大学 教授 村川雅弘 ◎新学習指導要領の趣旨に基づき、食育推進のためのカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方を理解する	10:00	演習について説明	10:15	講義5-1 各教科等における食に関する指導のポイント ◎各教科等における食に関する指導のポイントについて理解を深める	10:30	10:30	講義5-2 各教科等における食に関する指導のポイント ◎各教科等における食に関する指導のポイントについて理解を深める	12:10	12:10	13:10	講義5-3 各教科等における食に関する指導のポイント ◎各教科等における食に関する指導のポイントについて理解を深める	14:50	15:00	演習2【部会別】 各教科等における食に関する指導についての検討 ◎家庭、技術、家庭 下妻市立上妻小学校 教頭 中澤千佳子 ◎体育、保健体育 埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター 准教授 上園竜之介 ◎総合的な学習の時間 横浜市こども青少年局 担当課長 永野理英子 ◎特別活動(学級活動) 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 安部恭子	17:00
	10:00	休題	10:15	休題	10:30	休題	12:10	休題	13:10	休題	14:50	休題	17:00	休題			

10月11日(木)	8:30	受付	9:00	演習3【部会別】 各教科等における食に関する指導についての検討 ◎家庭、技術、家庭 水戸市立大場小学校 校長 猪野典子 埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター 准教授 上園竜之介 ◎総合的な学習の時間 久留米市立高良内小学校 校長 四ヶ所清隆 ◎特別活動(学級活動) 熊本市立城西小学校 校長 松永裕子 ◎班別演習をおとして、各教科等における食に関する指導の在り方について理解を深める	12:00	12:00	13:00	13:00	14:00	14:00	15:00	15:00	16:00	16:00	17:00
	9:00	休題	9:00	休題	12:00	休題	13:00	休題	14:00	休題	15:00	休題	16:00	休題	17:00

10月12日(金)	8:30	受付	9:00	演習4 「家庭、技術、家庭科」、「体育、保健体育科」、「総合的な学習の時間」及び「特別活動」における「食に関する指導例」の発表 ◎家庭、技術、家庭 水戸市立大場小学校 校長 猪野典子 ◎体育、保健体育 埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター 准教授 上園竜之介 ◎総合的な学習の時間 久留米市立高良内小学校 校長 四ヶ所清隆 ◎特別活動(学級活動) 熊本市立城西小学校 校長 松永裕子 ◎各教科等における食に関する指導の在り方について、理解を深める	12:20	12:20	13:20	13:20	14:20	14:20	15:20	15:20	16:20	16:20	17:00
	9:00	休題	9:00	休題	12:20	休題	13:20	休題	14:20	休題	15:20	休題	16:20	休題	17:00

I 研修概要

研 修 名	学校安全指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室							
研 修 目 的	各地域・学校において児童生徒等の安全の確保が図られるよう、学校における生活安全・交通安全・災害安全に関し、必要な知識等を習得させ、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等を行うことのできる指導者の養成を図る。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにこれに準じる者 ・幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の園長、副園長、校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者 ・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生 							
開 催 期 日	平成30年7月9日（月）～平成30年7月13日（金）					5日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	160	人	受講者数	160	人	参加率	100.0%
開 催 場 所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	144	15	0	0	1	0	160
割合 (%)	90.0	9.4	0.0	0.0	0.6	0.0	
	159						
	99.4						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ご遺族からの話は直接、そして詳細に事件・事故を物語っており、深く心に刻まれました。 ・演習＋講義という形が多く、自分たち受講者が主体的に取り組むことができたと思います。 ・講義・講演・演習がバランスよく組み込まれてあったので、集中力を高めながら取り組むことができた。 ・講師陣がすばらしく、国の施策の最先端を知ることができた。自信を持って実践に生かすことができる。 ・3領域がバランスよく入り、また演習でも単年度計画から中期計画まで入ってよかった。資料やパワーポイントが非常に充実していて、わかりやすかった。 ・カリキュラムマネジメントについては、もう少し時間をとって演習なども入れて頂けると、更に理解が深まる。 ・年間計画を1時間で立てるのは無理がある。また、それぞれの置かれた環境が異なる中、考えを合わせるのは難しい。 ・講義の時間が短くて、もっとお聞きしたいと思うことが多かったが、聞くことができなくて残念だった。発表の時間が多く、発表の内容も同じようなものであったので、もう少し発表の班の数を減らすことも必要ではないかと感じた。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校種別の協議時間の充実を図り、「交通安全」「生活安全」「災害安全」の各領域の指導体制や具体的な指導方法について充実を図った。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校安全計画の作成については、危機管理マニュアルの作成や災害場面等を想定したシミュレーション、タイムライン(防災行動計画)を取り入れるなど、充実を図っていく。 ・各グループで学校安全計画の発表については、全体発表だけでなく、ポスターセッション等を取り入れるなど、充実を図っていく。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度学校安全指導者養成研修 日程表

第1日

7 月 9 日 (月)	9:00	9:30		11:00	11:10		12:30		13:30	15:00	15:15		17:00
	受 付	開 講 式 ・ オ リ エン テー ション	講義1 「学校安全の現状と課題 研修の全 体構成説明」 文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育課 安全教育調査官 吉門 直子 ◎目的:学校安全の現状等について理 解するとともに、本研修の全般的構成に ついて理解する。	講義2 「学校安全の基礎」 東京学芸大学 教授 渡邊 正樹 ◎目的:学校安全の概念・構造 等の基本的事項について理解 する。	休 憩	休 憩	休 憩	休 憩	講義・演習1 「交通安全」「生活安全」「災害安全」の現状と課題、効果的な指導と体制整備につ いて (学校種別 講義・演習) 東北工業大学 教授 小川 和久 大阪教育大学 教授 藤田 大輔 岩手大学 准教授 森本 晋也 ◎目的:学校安全の各領域について、学校種ごとで情報を共有するとともに、効果的・効率 的に指導をするための指導者としてのポイントを整理する。	休 憩	休 憩		

第2日

7 月 10 日 (火)	9:00	10:30	10:45		12:30		13:30		15:00	15:15		17:00
	講義・演習2 「交通安全」「生活安全」「災害安全」の現状と課題、効果的な指導と体制整備について (学校種別 講義・演習) 東北工業大学 教授 小川 和久 大阪教育大学 教授 藤田 大輔 岩手大学 准教授 森本 晋也 ◎目的:学校安全の各領域について、学校種ごとで情報を共有するとともに、効果的・効率的に 指導をするための指導者としてのポイントを整理する。	休 憩	休 憩	休 憩	休 憩	講義・演習3 「交通安全」「生活安全」「災害安全」の現状と課題、効果的な指導と体制整備につ いて (学校種別 講義・演習) 東北工業大学 教授 小川 和久 大阪教育大学 教授 藤田 大輔 岩手大学 准教授 森本 晋也 ◎目的:学校安全の各領域について、学校種ごとで情報を共有するとともに、効果的・効率的に 指導をするための指導者としてのポイントを整理する。	休 憩	休 憩				

第3日

7 月 11 日 (水)	9:00	9:50	10:00		11:20	11:30		12:15		13:15		14:45	14:55		15:45	15:55		17:15
	講演1 学校事故事例報告① ◎目的:学校事故被 害の現状を知るととも に、事故後の対応の 在り方をご遺族の立 場に立って理解する。	講演2 学校事故事例報告② ◎目的:学校事故被害の現状 を知るとともに、事故後の対 応の在り方をご遺族の立 場に立って理解する。	休 憩	休 憩	講演3 「学校の危機管理 マニュアル作成の 手引」について 文部科学省初等中 等教育局 健康教 育・食育課 安全教育調査官 吉門 直子 ◎目的:講演を踏ま え、今後の学校安 全の推進方策につ いて理解する。	休 憩	休 憩	講義・演習① 「災害安全危機管理体制の現状と課題」 RISS (Research Institute for Social Safety) 株 社会安全研究所 代表取締役 首藤 由紀 ◎目的:災害安全危機管理体制の現状と課題について講 義・演習等を通して理解を深める。	休 憩	講演4 「カリキュラム・マネジメントと は」 千葉大学 特任教授 天笠 茂 ◎目的:「学校安全計画」を作成す るに当たり、カリキュラム・マネジメ ントについて理解を深める。								

第4日

7 月 12 日 (木)	9:00	10:30	10:45		12:00		13:00		14:30	14:45		16:00	16:15		17:00
	演習② 「学校安全計画」の作成～安全教育に関する年間指導計画作成～ ◎目的:各講義・演習の内容を共有するとともに、「学校安全計画」の作成を通して、 安全に関する指導のカリキュラム・マネジメントについて理解する。	休 憩	休 憩	休 憩	休 憩	演習③ 「学校安全計画」の作成～安全教育に関する年間指導計画作成～ ・部会内発表と代表班決定 ◎目的:各講義・演習の内容を共有するとともに、「学校安全計画」の作成を通して、安全に関する指 導のカリキュラム・マネジメントについて理解する。	休 憩								

第5日

7 月 13 日 (金)	9:00		11:00	11:15		12:00		13:00		14:30	14:45	
	演習④ 「学校安全計画」の作成と研修企画 ・代表班の発表と講評 ・研修企画 ◎目的:学校種ごとの班により作成した「学校安全計画」の発表を通して、情報や課 題の共有を図る。また、作成した「学校安全計画」を踏まえ、地域の実態等に応じた 研修企画の立て方について理解する。	休 憩	休 憩	休 憩	休 憩	講義5 学校安全教育を推進するリーダーと して 文部科学省初等中等教育局 健康教育・食育課 安全教育調査官 吉門 直子 ◎目的:研修全体を振り返り、安全教 育の推進者としての自覚を促す。	休 憩	休 憩	休 憩	休 憩	休 憩	休 憩

I 研修概要

研 修 名	言語活動指導者養成研修									
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室									
研 修 目 的	学習指導要領に基づいて、児童生徒の発達の段階を踏まえた言語能力の育成を図るために、国語科を要としつつ各教科等の特質に応じた言語活動の充実に向けて取り組むべき方策や最新の情報について必要な知識等を習得し、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。									
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 ・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭等（特に研究主任や研修主任のほか教務主任等のカリキュラム作成担当者が望ましい。）であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者 ・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定も含む）教職大学院の学生 									
開 催 期 日	平成30年11月27日（火）～平成30年11月30日（金）					4日間				
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	120	人	受講者数	140	人	参加率	116.7%		
開 催 場 所	秋田県総合教育センター（秋田県潟上市）									

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった				あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合 計
	大変有意義		概ね有意義						
人数 (人)	124	88.6	16	11.4	0	0.0	0	0.0	140
割合 (%)	140		100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の充実が求められるようになった背景や経緯について学ぶとともに、指導事項を確実に身につけさせるための言語活動について考えることができた。また、全国の取組や課題と感じていることを共有できたことも、大変有意義だった。 ・他県の先生方との情報交換がとても有意義で、各県の状況（取組・悩み）を共有できた。 ・グランドデザインやカリキュラム・マネジメントに関する知識を得、改めて必要性が実感できた。また、作成にあたっての留意点や方法を知り、具体的に今後取り組んでいくきっかけをもらった。 ・新学習指導要領改訂の趣旨の再確認と自らの学習不足を反省する良い機会となった。 ・「言語活動指導者」として取り組む上での知識と、心構えを身につけることができました。 ・4日間の内容がとても充実していました。初日に授業参観、研究協議参観があり、具体的にイメージをもちながら、2～4日目の研修を受けることができました。流れも内容もとても満足しています。秋田県の先生方のお心遣いもとてもすばらしく、大変学びの多いものでした。 ・言語活動の充実に向けての理解が深まり、これからの研修計画に大変生かすことができる。ただ、演習が多く、最新の情報ももう少しインプットしたかった。 ・一つ一つの研修内容は充実していたと思われる。しかし、研修相互の関連性が感じられず、同時進行で何種類かの課題に取り組んでいる感じだった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修初日に学校視察し、その後、協議を行った。 ・主体的、対話的、深い学びのツールとしての言語活動の充実に関する協議・演習を行った。 ・研修企画案を作成し演習を行った。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な事前課題を精選し、講義との関連を図る。 ・各教科等の学習指導計画とカリキュラム・マネジメントとのつながりが分かる日程に変更する。 ・提示授業参観は継続する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

コース別演習	8:30	12:00	13:00	17:00
	受付	【中等分科会】 横浜国立大学 茨城県教育庁学校教育部 横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校附属中学校 副校長 三藤 敏樹	【言語活動の充実に向けた学校全体のキャリアキュラム・マネジメントプラン作成コース】 〔初等分科会〕金沢大学 静岡県静東教育事務所 指導監 中村 弘志 教授 折川 司	名譽教授 高木 展郎 副参事 渡邊 剛
11月29日(木)	8:30	12:00	13:00	17:00
第3日目	受付	◎目的：言語活動の充実に向けて取り組むために必要な事項を整理し、効果的なプランを作成する。	◎目的：言語活動を充実するための方策や指導の工夫などを研修時に活用できるように学習指導計画を作成する。	
		【各教科等の学習指導計画作成コース】 文部科学省初等中等教育局教育課程課 文部科学省初等中等教育局教育課程課 文部科学省初等中等教育局教育課程課 文部科学省初等中等教育局教育課程課 文部科学省初等中等教育局教育課程課 文部科学省初等中等教育局教育課程課	文部科学省初等中等教育局教育課程課 文部科学省初等中等教育局教育課程課 文部科学省初等中等教育局教育課程課 スポーツ庁政策課 文部科学省初等中等教育局教育課程課	野内 頼一〔理科〕 臼井 学〔音楽〕 東良 雅人〔図画工作・美術・工芸〕 高橋 修一〔体育〕 洪谷 一典〔総合的な学習の時間〕

コース別演習	8:30	11:25	12:25	13:25	13:40	14:10	14:25
	受付	【コース別演習の発表】	【コース別演習のまとめ及び研修企画案の完成】 コース別演習の担当講師	移動・休憩	自己評価	閉講式	文部科学省初等中等教育局教育課程課 視学官 大滝 一登 教科調査官 杉本 直美 教科調査官 菊池 英慈 ◎目的：本研修を振り返り、成果を確認するとともに、研修講師となるための知識を深め、意識を高める。
11月30日(金)	8:30	11:25	12:25	13:25	13:40	14:10	14:25
第4日目	受付	◎目的：第3日目のコース別演習での成果を発表し、言語活動の充実方策について理解を深める。	◎目的：全体会を踏まえ、コース別演習の成果物及び各自の研修企画案の修正を行い、完成させる。				

I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（中央指導者研修）						
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室						
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、校長のリーダーシップの下、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、「特別の教科 道徳」の実施に向けた指導と評価、魅力的な教材の活用、実践活動や体験活動の推進等について、必要な知識等を習得させ、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。						
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 ・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、「道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）」等の講師等としての活動を行う者 ・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生 						
開催期日	平成30年5月14日（月）～平成30年5月18日（金）				5日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	200	人	受講者数	254	参加率	127.0%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体標準定員 800 人、受講者数 1,001 人、参加率 125.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	236	18	0	0	0	0	254
割合 (%)	92.9	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
	254						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・高校において、どのように道徳教育を推進していくかについて多くの示唆を頂き、方向性を見出すことができた。また、道徳教育を推進する具体策について考えることができた。 ・基本的な内容から具体的な指導案作成、研修プラン設定など、現場に持ち帰ってすぐに使える内容まで幅広く取り扱われていたので、明確な視野（帰校後こうする、市でこのように取り組む等）をもって参加することができた。 ・指導の基本的な考え方が見えてきた。評価すべきこと、評価の方向性が分かった。 ・新学習指導要領の主旨が道徳科にどのように反映しているのか、授業改善のポイントは何か、自分の中で漠然としていたものがはっきりとしてきました。 ・特別の教科道徳の充実に向けて、具体的な知識・理解だけでなく、その課題や校内で検討すべき点について明確になった。班別の取り組みでは、各学校の工夫点なども聞くことができ、とても参考になった。 ・学校教育全体を通して行う道徳教育の目標と道徳科の目標について、非常に分かりやすく教えていただきました。また、その内容を指導者の立場としてどう還元していくのかについて考える演習もあり、今回の研修を活用していこうという気持ちが高まりました。とても濃い3日間だったと感じています。 ・マンダラやダイヤモンドランキングは思考が整理され、とても良かった。校内研修でもぜひ使いたい。座学だけでなく授業づくり・模擬授業等の演習があったことは学んだことが生きて働く知識となり、よかった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校において「特別の教科 道徳」が全面実施の年度であることを踏まえ、「評価」についての協議時間を導入し、そのほかの演習や協議の時間も増やし、学校や地域において研修内容を生かしやすいように工夫した。 ・協議を充実させるため、グループの人数をできる限り少人数で編成した。 ・内容の重なりについての意見を踏まえ、講師に講義内容を確認した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修効果を高めるため、グループを適切な人数で編成し、1回目の受講対象者を主に指導主事、2回目を主に学校現場で勤務する教諭等に分け2回実施する。 ・研修成果活用計画書を事前課題に課し、研修講師となるべき指導者の養成が研修の目的であることを強調する。 ・研修成果活用に向けた演習の充実を図る。 ・研修講師となることを前提に、指導助言の在り方について学ぶ時間を設ける。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度 道德教育指導者養成研修（中央指導者研修）

日程表

【1日目】		8:45	9:15	10:00	11:00	11:15	12:30	13:30	14:45	15:00	17:00
5月14日(月)	受付	オリエンテーション	開講式	講義1 「道德教育の抜本的充実に向けて」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 主任学校教育官 降旗 友宏 ◎目的： 道德教育の抜本的充実に向けての最新の動向を理解する。	休憩	講義2 「今、求められる道德教育の充実に目指して」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一 教科調査官 浅見 哲也 ◎目的： 学習指導要領の趣旨を踏まえ、道德教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在り方について理解を深める。	昼食・休憩		休憩・移動	協議1 「学校の教育活動全体を通じて行う道德教育推進上の課題—情報交換・課題の共有—」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一 教科調査官 浅見 哲也 ◎目的： 実践事例から、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育推進上の課題を明確にする。	
				協議2 「学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の推進上の課題解決—道德教育推進教師として—」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一 教科調査官 浅見 哲也 ◎目的： 道德教育推進教師として、具体的事例等を踏まえ、道德教育推進上の課題解決策を考える。							
【2日目】		8:30	10:00	10:15	12:10	13:10	15:25	15:40	17:00		
5月15日(火)	受付	講義3 「心を育てる道德教育の具体的な展開」 帝京大学大学院 教授 赤堀 博行 ◎目的： 発達的段階を踏まえた上で、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の具体的な展開について、理解を深める。	休憩	事例発表・講評 「学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の実践と課題」 小学校：千葉市立園生小学校 教諭 鈴木 陽介 中学校：伊豆市立中伊豆中学校 教諭 山崎 裕 高等学校：三重県立桑名北高等学校 教諭 向井 典子 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一 教科調査官 浅見 哲也 ◎目的： 具体的事例を通して、道德教育の充実に向けた新たな視点を学ぶとともに、課題意識をもつ。	昼食・休憩	事例発表・講評・協議 「実践活動や体験活動を通じた道德教育」 京都市立松陽小学校 校長 前田 学 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 安部 恭子 ◎目的： 道德実践の学習活動の場としての特別活動の実践から、特別活動の特質を生かした道德教育の意義や役割について理解を深める。	休憩・移動	協議2 「学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の推進上の課題解決—道德教育推進教師として—」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一 教科調査官 浅見 哲也 ◎目的： 道德教育推進教師として、具体的事例等を踏まえ、道德教育推進上の課題解決策を考える。			
		協議1 「『特別の教科 道德』の充実に向けて」 職大大学大学院 教授 鳥 恒生 ◎目的： 「特別の教科 道德」の指導の基本方針について理解を深め、授業改善の視座を持つ。		講義5 「『特別の教科 道德』の指導と評価」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也 ◎目的： 「特別の教科 道德」の指導と評価について理解する。		演習・協議1 「『特別の教科 道德』の授業づくりとその評価—協議・課題解決策の検討—」 〈小学校部会指導助言者〉 荒川区立第四峡田小学校 校長 山本 洋 杉並区立西宮中学校 校長 由井 良昌 大分県教育委員会 指導主事 小野 勇一 武蔵大学 客員教授 實雅 枝子 北陸大学 教授 東風 安生 府中市立府中第一中学校 校長 森岡 耕平 聖徳大学 教授 吉本 恒幸 四天王寺大学 准教授 杉中 康平 ◎目的： 「特別の教科 道德」における指導の配慮事項について理解を深め、授業の質的向上に向けた方策を考える。 小学校部会は「特別の教科 道德」、中学校部会は「道德の時間」についての実践事例をもとに協議を行い、主体的・対話的に深い学びを実現する多様な指導方法を取り入れた学習指導案を作成する。					
【3日目】		8:30	10:00	10:15	11:45	12:45	17:00				
5月16日(水)	小・中学校部会 受付	講義4 「『特別の教科 道德』の充実に向けて」 職大大学大学院 教授 鳥 恒生 ◎目的： 「特別の教科 道德」の指導の基本方針について理解を深め、授業改善の視座を持つ。	休憩	講義5 「『特別の教科 道德』の指導と評価」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也 ◎目的： 「特別の教科 道德」の指導と評価について理解する。	昼食・休憩	演習・協議1 「『特別の教科 道德』の授業づくりとその評価—協議・課題解決策の検討—」 〈小学校部会指導助言者〉 荒川区立第四峡田小学校 校長 山本 洋 杉並区立西宮中学校 校長 由井 良昌 大分県教育委員会 指導主事 小野 勇一 武蔵大学 客員教授 實雅 枝子 北陸大学 教授 東風 安生 府中市立府中第一中学校 校長 森岡 耕平 聖徳大学 教授 吉本 恒幸 四天王寺大学 准教授 杉中 康平 ◎目的： 「特別の教科 道德」における指導の配慮事項について理解を深め、授業の質的向上に向けた方策を考える。 小学校部会は「特別の教科 道德」、中学校部会は「道德の時間」についての実践事例をもとに協議を行い、主体的・対話的に深い学びを実現する多様な指導方法を取り入れた学習指導案を作成する。					
		講義4 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一 ◎目的： 高等学校における道德教育の在り方について理解を深める。		講義5 「高等学校における道德教育の充実に向けて」 茨城県教育委員会高校教育課 課長補佐 長島 利行 ◎目的： 高等学校における道德教育の動向を理解する。		演習・協議1-1 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開—協議・課題解決策の検討—」 〈指導助言者〉 群馬県立大間々高等学校 教諭 飯塚 秀彦 広島県教育委員会事務局豊かな心育成課 指導主事 大平 剛生 広島経済大学 教授 嵐森 裕輔 ◎目的： 全体計画等の検討を念頭に置き、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を考える。	演習・協議1-2 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践—協議・課題解決策の検討—」				
【4日目】		8:30	12:00	13:00	17:00						
5月17日(木)	小・中学校部会 受付	演習・協議2-1 「『考え、議論する』道德の実践Ⅰ—学習指導案の作成・検討—」 ◎目的： 「特別の教科 道德」における学習指導案作成等に取り組むことを通じて、主体的・対話的に深い学びを実現する多様な指導方法を取り入れた授業づくりや、各学校・地域における指導助言の在り方等について理解を深める。	休憩	演習・協議2-2 「『考え、議論する』道德の実践Ⅱ—模擬授業の発表・協議—」 ◎目的： 模擬授業を通して、主体的・対話的に深い学びを実現する多様な指導方法を取り入れた授業づくりや、各学校・地域における指導助言の在り方等について理解を深める。	昼食・休憩	演習・協議2-1 「『考え、議論する』道德の実践Ⅰ—模擬授業の発表・協議—」 ◎目的： 模擬授業を通して、主体的・対話的に深い学びを実現する多様な指導方法を取り入れた授業づくりや、各学校・地域における指導助言の在り方等について理解を深める。					
		(小学校部会指導助言者) 荒川区立第四峡田小学校 校長 山本 洋 大分県教育委員会 指導主事 小野 勇一 北陸大学 教授 東風 安生 聖徳大学 教授 吉本 恒幸 (中学校部会指導助言者) 杉並区立西宮中学校 校長 由井 良昌 武蔵大学 客員教授 實雅 枝子 府中市立府中第一中学校 校長 森岡 耕平 四天王寺大学 准教授 杉中 康平									
5月18日(金)	高等学校部会 受付	演習・協議2-1 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践Ⅰ—全体計画等の改善策・展開例の検討—」 〈指導助言者〉 群馬県立大間々高等学校 教諭 飯塚 秀彦 広島県教育委員会事務局豊かな心育成課 指導主事 大平 剛生 広島経済大学 教授 嵐森 裕輔 ◎目的： 全体計画等の検討および発表を通して、高等学校における道德教育を充実するための知識・方法を得る。	休憩	演習・協議2-2 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践Ⅱ—全体計画等の改善策・展開例の発表・協議—」	昼食・休憩	演習・協議2-2 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践Ⅱ—全体計画等の改善策・展開例の発表・協議—」					
		演習・協議3 「『考え、議論する』道德の実践Ⅲ—代表班による模擬授業の発表・協議—」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一 教科調査官 浅見 哲也 ◎目的： 【小中部会】各分科会の代表班による模擬授業を通し、「特別の教科 道德」の指導の展開方策や各学校・地域における指導助言の在り方等について理解を深める。 【高校部会】小・中学校における「特別の教科 道德」の実践について理解を深める。					講義・演習 「道德教育を推進するリーダーとして」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一 教科調査官 浅見 哲也 ◎目的： 本研修を振り返り、研修成果をまとめるとともに、道德教育を推進するリーダーとしての知見を深める。				
【5日目】		8:30	11:30	12:30	15:00	15:15	17:00				
5月18日(金)	受付	演習・協議3 「『考え、議論する』道德の実践Ⅲ—代表班による模擬授業の発表・協議—」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一 教科調査官 浅見 哲也 ◎目的： 【小中部会】各分科会の代表班による模擬授業を通し、「特別の教科 道德」の指導の展開方策や各学校・地域における指導助言の在り方等について理解を深める。 【高校部会】小・中学校における「特別の教科 道德」の実践について理解を深める。	休憩	講義・演習 「道德教育を推進するリーダーとして」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一 教科調査官 浅見 哲也 ◎目的： 本研修を振り返り、研修成果をまとめるとともに、道德教育を推進するリーダーとしての知見を深める。	昼食・休憩	閉講式					
		【小中部会】各分科会の代表班による模擬授業を通し、「特別の教科 道德」の指導の展開方策や各学校・地域における指導助言の在り方等について理解を深める。 【高校部会】小・中学校における「特別の教科 道德」の実践について理解を深める。									

※日程等については変更することがあります。

I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（北海道・東北ブロック）							
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、校長のリーダーシップの下、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育や道徳教育推進教師を中心とした指導体制の整備と道徳教育の展開、「特別の教科 道徳」の指導と評価、実践活動や体験活動の推進等について、必要な知識等を習得させ、各地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修をマネジメントする指導者たる者 ・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生 							
開催期日	平成30年8月8日（水）～平成30年8月10日（金）			3日間				
受講人数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	101	人	参加率	101.0%
開催場所	ホテルポールスター札幌（北海道札幌市）							

※ 全体標準定員 800 人、受講者数 1,001 人、参加率 125.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	77	23	0	0	0	1	101
割合 (%)	77.0	23.0	0.0	0.0	0.0	1.0	
	100	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・これまで道徳教育推進教師として様々な取り組みをしてきたが、その中で疑問や不安に感じる事が多々あった。それを解決できたのが最もよかった点である。 ・新学習指導要領での道徳教育・道徳科について、わかりやすく詳しく繰り返し聞くことで理解が深まったし、他校の先生方との交流により、推進教師としての実践意欲が高まったと思う。 ・特別活動とのつながりを研修することができた点がよかったです。今求められている道徳教育について、多くの講義で様々な視点からお話を頂いた点がよかったです。 ・道徳なので小・中学校が中心の内容となるが、高校からの参加者のことを考慮し、高校の内容をより充実させてほしい。 ・通常学級の道徳の授業の推進が主な内容であったため勉強になりましたが、知的障害の子どもたちが通う特別支援学校の課題、授業展開の方法等、少し違うと感じました。通常学級の中でも発達障害の方を含めた授業展開の方法などがあれば、もっと参考になると思いました。 ・演習、特に指導案作りの時間が短かった。いろいろな地域で道徳の研究をなさっている先生方との指導案づくりは大変中身が濃く、もっと多くのことを話し合いたかった。 ・指導案作成では4人くらいの班で行うか、もしくは6人でもホワイトボードのようなもので、話し合いやすい、深めやすい場になると、よりよいのではないかと感じた。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校において「特別の教科 道徳」が全面実施の年度であることを踏まえ、「評価」についての協議時間を導入し、そのほかの演習や協議の時間も増やし、学校や地域において研修内容を生かしやすいように工夫した。 ・協議を充実させるため、グループの人数をできる限り少人数で編成した。 ・内容の重なりについての意見を踏まえ、講師に講義内容を確認した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修成果活用計画書を事前課題に課し、研修講師となるべき指導者の養成が研修の目的であることを強調する。 ・研修成果活用に向けた演習の充実を図る。 ・研修講師となることを前提に、指導助言の在り方について学ぶ時間を設ける。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）

【北海道・東北ブロック 日程表】

8月8日	9:00	9:20	9:50	11:05	12:15	13:15	13:45	14:00	15:30	15:45	17:00
	受付	開講式	オリエンテーション	講義1 「道徳教育の抜本的充実に向けて」 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 課長補佐 降旗 友宏	講義2 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	講義3 「実践活動や体験活動を通して道徳教育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 安部 恭子	講義4 「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の推進上の課題－情報交換・課題の共有－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	休 憩	休 憩	休 憩	休 憩
8月9日	9:00	9:30	10:45	12:15	13:15	15:30	15:40	17:00			
	小・中学校校部会	講義(小・中①) 「『特別の教科 道徳』の充実に向けて」 秋田公立美術大学 教授 毛内 嘉威	講義(小・中②) 「『特別の教科 道徳』の指導と評価」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	演習・協議1 「『考え、議論する』道徳の実践－学習指導案の作成・検討－」 ＜小学校指導助言者＞ 北海道教育庁石狩教育局教育支援課 主査 菅原 巧 北海道教育庁上川教育局教育支援課 主査 成田 仁 ＜中学校指導助言者＞ 北海道教育庁石狩教育局教育支援課 主任指導主事 田口 範人 北海道教育庁釧路教育局教育支援課 主任指導主事 鈴木 毅	演習・協議2 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践－全体計画等の改善策・展開例の検討・発表・協議－」 ＜指導助言者＞ 文京学院大学 教授 小泉 博明	休 憩	休 憩	休 憩	休 憩	休 憩	
8月10日	9:00	10:30	10:45	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00			
	高等学校校部会	講義(高校) 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 文京学院大学 教授 小泉 博明	事例発表・講評・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 高等学校： 北海道浦河高等学校 教師 佐藤 友洋 ＜指導助言者＞ 文京学院大学 教授 小泉 博明	演習・協議3 「道徳教育の効果的な推進方策－研修プランの作成－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	演習・協議4 「道徳教育を推進するリーダーとして」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	閉講式	閉講式	閉講式	閉講式	閉講式	

8月9日	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	15:30	15:40	17:00			
	小・中学校校部会	講義(小・中①) 「『特別の教科 道徳』の充実に向けて」 秋田公立美術大学 教授 毛内 嘉威	講義(小・中②) 「『特別の教科 道徳』の指導と評価」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	演習・協議1 「『考え、議論する』道徳の実践－学習指導案の作成・検討－」 ＜小学校指導助言者＞ 北海道教育庁石狩教育局教育支援課 主査 菅原 巧 北海道教育庁上川教育局教育支援課 主査 成田 仁 ＜中学校指導助言者＞ 北海道教育庁石狩教育局教育支援課 主任指導主事 田口 範人 北海道教育庁釧路教育局教育支援課 主任指導主事 鈴木 毅	演習・協議2 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践－全体計画等の改善策・展開例の検討・発表・協議－」 ＜指導助言者＞ 文京学院大学 教授 小泉 博明	休 憩	休 憩	休 憩	休 憩	休 憩	
8月10日	9:00	10:30	10:45	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00			
	高等学校校部会	講義(高校) 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 文京学院大学 教授 小泉 博明	事例発表・講評・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 高等学校： 北海道浦河高等学校 教師 佐藤 友洋 ＜指導助言者＞ 文京学院大学 教授 小泉 博明	演習・協議3 「道徳教育の効果的な推進方策－研修プランの作成－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	演習・協議4 「道徳教育を推進するリーダーとして」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	閉講式	閉講式	閉講式	閉講式	閉講式	

8月10日	9:00	10:30	10:45	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00			
	高等学校校部会	講義(高校) 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 文京学院大学 教授 小泉 博明	事例発表・講評・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 高等学校： 北海道浦河高等学校 教師 佐藤 友洋 ＜指導助言者＞ 文京学院大学 教授 小泉 博明	演習・協議3 「道徳教育の効果的な推進方策－研修プランの作成－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	演習・協議4 「道徳教育を推進するリーダーとして」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	閉講式	閉講式	閉講式	閉講式	閉講式	

※日程等について変更することがあります

I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（関東・甲信越ブロック）							
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、校長のリーダーシップの下、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育や道徳教育推進教師を中心とした指導体制の整備と道徳教育の展開、「特別の教科 道徳」の指導と評価、実践活動や体験活動の推進等について、必要な知識等を習得させ、各地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修をマネジメントする指導者たる者 ・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生 							
開催期日	平成30年8月27日（月）～平成30年8月29日（水）			3日間				
受講人数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	120	人	参加率	120.0%
開催場所	ホテルポートプラザちば（千葉県千葉市）							

※ 全体標準定員 800 人、受講者数 1,001 人、参加率 125.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	103	17	0	0	0	0	120
割合 (%)	85.8	14.2	0.0	0.0	0.0	0.0	
	120						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・3日間、様々なプログラムが組まれており、先生方のご講義も研修生同士の協議もレベルが高く、勉強になることが多かった。 ・他県・他校種の意見交流、先生方の講義が自分の持っていた疑問を解消するのに充分であった。ここで学んだことを伝えていきたい。 ・高校教育の中ではっきりとしていなかった道徳が、何故行わなくてはならないのか？その方策は？ということがよく理解できた研修でした。特に全体計画を見直す点は、”何とすべきか”を考えながらできたため、有意義な時間でした。 ・特別の教科道徳の充実に向けて、具体的な知識・理解だけではなく、その課題や校内で検討すべき点について明確になった。班別の取組では、各学校の工夫点なども聞くことができ、とても参考になった。 ・調査官のお話はどれも勉強になりました。1日目の午後に行われた協議で道徳教育という視点よりも道徳科の視点に話に移っていたので、難しかったです。 ・演習の時間が短いです。せつかく指導案やプランをつくっても、じっくり共有するような時間が少ない。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校において「特別の教科 道徳」が全面実施の年度であることを踏まえ、「評価」についての協議時間を導入し、そのほかの演習や協議の時間も増やし、学校や地域において研修内容を生かしやすいように工夫した。 ・協議を充実させるため、グループの人数をできる限り少人数で編成した。 ・内容の重なりについての意見を踏まえ、講師に講義内容を確認した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修成果活用計画書を事前課題に課し、研修講師となるべき指導者の養成が研修の目的であることを強調する。 ・研修成果活用に向けた演習の充実を図る。 ・研修講師となることを前提に、指導助言の在り方について学ぶ時間を設ける。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度道德教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）

【 関東・甲信越ブロック 日程表 】

	9:00	9:20	9:50	11:05	11:15	12:15	13:15	13:45	14:00	15:30	15:45	17:00
8月27日	受付	開講式 オリエンテーション	講義 1 「道德教育の抜本的充実に向けて」 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 主任学校教育官 降旗 友宏 ◎目的： 道德教育の抜本的充実に向けての最新の動向を理解する。	休憩	講義 2 「今、求められる道德教育の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也 ◎目的： 学習指導要領の趣旨を踏まえ、道德教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在り方について理解を深める。	昼食・休憩	休憩	事例発表・講評 「学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の実践と課題」 小学校： 我孫子市立並木小学校 教諭 伊藤 昌子 中学校： 栄町立栄中学校 教諭 渡辺 久美子 ◎目的： 具体的事例を通して、道德教育の充実に向けた新たな視点を学ぶとともに、課題を明確にする。	休憩	協議 「学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の推進上の課題—情報交換・課題の共有—」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也 ◎目的： 実践事例から、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育推進上の課題解決策を探る。		
8月28日	受付	講義（小・中①） 「『特別の教科 道德』の充実に向けて」 千葉大学 教授 土田 雄一 ◎目的： 「特別の教科 道德」について理解を深め、授業改善への視座を持つ。	休憩	講義（小・中②） 「『特別の教科 道德』の指導と評価」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也 ◎目的： 「特別の教科 道德」の指導と評価の在り方について理解を深める。	昼食・休憩	演習・協議 1 発表・協議 「『考え、議論する』道德の実践 —学習指導案の作成・検討—」 <小学校部会指導助言者> 横芝光町立横芝小学校 校長 佐瀬 一生 浦安市立明海小学校 教頭 佐瀬 久代 <中学校部会指導助言者> 君津市立周西南中学校 校長 柴田 克 成田市立成成小学校 校長 石川 昭代 ◎目的： 小学校部会及び中学校部会に分かれ、『特別の教科 道德』における学習指導案の作成・発表・協議を行うことを通じて、主体的・対話的で深い学びを実現する多様な指導方法及び評価の具体的な在り方等について理解を深める。						
8月29日	受付	講義（高校） 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 群馬県立大間々高等学校 教諭 飯塚 秀彦 ◎目的： 道德実践の学習活動の場としての特別活動について、特別活動の特質を生かした道德教育の意義や役割について理解する。	休憩	事例発表・講評・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 高等学校： 千葉県立松戸高等学校 教諭 足達 正明 <指導助言者> 群馬県立大間々高等学校 教諭 飯塚 秀彦 ◎目的： 研修内容全体を理解するとともに、研修成果の生かし方について理解を深める。	昼食・休憩	演習・協議 2 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践—全体計画等の改善策・展開例の検討・発表・協議—」 <指導助言者> 群馬県立大間々高等学校 教諭 飯塚 秀彦 ◎目的： 本研修を振り返り、道德教育を推進するリーダーとしての知見を深める。						
8月29日	受付	講義 3 「実践活動や体験活動を通じた道德教育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 安部 恭子 ◎目的： 道德実践の学習活動の場としての特別活動について、特別活動の特質を生かした道德教育の意義や役割について理解する。	休憩	演習・協議 3 「道德教育の効果的な推進方策—研修プランの作成—」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一 ◎目的： 研修内容全体を理解するとともに、研修成果の生かし方について理解を深める。	昼食・休憩	講義 4 「道德教育を推進するリーダーとして」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 澤田 浩一 ◎目的： 本研修を振り返り、道德教育を推進するリーダーとしての知見を深める。	閉講式					

※日程等について変更することがあります

I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（東海・北陸ブロック）							
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、校長のリーダーシップの下、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育や道徳教育推進教師を中心とした指導体制の整備と道徳教育の展開、「特別の教科 道徳」の指導と評価、実践活動や体験活動の推進等について、必要な知識等を習得させ、各地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修をマネジメントする指導者たる者 ・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生 							
開催期日	平成30年7月30日（月）～平成30年8月1日（水）			3日間				
受講人数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	131	人	参加率	131.0%
開催場所	ボルファートとやま（富山県富山市）							

※ 全体標準定員 800 人、受講者数 1,001 人、参加率 125.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	111	19	0	0	1	0	131
割合 (%)	84.7	14.5	0.0	0.0	0.8	0.0	
	130						
	99.2						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・道徳科たるポイント、授業の改善等、知りたいことを何度も繰り返し講義いただいたことで理解が深まった。演習も効果的だった。 ・自分自身が考えを整理することや、新たな気づきを持つことができたことと、具体的に校内や市内の教員にどう伝えていくか、という見通しがもてたことがよかったです。 ・多くの先生方と道徳について交流できたのがよかったです。特に、他県の先生と話をすることで様々な情報が聞けたし、よい刺激になった。 ・一方的に講義を聴くだけでなく、演習も混じえており、自分自身の中で本当に理解できているか確認しながら進めることができました。 ・正しいことをしっかりと学ぶことができたこと、勤務している学校について見直すことができたこと、様々な情報交換をすることができたことなどが大変ありがたかった。学んだことを持ち帰り、伝えていく必要があるので、そのような機会を設定し、確実に実践していくように働きかけていきたい。 ・本校の教員は「道徳教育」についての意識・関心が低く、自分自身も同様であった。道徳教育に関する基本的な事項について知ることができたと同時に、これまで学校で取り組んできたことを中心に確認して整理することが土台になることが理解できた。また、他地域・他校種など、様々な学校の意識の高い先生方との演習等、大変参考になった。 ・特別支援についても少し触れていただけるとありがたいです。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校において「特別の教科 道徳」が全面実施の年度であることを踏まえ、「評価」についての協議時間を導入し、そのほかの演習や協議の時間も増やし、学校や地域において研修内容を生かしやすいように工夫した。 ・協議を充実させるため、グループの人数をできる限り少人数で編成した。 ・内容の重なりについての意見を踏まえ、講師に講義内容を確認した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修成果活用計画書を事前課題に課し、研修講師となるべき指導者の養成が研修の目的であることを強調する。 ・研修成果活用に向けた演習の充実を図る。 ・研修講師となることを前提に、指導助言の在り方について学ぶ時間を設ける。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）

【 東海・北陸ブロック 日程表 】

7月30日	9:00	9:20	9:50	11:05	11:15	12:15	13:15	13:45	14:00	15:30	15:45	17:00
		受付	オリエンテーション	講義1 「道徳教育の抜本的充実に向けて」 文部科学省 初等中等教育課程課 課長補佐 降旗 友宏	講義2 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	昼食・休憩	講義3 「実践活動や体験活動を通して道徳教育」 文部科学省初等中等教育課程課 教科調査官 安部 恭子	休憩	講義4 「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の推進上の課題—情報交換・課題の共有—」 文部科学省初等中等教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	休憩		
				◎目的：道徳教育の抜本的充実に向けての最新の動向を理解する。	◎目的：道徳教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在り方について理解を深める。		◎目的：道徳教育の実践の場としての特別活動の意義から、実践活動の特質を生かした道徳教育の意義や役割について理解する。					◎目的：実践事例から、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の推進上の課題解決案を探る。

7月31日	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	15:30	15:40	17:00
	小・中学校部会	講義(小・中①) 「『特別の教科 道徳』の充実に向けて」 北陸大学 教授 東風 安生	講義(小・中②) 「『特別の教科 道徳』の指導と評価」 文部科学省初等中等教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	昼食・休憩	演習・協議1 「『考え、議論する』道徳の実践—学習指導案の作成・検討—」 ＜小学校指導助言者＞ 富山県東部教育事務所指導課 指導主事 斉藤 紀子 富山県西部教育事務所指導課 指導主事 小川 直子 ＜中学校指導助言者＞ 富山県東部教育事務所指導課 主任指導主事 福田 有晃 富山県西部教育事務所指導課 指導主事 柿埜 哲男	休憩	発表・協議	
	高等学校部会	講義(高校) 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 茨城県教育委員会高校教育課 課長補佐 長島 利行	事例発表・講評・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 高等学校：南砺福野高等学校 教諭 宮袋 誠 ＜指導助言者＞ 茨城県教育委員会高校教育課 課長補佐 長島 利行	昼食・休憩	演習・協議2 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践—全体計画等の改善策・展開例の検討・発表・協議—」 ＜指導助言者＞ 茨城県教育委員会高校教育課 課長補佐 長島 利行	休憩		
				◎目的：『特別の教科 道徳』の指導と評価の在り方について理解を深める。	◎目的：『特別の教科 道徳』における学習指導案の作成・発表・協議を行うことを通して、主体的・対話的で深い学びを実現する多様な指導方法及び評価の具体的な在り方等について理解を深める。			

8月1日	9:00	10:30	10:45	12:30	13:30	15:00	15:15	
	受付	事例発表・講評 「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」 小学校：高岡市立定塚小学校 教諭 若林 麻理子 中学校：滑川市立滑川中学校 教諭 岩城 廣和	演習・協議3 「道徳教育の効果的な推進方策—研修プランの作成—」 文部科学省初等中等教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	昼食・休憩	講義4 「道徳教育を推進するリーダーと—」 文部科学省初等中等教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	閉講式		
				◎目的：研修成果の全体を理解するとともに、演習成果の生かし方について理解を深める。	◎目的：研修成果を振り返り、道徳教育を推進するリーダーとしての知見を深める。			

※日程等について変更することがあります

I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（近畿ブロック）							
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、校長のリーダーシップの下、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育や道徳教育推進教師を中心とした指導体制の整備と道徳教育の展開、「特別の教科 道徳」の指導と評価、実践活動や体験活動の推進等について、必要な知識等を習得させ、各地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修をマネジメントする指導者たる者 ・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生 							
開催期日	平成30年7月25日（水）～平成30年7月27日（金）			3日間				
受講人数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	118	人	参加率	118.0%
開催場所	新梅田研修センター（大阪府大阪市）							

※ 全体標準定員 800 人、受講者数 1,001 人、参加率 125.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	93	25	0	0	0	0	118
割合 (%)	78.8	21.2	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	118						

2. 研修内容に関する主な意見

・国の動向・評価についての考え方、これからの授業改善に向けて等、知りたい情報を詳しく知ることができました。
 ・基本的な内容から具体的な指導案作成、研修プラン設定など、現場に持ち帰ってすぐに使える内容まで幅広く取り扱われていたので、明確な視野（帰校後こうする、市でこのように取り組む等）をもって参加することができた。
 ・道徳の評価についてが一番知りたかったことであるが、評価だけでなく、授業の方法・作り方・教科化に至ったこれまでの流れ等々、様々な知見を広げることができた。
 ・今年度から教科になり、現場で対応していかないといけないのは分かっているのですが、何をどうやっていけばよいのか迷うばかりで、あまり取り組めていないのが現状でした。この研修を受け、まずは校内で研修をし、本研修で学んだことを広め、道徳科の学習を充実させていきたいと思えます。
 ・他府県の先生方と共に協議することで、様々な意見・考えに触れることができ、新たな視点を得ることができた。
 ・他県の先生や異校種の先生とたくさん交流ができる研修を何度も入れてくださったのがよかった。講義を聞くばかりでなく、話し、考えられるのがよかった。先生方は話すことが好きなんだ、と改めて思いました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校において「特別の教科 道徳」が全面実施の年度であることを踏まえ、「評価」についての協議時間を導入し、そのほかの演習や協議の時間も増やし、学校や地域において研修内容を生かしやすいように工夫した。 ・協議を充実させるため、グループの人数をできる限り少人数で編成した。 ・内容の重なりについての意見を踏まえ、講師に講義内容を確認した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修成果活用計画書を事前課題に課し、研修講師となるべき指導者の養成が研修の目的であることを強調する。 ・研修成果活用に向けた演習の充実を図る。 ・研修講師となることを前提に、指導助言の在り方について学ぶ時間を設ける。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）

【近畿ブロック 日程表】

7月25日	9:00	9:20	9:50	11:05	11:15	12:15	13:15	13:45	14:00	15:30	15:45	17:00
		受付	開講式	オリエンテーション	講義1 「道徳教育の抜本的充実に向けて」 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 課長補佐 降旗 友宏	講義2 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	昼食・休憩	事例発表・講評 「学校の教育活動全体を通じて 行う道徳教育の実践と課題」 小学校：寝屋川市立石津小学校 校長 森本 朋美 教諭 井上 卓也 中学校：茨木市立西陵中学校 教諭 江良 愛 茨木市立南中学校 教諭 中島 弘起	休 憩	休 憩	協 議 「学校の教育活動全体を通じて行う道徳 教育の推進上の課題—情報交換・課題の 共有—」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	
					◎目的： 道徳教育の抜本的充実に向けての最新 の動向を理解する。	◎目的： 学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解する とともに、推進の在り方について理解を深める。		◎目的： 具体的な事例を通して、道徳教育の充実に向け た新たな視点を学ぶとともに、課題を明確にす る。			◎目的： 基礎基幹から、学校の教育活動全体を通じて行う道徳 教育の推進上の課題解決策を探る。	

7月26日	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	15:30	15:40	17:00
	受付	講義(小・中①) 「『特別の教科 道徳』の充実 に向けて」 畿央大学大学院 教授 島 恒生	講義(小・中②) 「『特別の教科 道徳』の指導と評価」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	昼食・休憩	演習・協議1 「『考え、議論する』道徳の実践 —学習指導案の作成・検討—」 ＜小学校部会指導助言者＞ 枚方市教育委員会 学校教育指導課 茨木市教育委員会 学校教育推進課 ＜中学校部会指導助言者＞ 和泉市教育センター 八尾市教育委員会 事務局教育センター	休 憩	発表・協議	
		◎目的： 『特別の教科 道徳』について理解を深 め、授業改善への指針を持つ。	◎目的： 『特別の教科 道徳』の指導と評価の在り方について理解を深 める。		◎目的： 小学校部会及び中学校部会に分かれ、『特別の教科 道徳』における学習指導案の作成・発表・協議を行うことを通じて、主体的・対話的で深 い学びを実現する多様な指導方法及び評価の具体的な在り方等について理解を深める。			
	9:00	10:30	10:45	11:45	12:45	15:30	15:40	17:00
	付	講義(高校) 「人間としての在り方生き方に関 する教育の展開」 広島経済大学 教授 胤森 裕暢	事例発表・講評・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の 実践と課題」 高等学校： ＜指導助言者＞ 広島経済大学 教授 胤森 裕暢	昼食・休憩	演習・協議2 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践—全体計画等の改善策・展開例の検討・発表・協議—」 ＜指導助言者＞ 広島経済大学 教授 胤森 裕暢	休 憩		
		◎目的： 高等学校における道徳教育の在り方について理解を深めるとともに、全体計画等の検討及び発表を通して、道徳教育を充実するための知識・方法を得る。						

7月27日	9:00	10:30	10:45	12:30	13:30	15:00	15:15
	受付	講義3 「実践活動や体験活動を通して道徳教 育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 安部 恭子	演習・協議3 「道徳教育の効果的な推進方策—研修プランの作成—」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	昼食・休憩	講義4 「道徳教育を推進するリーダーと して」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	閉 講 式	
		◎目的： 道徳教育の推進の場としての特別活動の 実践から、特別活動の特徴を生かした道徳教育 の意義や役割について理解する。	◎目的： 研修成果の全体を理解するとともに、演習成果の生かし方について理解を 深める。		◎目的： 本研修を振り返り、道徳教育を推進する リーダーとしての知見を深める。		

※日程等について変更することがあります

I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（中国・四国ブロック）							
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、校長のリーダーシップの下、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育や道徳教育推進教師を中心とした指導体制の整備と道徳教育の展開、「特別の教科 道徳」の指導と評価、実践活動や体験活動の推進等について、必要な知識等を習得させ、各地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修をマネジメントする指導者たる者 ・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生 							
開催期日	平成30年8月22日（水）～平成30年8月24日（金）					3日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	150	人	参加率	150.0%
開催場所	こうち男女共同参画センターソレ（高知県高知市）							

※ 全体標準定員 800 人、受講者数 1,001 人、参加率 125.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	113	37	0	0	0	0	150
割合 (%)	75.3	24.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	150						

2. 研修内容に関する主な意見

・道徳が教科化されることに対する不安が解消される研修でした。自分が知りたいと思う内容の研修が多かったです。
 ・新学習指導要領についての分かりやすい説明と、小・中・高における具体的実践例は、このような研修の場でないと、なかなか聞くことができず、有意義な3日間だった。
 ・今後、道徳教育推進リーダーとして「何をすべきか」、多くのヒントを得ることができました。
 ・2日目の午後（台風で中止）の内容を一番楽しみにしていたため、それが中止になってしまった。そのため、やや小・中学校中心の講義が多かった。
 ・講義だけでなく、ワークショップ（個人思考・グループ協議・全体交流）があり、自分事として考えられる工夫がされていた。
 ・4人グループの協議は、一人一人のお話を丁寧に聞くことができ、時間も充分あり、活動しやすかったです。
 ・協議・演習については、もう少し時間があれば、より深まるのではないかと思った。協議というより情報交換が主となったように思う（これもとてもありがたかったので、必要だと思います）。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

・小学校において「特別の教科 道徳」が全面実施の年度であることを踏まえ、「評価」についての協議時間を導入し、そのほかの演習や協議の時間も増やし、学校や地域において研修内容を生かしやすいように工夫した。
 ・協議を充実させるため、グループの人数をできる限り少人数で編成した。
 ・内容の重なりについての意見を踏まえ、講師に講義内容を確認した。

次年度に向けて

・研修成果活用計画書を事前課題に課し、研修講師となるべき指導者の養成が研修の目的であることを強調する。
 ・研修成果活用に向けた演習の充実を図る。
 ・研修講師となることを前提に、指導助言の在り方について学ぶ時間を設ける。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（九州・沖縄ブロック）							
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、校長のリーダーシップの下、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育や道徳教育推進教師を中心とした指導体制の整備と道徳教育の展開、「特別の教科 道徳」の指導と評価、実践活動や体験活動の推進等について、必要な知識等を習得させ、各地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修をマネジメントする指導者たる者 ・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生 							
開催期日	平成30年10月24日（水）～平成30年10月26日（金）			3日間				
受講人数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	127	人	参加率	127.0%
開催場所	ホテル自治会館（鹿児島県鹿児島市）							

※ 全体標準定員 800 人、受講者数 1,001 人、参加率 125.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	110	17	0	0	0	0	127
割合 (%)	86.6	13.4	0.0	0.0	0.0	0.0	
	127						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・道徳科の指導方法や評価について講義の中からだけでなく、班別協議の中で他県の先生方からも多くの意見を聞き、新たな学びがありました。 ・自分が日頃感じていた疑問が随分解消された。また、気づいていなかった評価に対しての考え方なども教えていただき、大変参考になりました。 ・教科としての道徳（小・中）と高校の道徳教育の位置づけが分かった。高校に置いて取り組んでいく課題が明確になった。 ・特別支援学校での指導と評価についてもご指導いただきたいと思った。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校において「特別の教科 道徳」が全面実施の年度であることを踏まえ、「評価」についての協議時間を導入し、そのほかの演習や協議の時間も増やし、学校や地域において研修内容を生かしやすいように工夫した。 ・協議を充実させるため、グループの人数をできる限り少人数で編成した。 ・内容の重なりについての意見を踏まえ、講師に講義内容を確認した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修成果活用計画書を事前課題に課し、研修講師となるべき指導者の養成が研修の目的であることを強調する。 ・研修成果活用に向けた演習の充実を図る。 ・研修講師となることを前提に、指導助言の在り方について学ぶ時間を設ける。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）

【九州・沖縄ブロック 日程表】

9:00	9:20	9:50	11:05	11:15	12:15	13:15	13:45	14:00	15:30	15:45	17:00
	受付	開講式	オリエンテーション	講義1 「道徳教育の抜本的充実に向けて」 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 課長補佐 降旗 友宏	講義2 「今、求められる道徳教育の充実を目指す」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	昼食・休憩	事例発表・講評 「学校の教育活動全体を通じて 行う道徳教育の実践と課題」 小学校： 中学校： ◎目的： 具体的な事例を通して、道徳教育の充実に向け た新たな視点を学ぶとともに、課題を明確にする。	休 憩	休 憩	協議 「学校の教育活動全体を通じて行う道徳 教育の推進上の課題—情報交換・課題の 共有—」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也 ◎目的： 具体的な事例を通して、道徳教育の推進上の課題 解決に向けて、学校の教育活動全体を通じて行う道徳 教育の推進上の課題解決策を探る。	

9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	15:30	15:40	17:00
小・中学校 校 部 会	講義(小・中①) 「『特別の教科 道徳』の充実 に向けて」 山口市立上郷小学校 校長 坂本 哲彦 ◎目的： 『特別の教科 道徳』について理解を深 め、授業改善への指針を持つ。	休 憩	講義(小・中②) 「『特別の教科 道徳』の指導と評価」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也 ◎目的： 『特別の教科 道徳』の指導と評価の在り方について理解を深 める。	演習・協議1 「『考え、議論する』道徳の実践 —学習指導案の作成・検討—」 ＜小学校部会指導助言者＞ ＜中学校部会指導助言者＞ ◎目的： 小学校部会及び中学校部会に分かれ、『特別の教科 道徳』における学習指導案の作成・発表・協議を行うことを通して、主体的・対話的で深 い学びを実現する多様な指導方法及び評価の具体的な在り方等について理解を深める。	休 憩	発表・協議	
10月25日	9:00	10:30	10:45	11:45	12:45	17:00	
高等学校 校 部 会	講義(高校) 「人間としての在り方生き方に関 する教育の展開」 広島県教育委員会 指導主事 大平 剛生	休 憩	事例発表・講評・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の 実践と課題」 高等学校： ＜指導助言者＞ 広島県教育委員会 指導主事 大平 剛生	演習・協議2 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践—全体計画等の改善策・展開例の検討・発表・協議—」 ＜指導助言者＞ 広島県教育委員会 指導主事 大平 剛生	休 憩		

9:00	10:30	10:45	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00
10月26日	受付	講義3 「実践活動や体験活動を通して道徳教 育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 安部 恭子 ◎目的： 道徳的実践の学習活動の場としての特別活動の 実践から、特別活動の特徴を生かした道徳教育 の意義や役割について理解する。	休 憩	演習・協議3 「道徳教育の効果的な推進方策—研修プランの作成—」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一 ◎目的： 研修成果の全体を理解するとともに、演習成果の生かし方について理解を 深める。	昼食・休憩	閉 講 式	講義4 「道徳教育を推進するリーダーと して」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 澤田 浩一 ◎目的： 本研修を振り返り、道徳教育を推進する リーダーとしての知見を深める。

※日程等について変更することがあります

I 研修概要

研修名	学校教育の情報化指導者養成研修							
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室							
研修目的	各教科等における効果的な指導方法の開発、校務の効率化や学校経営の改善等を進めるため、次期学習指導要領の趣旨を踏まえ、地域や学校の実態に即して学校教育の情報化を組織的に推進することが重要である。 本研修では、ICTを活用したわかる授業を展開するための手だて、特色ある教育課程の編成や学校課題解決のためのICT活用戦略づくり等、教育活動の質の改善を円滑に行うため、各学校や地域における研修のマネジメントを推進する指導者として必要な知識等を習得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等を行うことのできる指導者の養成を図る。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者（学校教育の情報化のための整備活動に関わる者を含む）であって、各地域において本研修内容を踏まえた管理職等への説明や学校の指導助言等の指導者としての活動を行う者 ・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者 ・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生 							
開催期日	平成31年1月28日（月）～平成30年2月1日（金）				5日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	125	人	参加率	125.0%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	107	17	0	0	0	1	125
割合 (%)	85.6	13.6	0.0	0.0	0.0	0.8	
	124						
	99.2						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・全国各地の様々な校種・職種の先生方との研修によって、数多くのことを学ぶことができました。他の地域での取り組みや先生方からのご意見を今後の研修業務に生かしていきたいと思えます。 ・現在なぜ情報活用能力が必要とされているのかの背景やその育成の方向性を丁寧に示していただき、分かりやすかった。 ・授業づくりから情報活用能力、そして校務の情報化と様々な内容について考えるプログラムだったと思えます。 ・各校のICTに対する過信や過ちを論理的かつ簡潔に説明することができる題材ばかりで、今後の自地区の普及に大きな影響を与えて頂ける研修でした。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度は、使用するタブレット機の台数が増えたため、ネットワークへの接続トラブルが生じた。これを踏まえ、タブレット端末の設定を見直すことで、ネットワークへの接続トラブルなく研修運営を十全に行なうことができた。 ・受講者の意見を踏まえ、演習時に部会ごとに部屋を分けた。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年、プログラミング教育が小学校で必修化されることを受け、児童がプログラミング的思考を高められるように引き続き研修コマに位置づけ、内容の充実を図る。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度 学校教育の情報化指導者養成研修
日程表

1日目

平成31年 1月28日 (月)	9:30	10:00	11:00	12:00	13:00	15:15	15:30	17:00
	受付	開講式・オリエンテーション	<p>講義 1</p> <p>「新しい時代における学校教育の情報化」 文部科学省 初等中等教育局 情報教育・外国語教育課 情報教育振興室長 折笠 史典</p> <p>◎目的： 教育改革の方向性を見据え、現状と課題とを踏まえた学校教育の情報化推進方策の全体像を捉える。</p>	昼休み	<p>講義 2</p> <p>「新学習指導要領を踏まえた学校教育の情報化」 東北大学 教授 堀田 龍也</p> <p>◎目的： 新学習指導要領を踏まえた学校教育の情報化を推進する上での重要なポイントを理解するとともに、学校教育の情報化に関する諸外国の取組を知り、視野を広める。</p>	休憩	<p>演習</p> <p>「各地域における学校教育の情報化推進の現状と課題」</p> <p>◎目的： 各地域における学校教育の情報化に関する取組について情報交換をすることにより、課題を共有する。</p>	休憩

2日目

平成31年 1月29日 (火)	8:30	12:30	13:30	17:00
	<p>講義・事例発表・演習 1</p> <p>「分かりやすい授業づくりのための教科指導におけるICT活用」 東京学芸大学 准教授 高橋 純</p> <p>◎目的： 各教科等の目的の実現に向けて、「主体的・対話的で深い学び」の考え方も踏まえ、効果的かつ計画的なICT活用による授業改善について検討する。</p>	昼休み	<p>講義・事例発表・演習 2</p> <p>「情報活用の実践力を育む学習活動の設計」 東北学院大学 教授 稲垣 忠</p> <p>◎目的： さまざまな教科・単元で情報活用の実践力を育成する指導方法と評価を考え、児童生徒のICT活用を含めたどのような学習活動を設計すればよいのか検討する。</p>	

3日目

平成31年 1月30日 (水)	8:30	12:30	13:30	17:00
	<p>講義・事例発表・演習（小学校部会 1）</p> <p>「児童生徒の探究的・協同的な学習におけるICT活用」 鳴門教育大学 准教授 泰山 裕</p> <p>◎目的： 「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、一人一台のタブレット端末を活用することによって、探究的・協同的な学習におけるICT活用による授業改善について検討する。</p>	昼休み	<p>講義・事例発表・演習（小学校部会 2）</p> <p>「プログラミング的思考の育成」 埼玉大学 教授 山本 利一</p> <p>◎目的： 中学校、高等学校で扱うプログラミングについて理解したうえで、プログラミング的思考の育成について考え、発達段階に応じて、どのような指導を行えばよいかを検討する。</p>	
	<p>講義・事例発表・演習（中学校・高等学校部会）</p> <p>「情報の科学的な理解を深める指導」（中学校・高等学校部会） 文部科学省教科調査官 鹿野 利春</p> <p>◎目的： 中学校における情報活用能力、高等学校における情報化の科目再編、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、情報の科学的な理解を育むことの重要性について考え、発達段階に応じて、どのような指導を行えばよいかを検討する。</p>	昼休み		

4日目

平成31年 1月31日 (木)	8:30	12:00	13:00	17:00
	<p>講義・事例発表・演習 3</p> <p>「情報社会に主体的に参画する態度を育む指導」 静岡大学 准教授 塩田 真吾</p> <p>◎目的： 情報社会に主体的に参画する態度を育む指導を行うために、学校の組織的な対応や発達段階に応じた体系的な情報モラル教育（情報セキュリティに関する教育を含む）について検討する。</p>	昼休み	<p>講義・事例発表・演習 4</p> <p>「学校組織マネジメントの視点に立った校務の情報化」 札幌市立屯田小学校 校長 新保 元康</p> <p>◎目的： 働き方改革を実現するための校務の学校教育の情報化指導者養成研修について理解するとともに、教育活動全般がどのように変化するかを知り、望ましい学校組織について学び、校務の情報化推進方策について検討する。</p>	

5日目

平成31年 2月1日 (金)	8:30	11:30	12:30	14:00	14:10	15:10	15:25
	<p>講義・事例発表・演習 5</p> <p>「学校教育の情報化推進のためのICT戦略づくり」 横浜国立大学 教授 野中 陽一</p> <p>◎目的： 本研修における講義や演習の全体を踏まえ、学校教育の情報化を推進するための学校の体制づくりと戦略を考える。学校改革のためのICT活用戦略を考案、発表し、協議する。</p>	昼休み	休憩	特別講義	閉講式		
						<p>「学校教育の情報化を推進するリーダーとして」 薩摩川内市立川内中央中学校 校長 辻慎一郎</p> <p>◎目的： 学校教育の情報化を推進するリーダーとなるための力量と姿勢を改めて確認する。</p>	

I 研修概要

研 修 名	人権教育指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室							
研 修 目 的	<p>学校教育には、児童生徒に人権感覚を身につけさせ、人権意識を尊重して行動できるような教育を実施することが求められており、各学校においては、「人権教育の指導方法等の在り方について（第三次とりまとめ）」の提言を踏まえ、人権教育の指導方法等の改善・充実を図ることが求められている。</p> <p>本研修では、人権教育に関する国内外の動向や人権教育に関する効果的な指導方法等について、研究協議及び演習等を行うことにより児童生徒に人権を尊重する態度を育成するため、各学校や地域における研修のマネジメントを推進する指導者として必要な知識等を習得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等を行うことのできる指導者の養成を図る。</p>							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者（人権教育担当者を含む） ・幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う（予定を含む）者 ・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生 							
開 催 期 日	平成30年7月17日（火）～平成30年7月20日（金）				4日間			
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	120	人	受講者数	126	人	参加率	105.0%
開 催 場 所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった				あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義		概ね有意義						
人数 (人)	107	84.9	19	15.1	0	0.0	0	0.0	126
割合 (%)	126		100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育に関する国の動向や最新の知見、各地の具体的な事例を学ぶ機会がもて、今後の人権教育推進の参考となった。 ・講師陣が充実していて、どの講義にも学ぶことが多かった。演習においても協力しながら成果物を作り上げることができたと同時に、各県の状況についても交流することができた。 ・講義形式、演習形式の時間のバランスもよく、講義の内容が演習で活かせることができました。 ・具体的な個別課題について、また、児童生徒との接し方、指導の心得など、今までに自分になかった考えを深めることができました。 ・他県の指導主事と交流することを通して、他県の状況について知ることができたとともに、新たな気づきを得ることができた。 ・膨大な情報量にもかかわらず、提示いただいた資料や講義内容が要点を押さえたものであり、思考を整理しながらの研修に臨むことができ、大変よかったです。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題の協議が、研修3日目～4日目のグループワークへと接続するよう、趣旨を明確にした協議内容とした。 ・事例発表の校種を、講義で扱う校種と重複しないよう選定するとともに、校内の連携、地域との連携、学校間の連携の視点から選定することで、多面的多角的な検討を行えるようにした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害のある子供、障害のない子供の双方にとって、豊かな人間性を育むとともに、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ「障害理解を中心とした心のバリアフリー」のコマを新設する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度 人権教育指導者養成研修 日程表

8:30	9:00	9:30	10:30	10:40	12:00	13:00	15:25	15:40	17:15
7月17日(火)	受付	開講式・オリエンテーション	行政説明1 「人権教育を取り巻く国の動向等について」 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 課長補佐 草野 純一	行政説明2 「北朝鮮当局による拉致問題等について」(40分) 内閣官房拉致対策本部事務局 荒木 昌美	休憩	講義・課題協議1 「国内外の動きと学校における人権教育」 上越教育大学 理事兼副学長 梅野 正信	休憩(15分)	演習1 「人権教育推進上の課題と改善策等について」-『人権教育の指導方法等の在り方について [第三次とりまとめ]』等を踏まえて- 指導助言 上越教育大学 理事兼副学長 梅野 正信 阿南市青少年健全育成センター 所長 稲村 健一 大阪教育大学教職研究センター 教授 森 実	休憩
			「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律及び部落差別の解消の推進に関する法律について」(40分) 法務省人権擁護局 濱田 武文	昼休憩	休憩				

8:30	10:00	10:15	12:15	13:15	17:15
7月18日(水)	講義・課題協議2 「みんながつくるみんなの学校」 元大阪市立大空小学校 校長 木村 泰子	休憩	講義 「学校で配慮と支援が必要なLGBTの子どもたち」 宝塚大学 看護学部 教授 日高 庸晴	昼休憩	事例発表・協議・演習 「人権教育推進上の課題と改善策等について」-『人権教育の指導方法等の在り方について [第三次とりまとめ]』等を踏まえて- 事例発表 三好町立池田中学校 教諭 丸岡 美枝 徳島県教育委員会教職員課 指導主事 大谷 一幸 大阪府立福井高等学校、大阪府立柴島高等学校 指導教諭 小川 隆史 指導助言 上越教育大学理事兼副学長 梅野 正信 阿南市青少年健全育成センター 所長 稲村 健一 大阪教育大学教職研究センター 教授 森 実
	休憩(15分)	休憩(15分)			

8:30	12:00	13:00	17:15
7月19日(木)	演習2-1 「学校における人権教育の改善・充実について -『人権教育の指導方法等の在り方について [第三次とりまとめ]』等を踏まえて-」 (指導助言者) Aグループ 阿南市青少年健全育成センター 所長 稲村 健一 東京学芸大学 准教授 林 尚示 Bグループ 上越教育大学 理事兼副学長 梅野 正信 熊本県立教育センター 指導主事 岩下 和子 Cグループ 大阪教育大学教職研究センター 教授 森 実 鳴門教育大学 准教授 井上 奈穂	休憩(15分)	休憩(15分)
	休憩(15分)	休憩(15分)	

8:30	12:00	13:00	15:00	15:15
7月20日(金)	演習2-2 「学校における人権教育の改善・充実について」-全体発表・協議・まとめ-」 指導助言 阿南市青少年健全育成センター 所長 稲村 健一 東京学芸大学 准教授 林 尚示 上越教育大学 理事兼副学長 梅野 正信 熊本県立教育センター 指導主事 岩下 和子 大阪教育大学教職研究センター 教授 森 実 鳴門教育大学 准教授 井上 奈穂	休憩(15分)	課題協議 「人権教育を推進するリーダーとして -研修講師、企画・運営に向けて-」 上越教育大学 理事兼副学長 梅野 正信 阿南市青少年健全育成センター 所長 稲村 健一 大阪教育大学教職研究センター 教授 森 実	閉講式
	休憩(15分)	休憩(15分)	休憩(15分)	

I 研修概要

研修名	キャリア教育指導者養成研修(第1回)									
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室									
研修目的	キャリア教育を担当する指導主事等に対し、発達段階に応じたキャリア教育の在り方、校内外の連携を踏まえたキャリア教育推進のための具体的な手立て、キャリア教育の評価・改善方策について、各学校や地域における研修のマネジメントを推進する指導者として必要な知識等を習得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等を行うことのできる指導者の養成を図る。									
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 ・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者 ・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定も含む）教職大学院の学生 									
開催期日	平成30年7月2日（月）～平成30年7月6日（金）					5日間				
受講人数	標準定員 (計画人数)	80	人	受講者数	103	人	参加率	128.8%		
開催場所	パレブラン高志会館（富山県富山市）									

※ 全体標準定員 160 人、受講者数 197 人、参加率 123.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった				あまり意義がなかった		全く無意義だった		無回答		未回収		合計
	大変有意義		概ね有意義										
人数(人)	85	82.5	16	15.5	0	0.0	0	0.0	2	1.9	0	0.0	103
割合(%)	101		98.1										

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・年計作成で高校での経験がないため、イメージが作りづらかった。各教科の単元名か年計一覧があると、年計作成もやりやすかった。 ・各講義で目的が示してあったが、受講者に対するねらいがより明確にせらうとわかりやすかった。私たちを〇〇できるの評価で示してもらえると、おもしろくなる。 ・班別協議がたくさんあって良かったが、発表を全ての班で行う必要性はない。代表班の活動について、各班から意見をもらい、より良いものにしていく方がよい。 ・事前資料を作ってきたが、あまり使わなかった。もっと枚数を絞るなど、軽減してはどうか。 ・事前に作成した各校の資料について、互いに意見交換等をして検討する時間がもう少し欲しい。せっかく貴重な事例が集まっているのだから、それを活用する研修の内容があってもよい。 ・キャリア・カウンセリングのスキルを身につけることが重要であることがわかった。キャリアパスポートも効果的な活用を目指さなければならぬと感じた。演習を多く取り入れた内容であり、学びを深めることができた。 ・キャリア教育＝職場体験学習というイメージが180度変わりました。身につけたい力に対して、キャリアの観点で教育活動全般にわたって意識することが大切であるということ、それぞれの講座・切り口で学ぶことができました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修2日目午後の富山県の事例協議について、学校におけるキャリア教育の取り組みを発表した。 ・昨年度に引き続き、各回共通で演習に富山県のPTAや企業の関係者が協議をする際の班に、1人は入るような形で実施した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領を反映した内容に更新する。 ・地元企業やPTAを演習・協議に加えたり、県内の先進的な取組を実践事例として紹介したりするなど、地域の人材を活用することで、地方会場で開催する特色をより鮮明にしていく。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度 キャリア教育指導者養成研修（第1回） 日程表

<p>【第1日目】 7月2日 (月)</p>	<p>9:30 10:00 画コース共通</p>	<p>開講式</p>	<p>講義 「キャリア教育の現状と課題」 講師 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹</p>	<p>講義 「キャリア教育の背景や必要性に加え、キャリア教育の推進に関する最新の動向を理解するとともに本研修の5日間の見通しを持つ。」</p>	<p>講義 「新学習指導要領とキャリア教育①特別活動」 講師 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹</p>	<p>講義 「発達段階に合わせたキャリア教育①縦の連携を意識して」 講師 国立教育政策研究所 研究員 立石 慎治 世田谷区立尾山台小学校 校長 渡部 理枝 日本大学 教授 望月 由起</p>	<p>12:30 13:30 画コース共通</p> <p>14:45 15:00 画コース共通</p> <p>17:00</p>
<p>【第2日目】 7月3日 (火)</p>	<p>8:30 10:25 10:40 画コース共通</p>	<p>講義 「発達段階に合わせたキャリア教育②縦の連携を意識して」 講師 国立教育政策研究所 研究員 立石 慎治 世田谷区立尾山台小学校 校長 渡部 理枝 日本大学 教授 望月 由起</p>	<p>講義 「発達段階に合わせたキャリア教育③」 講師 金沢工業大学 教授 白木 みどり</p>	<p>講義 「発達段階に合わせたキャリア教育④」 講師 スクールアップドバイスネットワーク 理事長 生重 幸恵</p>	<p>講義 「発達段階に合わせたキャリア教育⑤横の連携を意識して」 講師 小学校部会 講師 仙台市立六郷小学校 校長 菅原 弘一 事例 高岡市立戸出東部小学校 校長 天野 宏昭</p>	<p>10:25 10:40 画コース共通</p> <p>12:00 13:00 画コース共通</p> <p>14:15 14:30 画コース共通</p> <p>17:00</p>	

【事例発表・協議 「発達段階に合わせたキャリア教育⑤横の連携を意識して」 協議参加者】

○小学校部会
株式会社 能作 産業観光部 主任 北山 卓司
高岡市教育委員会 学校教育部 課長 芳美 卓司
高岡市立戸出東部小学校 校長 天野 宏昭
高岡市立戸出東部小学校 教授 渡部 理枝

○中学校部会
株式会社 能作 学校教育部 課長 高松 石黒 均
高岡市立戸出東部小学校 教授 山室 美緒

○高等学校部会
富山経済同友会 教育問題委員会 委員長/アイチイオ 代表取締役 伊東 潤一郎
富山経済同友会 教育問題委員会 副委員長/相ステップ アップ 代表取締役 川村 紀子
富山経済同友会 教育問題委員会 副委員長/桐タムラ 設計 代表取締役 田村 元宏
富山経済同友会 教育問題委員会 副委員長/桐山崎製作所 代表取締役 山崎 義明
株式会社 富山村田製作所 管理部 人事総務課 マネージャー 産真 伸一
東亜合成株式会社 高岡工場 事務課 主査 東 勝秀
朝日印刷株式会社 総務部 総務課 顧問 高 流谷 正博
株式会社 北陸精機 制御開発部長 西 脇 清史

【第3日目】 7月4日 (水)	8:30	面コース共通	10:00	10:15	12:00	13:00	17:00
	講義・演習 「キャリアアカウンセンシングの基礎としてのコミュニケーションスキルの向上」 講師 追手門学院大学 教授 三川 俊樹 目的 キャリア・カウンセンシングの理論と具体について体得する。	休 憩	演習 「キャリアマナジメント①キャリア教育推進のためのプログラム開発」 指導助言者 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 東大阪市教育委員会 学校教育部 人権教育室 高知県教育委員会 高等学校 沖縄県立那覇高等学校 仙台市立高砂小学校 生徒指導調査官 長田 徹 重雄 (義務) 竹中 崇 (中等) 成井 崇 (中等) 谷口 エリ子 (中等) 小田 咲 (義務) 教頭	屋体み	屋体み	休 憩	休 憩
【第4日目】	8:30	面コース共通	10:00	10:10	10:50	11:00	17:00
	講義 「発達段階に応じたキャリア教育⑥企業や行政との協力体制の構築とキャリア教育の創出」 講師 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 清川メッキ工業株式会社 専務取締役 清川 卓二 目的 先達事例等から、効果的にキャリア教育を進めるための企業や行政との連携方法を学ぶ。	休 憩	課題協議 「新学習指導要領とキャリア教育②キャリア・パスポート」 講師 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 目的 キャリア・パスポートの方向性を知る。	屋体み	講義・演習 「学校における教育活動全体を通じて行うキャリア教育の展開方策」 講師 荒川区立第三中学校 校長 清水 隆彦 目的 キャリア教育の視点を生かした学校経営の理論と具体的なアイデアの在り方について考える。	休 憩	講義・演習 「PDCAサイクルを踏まえた指導計画等の評価・改善手法」 講師 関西大学 教授 川崎 友嗣 目的 キャリア教育の視点からPDCAサイクルの理論と具体を知り、カリキュラム・マネジメントのまとめにつなぐ。

【第4日目】 7月5日 (木)	8:30	面コース共通	12:00	13:00	15:00	15:15	17:00
	演習 「キャリアマナジメント③PDCAサイクルを踏まえた指導計画等の評価・改善手法」 指導助言者 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 藤田 晃之 (中等) 友嗣 (義務) 佐藤 学 (義務) 目的 全体計画と年間指導計画を評価し、改善につなぐ。本研修を通じて進めてきたカリキュラム・マネジメントをまとめる。	休 憩	演習 「カリキュラム・マネジメント②各教科を中心とした効果的なキャリア教育の進め方」 指導助言者 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 藤田 晃之 (義務) 西田 健次郎 (中等) 西田 健次郎 (義務) 佐藤 学 (義務) 酒井 淳平 (中等) 教頭 目的 教科を中心としたキャリア教育の年間指導計画を作成し、教科横断・学年(校種)横断で基礎的・汎用的能力を育む過程を考	屋体み	屋体み	休 憩	休 憩
【第5日目】 7月6日 (金)	8:30	面コース共通	12:00	13:00	15:00	15:15	17:00
	講義・演習 「個別的な支援・指導の在り方」 講師 国立大学法人福岡教育大学 教授 西山 久子 目的 キャリア教育における個別支援の必要性を知り、その具体について体得する。	休 憩	講義・演習 「本研修の振り返り」 講師 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 藤田 晃之 (中等) 友嗣 (義務) 佐藤 学 (義務) 目的 本研修の5日間を振り返り、研修内容等について整理するとともに、各地域での研修講師を務めるに当たった留意事項等の情報交換を行う。	屋体み	講義・演習 「本研修の振り返り」 講師 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 藤田 晃之 (中等) 友嗣 (義務) 佐藤 学 (義務) 目的 本研修の5日間を振り返り、研修内容等について整理するとともに、各地域での研修講師を務めるに当たった留意事項等の情報交換を行う。	休 憩	閉 講 式

※日程等について変更することがあります。

I 研修概要

研修名	キャリア教育指導者養成研修(第2回)									
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室									
研 修 目 的	キャリア教育を担当する指導主事等に対し、発達段階に応じたキャリア教育の在り方、校内外の連携を踏まえたキャリア教育推進のための具体的な手立て、キャリア教育の評価・改善方策について、各学校や地域における研修のマネジメントを推進する指導者として必要な知識等を習得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等を行うことのできる指導者の養成を図る。									
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 ・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者 ・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定も含む）教職大学院の学生 									
開 催 期 日	平成30年9月10日（月）～平成30年9月14日（金）					5日間				
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	80	人	受講者数	94	人	参加率	117.5%		
開 催 場 所	パレブラン高志会館（富山県富山市）									

※ 全体標準定員 160 人、受講者数 197 人、参加率 123.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	88	4	0	0	2	0	94
割合 (%)	93.6	4.3	0.0	0.0	2.1	0.0	
	92	97.9					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育推進に関する最新の動向に加え、その背景・必要性について、大変わかりやすく説明していただいた。その内容、長田先生の動き・表情・話し方・熱意に感動し、引き込まれた。キャリア教育推進者としての意欲をかきたてられた。 ・事例を通して、様々な研究がされていることを知り、今後のヒントをもらった。芙蓉メソッドやエピソード記録表は特に興味深いものだった。 ・商業科の取り組みをキャリア教育の場として学校行事とし、落とし込んでいく方法は、専門科のある高校の良い手本になると思った。 ・異校種・他県の先生方と協議することで様々な知識を身につけ、今後の実践へのヒントを得た。 ・小中高、地域が丸となって活動する姿に感動した。明確な目標の必要性を改めて感じた。 ・グループ協議後、いろいろな班のまとめ方を見てとても参考になった。自分たちになかった視点、共通の視点、イメージを確認できた。 ・学校と企業との協働の事例を聞き、とてもおもしろい取り組みだった。学校だけでなく企業にもよいことのある、WinWinの関係ができれば、今後も継続していける取り組みになるように思う。 ・富山県の県主導のキャリア教育体制を具体的に知ることができた。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修2日目午後の富山県の事例協議について、学校におけるキャリア教育の取り組みを発表した。 ・昨年度に引き続き、各回共通で演習に富山県のPTAや企業の関係者が協議をする際の班に、1人は入るような形で実施した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領を反映した内容に更新する。 ・地元企業やPTAを演習・協議に加えたり、県内の先進的な取組を実践事例として紹介したりするなど、地域の人材を活用することで、地方会場で開催する特色をより鮮明にしていく。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度 キャリア教育指導者養成研修（第2回） 日程表

【第1日 目】 9月10日 (月)	9:30 10:00 開講式	10:00 12:00 講義 「キャリア教育の現状と課題」口 「本研修の進め方」口 講師 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹	12:30 13:30 昼 休 み	14:45 15:00 講義 「新学習指導要領とキャリア教育①特別活動」 講師 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹 事例 佐賀市立芙蓉小中学校 みやき町立中原中学校 岡山県立津山商業高等学校 岡山大学大学院 教授 横野 滋子	14:45 15:00 休 憩	15:00 17:00 事例発表・協議 「発達段階に応じたキャリア教育①縦の連携を意識して」 講師 国立教育政策研究所 研究員 立石 慎治 世田谷区立尾山台小学校 校長 渡部 理枝 日本大学 教授 望月 由起 事例 発表者 北海道長万部高等学校 教諭 館 龍之介 長万部町立長万部小学校 北海道長万部高等学校 教諭 館 龍之介 長万部町立長万部中学校 北海道長万部高等学校 教諭 館 龍之介 北海道長万部高等学校 教諭 館 龍之介		
	【第2日 目】 9月11日 (火)	8:30 10:00 事例発表・協議 「発達段階に応じたキャリア教育②縦の連携を意識して」 講師 国立教育政策研究所 研究員 立石 慎治 世田谷区立尾山台小学校 校長 渡部 理枝 日本大学 教授 望月 由起	10:00 10:40 講義 「キャリア教育の背景や必要性に加え、キャリア教育の推進に関する最新の動向を理解するとともに本研修の5日間の見通しを持つ。」 講師 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹	10:40 12:00 休 憩	12:00 13:00 講義 「キャリア教育の現状と課題」口 「本研修の進め方」口 講師 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹	13:00 14:15 休 憩	14:15 14:30 講義 「発達段階に応じたキャリア教育④地域と協働して進めるキャリア教育の必要性」 講師 スクールアドバイザーネットワーク 理事長 生重 幸恵	14:30 14:45 休 憩
		10:25 10:40 講義 「キャリア教育の背景や必要性に加え、キャリア教育の推進に関する最新の動向を理解するとともに本研修の5日間の見通しを持つ。」 講師 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹	10:40 12:00 休 憩	12:00 13:00 講義 「キャリア教育の現状と課題」口 「本研修の進め方」口 講師 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹	13:00 14:15 休 憩	14:15 14:30 講義 「発達段階に応じたキャリア教育④地域と協働して進めるキャリア教育の必要性」 講師 スクールアドバイザーネットワーク 理事長 生重 幸恵	14:30 14:45 休 憩	14:45 15:00 事例発表・協議 「発達段階に応じたキャリア教育⑤横の連携を意識して」 ○小学校部会 講師 秋田県教育委員会 副主幹 佐藤 深 事例 高岡市立戸出東部小学校 校長 天野 宏昭 ○中学校部会 講師 横浜市教育委員会 主任指導主事 熊切 隆 事例 高岡市立戸出中学校 教諭 石黒 均 ○高等学校部会 講師 NP0法人みらいずworks 副代表理事 本間 莉恵 事例 富山県教育委員会県立学校課指導主事 加藤 敏秀

【事例発表・協議「発達段階に応じたキャリア教育⑤横の連携を意識して」協議参加者】

○小学校部会
株式会社 能作 産業観光部 主任 北山 卓司
高岡市教育委員会学校教育課 指導主事 萩沢 芳美
高岡市立戸出東部小学校 校長 天野 宏昭
高岡市立戸出東部小学校 教諭 古部 菜津

○中学校部会
株式会社 能作 株式会社 能作 株式会社 能作
高岡市教育委員会学校教育課 学校教育課長 梅田 泰輔
高岡市立戸出中学校 教諭 高松 毅
高岡市立戸出中学校 教諭 石黒 均
高岡市立戸出中学校 教諭 山下 亜希子

○高等学校部会
高山経済同友会幹事/教育問題委員会副委員長/師波工業㈱ 代表取締役 上田 信和
高山経済同友会幹事/教育問題委員会副委員長/南スナッパーズ 代表取締役 川合 紀子
高山経済同友会幹事/教育問題委員会副委員長/榊山崎製作所 代表取締役 山崎 義明
株式会社村田製作所 管理部 人事総務課 マネージャー 申一 伸一
東亜合成(株) 高岡工場管理部 事務課 主査 東 勝秀
朝日印刷株式会社 総務部 総務課 顧問 富流台 正博

I 研修概要

研 修 名	幼児教育指導者養成研修						
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室						
研 修 目 的	子ども・子育て支援新制度の施行を踏まえ、質の高い幼児教育を全国の全ての子どもに保障するため、幼児教育を担当する指導主事等に対し、幼児教育の指導の充実や小学校教育との円滑な接続、評価を含めたカリキュラム・マネジメントの適正な実施など、幼児教育の指導者として必要な知識等を習得させ、各園や地域における本研修内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。						
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都道府県・指定都市・中核市の幼児教育担当指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者（認定こども園、保育所の指導・助言を行う者を含む） ・ 国公立幼稚園・保育所・認定こども園の教職員であって、各園や地域における本研修内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者 ・ 当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生 						
開 催 期 日	平成30年10月31日（水）～平成30年11月2日（金）				3日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	107	参加率	107.0%
開 催 場 所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）						

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	98	9	0	0	0	0	107
割合 (%)	91.6	8.4	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児教育の基本から最新の動向まで知ることができた上に、演習を通して多くの人の話を聞き、様々な考え方があることに触れられて視野が広がった。これから自信を持って幼児や遊び、接続を語れるように思う。参加してよかったです！ ・ 現職の役職に就いて日が浅く、全ての分野について未知なことばかりだったので、何もかもが勉強になり、同じグループになった皆さんの意欲がとても刺激になった。 ・ 要領の改訂に関わった先生方を集めて下さっていたので、解説等を読み、自分なりに理解していたことについて、たくさん示唆をいただいたことは大変ありがたかった。 ・ 幼稚園担当主事は、幼稚教育専門外の方が担当することが多いので、今回の研修のように幼児教育に特化した研修は大変学ぶことができ、理解を深めることができた。 ・ 最新のデータが紹介される内容が多く、自県との比較や課題の対応策について考えることができ、今後の職務に活かすことができる点良かった。 ・ 3日間という限られた時間しかないのですが、もっと聴きたい講義や話し合いたいと思った演習があった。全てに演習はなくてもよいので、もう少しじっくり学べたらと思った。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 内容を精選し、1コマの講義時間を延ばした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児教育の質の向上が喫緊の課題であることを踏まえ、研修期間を4日間にする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度 幼児教育指導者養成研修 日程表

10月31日(水)	9:30	10:00	10:30	11:45	12:45	14:45	15:00	17:00
	受付	開講式	オリエンテーション	行政説明 「幼児教育行政の最新の動向」 文部科学省初等中等教育局 幼児教育課長 先崎 卓歩 目的：幼児教育の現状や最新の幼児教育行政の動向を知る。	昼食・休憩	講義・演習① 「幼児教育の質の向上の重要性」 京都教育大学 教育学部 准教授 古賀松香 目的：幼児教育の重要性について、最近の研究成果等から認識を深める。	休憩	講義・演習② 「0～2歳児の理解と保育の在り方」 大阪総合保育大学大学院 教授 大方美香 目的：0～2歳児の乳幼児期の保育の基本と保育者の援助の在り方について保育実践事例を基にしながら、理解を深める。
会場 独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター								

11月1日(木)	8:45	10:15	10:30	12:30	13:45	17:00
	受付	講義1 「新幼稚園教育要領を踏まえた3～5歳の理解と保育の在り方」 國學院大学人間開発学部 教授 神長美津子 目的：新しい幼稚園教育要領を踏まえながら、3～5歳の時期の発達の特性とふさわしい教育の在り方について理解を深める。	休憩	講義2 「幼児期の教育と小学校教育との接続について」 文部科学省初等中等教育局 幼児教育課 幼児教育調査官 河合優子 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 渋谷一典 目的：新しい幼稚園教育要領及び学習指導要領で幼児期の教育と小学校教育の接続に関する内容の充実が図られたことを踏まえ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりにした幼小接続の在り方等について基本的な理解を得る。	昼食・休憩	幼児教育の実践充実コース 講義・演習③ 「幼小接続を意識した指導案の作成」 國學院大学人間開発学部 教授 神長美津子、文京区立第一幼稚園長 桶田ゆかり 目的：5歳児後半の指導案の作成、発表等の演習を通じて、幼小接続を意識した指導案の作成及び指導の在り方について理解を深める。
会場 独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター						

11月2日(金)	9:00	10:30	10:45	12:00	13:00	14:30	14:45
	受付	講義3 「幼児期における子育ての支援、家庭や地域との連携について」 和洋女子大学 人文学部 教授 矢萩恭子 目的：幼児の生活は家庭、地域社会、幼稚園等と連続的に営まれており、家庭、地域社会との連携が重要。このため、家庭、地域との連携の在り方、望ましい子育ての支援の在り方について理解を深める。	休憩	講義・演習④ 「幼児の実態や家庭・地域の実態等を踏まえた園の研修の企画立案について」 松蔭大学 コミュニケーション文化学部 教授 山下文一 目的①（主に園長・副園長等） 園の教育目標を達成するための園内研修の在り方について理解を深める。 目的②（地方公共団体の指導主事等） 目的①の理解を深めることにより、各園の園内研修を支援する際の視点を定める。	昼食・休憩	閉講式	
会場 独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター							

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（農業A-1）「次期学習指導要領を念頭にした地域振興や地域資源の活用」に資する農業教育の講義と実習							
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 ・高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 							
開 催 期 日	平成30年8月6日（月）～平成30年8月10日（金）					5日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	17	人	参加率	85.0%
開 催 場 所	1							

※ 全体受講定員 210 人、受講者数 215 人
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	14	3	0	0	0	0	17
割合 (%)	82.4	17.6	0.0	0.0	0.0	0.0	
	17						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・様々な、考え方、世の流れ、事例を集中的、体系的、連動的に、学んだり新たな知見を得ることができた。また、各学校の先生方の意見や、取組みについて知ることができ、情報交換ができた。大変有意義だった。 ・学びたいと思っていた以上の情報量・熱量で、多くの気づき、学びがありました。他県の先生方との情報交換も有意義で、今後今までより前向きに仕事にあたれそうです。今までプロジェクトや生物活用の指導の中で、田端調査官や久保田先生の大会・研修でのお話や文章を参考にしてきました。憧れの先生方と直接お話をさせていただいたことも大変良い経験になりました。 ・新学習指導要領について解り易く解説が頂けたこと、経営の実際について知ることができ、新たな気づきが得られた。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を原則とした。
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については引き続き全額派遣者負担を原則とする。 ・本科目は今年度より隔年開催となっているが、次年度に前倒し開催することで、産業教育実習助手研修の農業科目と交互に開催することとする。(H31：産業情報、H32：実習助手、H33：産業情報、…となる)

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(農業, A-1)

団体名 特定非営利法人 しずおかユニバーサル園芸ネットワーク

日 時	9:00	9:30	10:00	11:00	12:00	12:30	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
2018/8/6 (月)		開 講 式	【研究協議】 自己紹介・所属校紹介 (久保田・1)	【講義】 目標と課題を明 確化する (久保田・1)	昼休み		【講義】 新しい農業の可能性 (加藤・2)		【講義】 生物活用・グリーンライ フの現状と課題 (田畑・2)		諸 連 絡
2018/8/7 (火)		【講義】 農業生産法人の可能性 (鈴木・2)		【実習】 ユニバーサル農業の実際 (京丸園・1.5)		移動・昼休み		【講義】 6次産業化の実際 (伊藤・1.5)	【講義】 地域産物活用 の実際 杉山(1.5)		諸 連 絡
2018/8/8 (水)		【講義】 農産物のブランド化とは (岩崎・2)		【講義】 ビジネスプラン をつくる授業 (久保田・1)	昼休み		【講義・演習】 グリーンツーリズム・観光農園について (豊田由美・2.5)		【講義】 地域資源活用 の実際 名倉(1.5)		諸 連 絡
2018/8/9 (木)		【講義】 園芸の特性と活用 (豊田正博・2)		【演習】 園芸の特性と活用 (豊田正・1)	昼休み		【講義】 農業とリハビリテーション (建木・2)		【講義】 人の回復を助ける動植物の力 (大塚・2)		諸 連 絡
2018/8/10 (金)		【講義】 地域資源を活用する (久保田・2)		【演習】 ビジネスプラン発表 (久保田・1)	閉 講 式						

実施会場：アクトシティ浜松研修交流センター、京丸園、うなぎいもカフェ（静岡県浜松市）

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（工業B-1）「教科「工業」における授業改善に関する講義と演習～工業科におけるPBL実践法～」							
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 ・高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 							
開 催 期 日	平成30年8月20日（月）～平成30年8月24日（金）				5日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	33	人	参加率	165.0%
開 催 場 所	金沢工業大学（石川県野々市市）							

※ 全体受講定員 210 人、受講者数 215 人
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	28	5	0	0	0	0	33
割合 (%)	84.8	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	
	33						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・「主体的・対話的で深い学び」の手法の一つとして、PBLは有効だと再確認することができた。また、PBLの活動内に、倫理観も併せて考えさせることができる点もよいと感じた。本研修をさらに深め、PBLを実践し、周囲に広めていきたいと考えている。</p> <p>・本研修を通じて”指導と評価の一体化”の本質的な意味が理解できました。また、生徒が取り組んでいるPBL学習を自分たちが体験することで、楽しさと難しさを感じました。生徒指導する際の場面場面で本研修を通じて専心活動した経験と知識を生かしていきたいと思えます。そして、先生方に本研修の内容・ポイントを伝えてより良い教育活動を展開していきたいです。</p> <p>・今回の研修では、すでに多くの実践と知識をお持ちの金沢工業大学のPBLを体験できたことが貴重なものであった。また、単に、PBLを体験的に行うだけでなく、概論や背景、高校現場で行うためには、など、幅広い視点でお話いただけたことが良かったです。</p> <p>・他県の先生方と協力し、1つのことを達成する作業が有意義にできました。PBLを通して、内容の質を向上させるとともに、自身の質向上につながるすばらしい討議法だと思います。参加できて嬉しかったです。ありがとうございました。</p> <p>・PBLの体験は初めてでしたが、専門の先生方のご指導の元で一通りのプロセスを実践でき、有意義な研修を受けることができました。特に評価法はすぐにでも実践したいと思えるものでした。運営に携わった皆様には本当に感謝しております。</p>
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を原則とした。
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については引き続き全額派遣者負担を原則とする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成 30 年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(工業, B-1)

団体名 金沢工業大学

時 限	1 時限 8:40~10:10		休憩	2 時限 10:30~12:00		昼休み	3 時限 13:00~14:30		休憩	4 時限 14:50~16:20		自主活動時間 16:40~ 18:00
8 月 20 日 (月)	開講式 オリエン テーション 約 20 分	(講義) 科学技術者倫理	休憩	(講義) PBL 概論 プロジェクトデザイン教育①	昼休み	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅰ① プロジェクトテーマの決定まで の調査・分析・意思決定	休憩	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅰ② プロジェクトテーマの決定までの 調査・分析・意思決定		(学内見学会)		
8 月 21 日 (火)	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅰ③ プロジェクトテーマの決定までの 調査・分析・意思決定		休憩	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅰ④ プロジェクトテーマの決定までの 調査・分析・意思決定	昼休み	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅰ⑤ プロジェクトテーマの決定までの 調査・分析・意思決定	休憩	(講義) 教科「工業」に関する 文部科学省施策の動向(仮題) 高校における PBL 実践		(情報交換会)		
8 月 22 日 (水)	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅱ① 解決策の仕様設定・立案・試作・ プレゼンテーション		休憩	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅱ② 解決策の仕様設定・立案・試作・ プレゼンテーション	昼休み	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅱ③ 解決策の仕様設定・立案・試作・ プレゼンテーション	休憩	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅱ④ 解決策の仕様設定・立案・試作・ プレゼンテーション				
8 月 23 日 (木)	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅱ⑤ 解決策の仕様設定・立案・試作・ プレゼンテーション		休憩	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅱ⑥ 解決策の仕様設定・立案・試作・ プレゼンテーション	昼休み	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅲ① 教育評価法(ルーブリック作成 ワークショップ)	休憩	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅲ② 教育評価法(ルーブリック作成 ワークショップ)				
8 月 24 日 (金)	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅲ③ 教育評価法(ルーブリック作成 ワークショップ)		休憩	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅲ④ 教育評価法(ルーブリック作成 ワークショップ)	昼休み	(討議) プロジェクトデザイン教育② 受講者と講師陣による 意見交換とまとめ	閉講式 14:30~ 15:00					

実施会場：金沢工業大学扇が丘キャンパス(石川県野々市
市)

I 研修概要

研修名	産業・情報技術等指導者養成研修（商業C-1）「新高等学校学習指導要領を踏まえた教科『商業』における授業改善に関する講義と実習」							
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室							
研修目的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 ・高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 							
開催期日	平成30年7月30日（月）～平成30年8月3日（金）				5日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	40	人	受講者数	39	人	参加率	97.5%
開催場所	千葉商科大学（千葉県市川市）							

※ 全体受講定員 210 人、受講者数 215 人
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	35	3	0	0	1	0	39
割合 (%)	89.7	7.7	0.0	0.0	2.6	0.0	
	38	97.4					

2. 研修内容に関する主な意見

・新学習指導要領に沿った内容で大変勉強になりました。特に商業科目において学習指導計画や授業事例が盛り込まれており学校へ帰ってすぐに実践できる内容が多かったのが助かります。また全国の先生方と意見交換できたことも今後の財産になりました。

・どの協議、演習も大変参考になりました。学習指導要領が改訂されるこのタイミングで、その改定に込められた西村先生の思いを聞いた後に、各分野の先進的な実践演習を学習することができ、自分の力になりました。5日間をかけて、全ての分野の学習をすることができたのも良かったです。ありがとうございました。

・グループワークや指導案作成など緊張感のある研修であり、集中して受講することができた。新学習指導要領の情報や、先進的な授業の紹介など今後の授業改善にいかしていきたい。教員としての力を伸ばすには、研修に積極的に参加することが重要だということを再認識した。

・指導者の方や、受講していた先生方から、多くの刺激を、受けました。大変参考になりました。よい機会でした。今回、学んだことを授業等で生かしていきたいと思えます。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を原則とした。

次年度に向けて

- ・実施経費については引き続き全額派遣者負担を原則とする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

新高等学校学習指導要領を踏まえた教科「商業」における授業改善に関する講義と実習

(商業：C-1)

団体名：千葉商科大学

9:00		10:00		11:00		12:00		13:00		14:00		15:00		16:00		17:00		18:00			
1限			休	2限			昼休み	3限			休	4限			休	5限					
7月30日		9:30受付 10:00開始	開会式	高等学校学習指導要領の改訂と教育課程の編成について(1) 文部科学省初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室 教科調査官 西村 修一			高等学校学習指導要領の改訂と教育課程の編成について(2) 文部科学省初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室 教科調査官 西村 修一			商業教育の課題 千葉商科大学商経学部 准教授 近藤 真唯			2日目の研修に関する説明								
7月31日	主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善 ～ファシリテーション能力の育成(1)～ フリーファシリテーター 後藤 拓也 千葉商科大学客員講師 並木 通男			主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善 ～ファシリテーション能力の育成(2)～ フリーファシリテーター 後藤 拓也 千葉商科大学客員講師 並木 通男			主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善 ～ワークショップデザイン(1)～ フリーファシリテーター 後藤 拓也 千葉商科大学客員講師 並木 通男			主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善 ～ワークショップデザイン(2)～ フリーファシリテーター 後藤 拓也 千葉商科大学客員講師 並木 通男			振り返り ～グループワーク～								
8月1日	新学習指導要領を踏まえたマーケティング分野の授業改善(1) ～授業研究～ 高等学校教諭等			新学習指導要領を踏まえたマーケティング分野の授業改善(2) ～学習指導案の作成演習～ 高等学校教諭等			昼休み			新学習指導要領を踏まえたマネジメント分野の授業改善(1) ～授業研究～ 高等学校教諭等			新学習指導要領を踏まえたマネジメント分野の授業改善(2) ～学習指導案の作成演習～ 高等学校教諭等			振り返り ～グループワーク～					
8月2日	新学習指導要領を踏まえたビジネス情報分野の授業改善(1) ～授業研究～ 高等学校教諭等			新学習指導要領を踏まえたビジネス情報分野の授業改善(2) ～学習指導案の作成演習～ 高等学校教諭等						新学習指導要領を踏まえた分野共通の科目の授業改善(1) ～授業研究～ 高等学校教諭等			新学習指導要領を踏まえた分野共通の科目の授業改善(2) ～学習指導案の作成演習～ 高等学校教諭等			振り返り ～グループワーク～					
8月3日	新学習指導要領を踏まえた会計分野の授業改善(1) ～授業研究～ 高等学校教諭等			新学習指導要領を踏まえた会計分野の授業改善(2) ～学習指導案の作成演習～ 高等学校教諭等						新学習指導要領を踏まえた授業改善をすすめるために ～全体の振り返るワークショップ～ 千葉商科大学商経学部 准教授 近藤 真唯			閉会式								

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（家庭E-1）「社会の変化に対応した衣食住、ヒューマンサービス等の生活産業に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 ・高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 							
開 催 期 日	平成30年8月6日（月）～平成30年8月9日（木）					4日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	21	人	参加率	105.0%
開 催 場 所	全国高等学校長協会家庭部会（東京都千代田区）、文化服装学院（東京都渋谷区）、東京栄養食糧専門学校（東京都世田谷区）							

※ 全体受講定員 210 人、受講者数 215 人
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった				あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	20	1	0	0	0	0	0	0	21
割合 (%)	95.2	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	21		100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・各分野それぞれの専門家の講義、演習をうけることができ、大変有意義でした。どの先生方も、専門性だけでなく魅力的な人間性があり、私たちに研修の楽しさを身を持って教えていただいた。授業に活かせる部分が多いと思うので、さらに教材研究を行い、効果的に活用していきたい。</p> <p>・新しい学習指導要領で改善点となっている伝統や文化に関する教育の充実ということで、和食、和服、和室などのキーワードに引っかかりを感じていましたが、今回、各分野の専門の先生から、詳しい講義をいただき、その魅力を感じる事ができ、それを学習する意義も理解できました。また、各分野で熱心に取り組んでいらっしゃる先生から、情熱と愛情が伝わり、私も頑張らねばと思いました。</p> <p>・新しい教育課程の内容、特に重視される点、今回の改定内容をふまえた内容の研修で、現場に戻って、すぐ活用できるという点で、たいへん勉強になりました。伝達、講習は、来年度ですが、地区会等、機会をとらえて、県内の先生方に還元していきたいと思えます。</p> <p>・幅広い内容の分野で、たいへん有意義な研修でした。講師の先生から聞いた言葉は”クリエイティブ、人材育成、新しい、挑戦、改善”であったかと思えます。家庭科で20～30年後をイメージしながら資質、能力を身に付け、未来を担う生徒を育成していきたいと思えます。たくさんのヒントや工夫を学ばせていただきました。</p>
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を原則とした。
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については引き続き全額派遣者負担を原則とする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度 産業・情報技術等指導者養成研修日程

(家庭科 E-1)

全国高等学校長協会家庭部会

月日(曜)	午前1(9時30分～11時)		午前2(11時～12時30分)		昼休み	午後1(13時30分～15時00分)		午後2(午後15時00分～16時30分)		実 施 場 会 場
	9:30	10:00	11:00	12:00		12:30	13:30	15:00	16:00	
1 8月6日 (月)	【開講式】	【講義】 「家庭科における 授業改善の視点」 文部科学省教科調査官 市毛 祐子	【講義】 「学校の特色づくりと家庭科教育」 元校長 森田 晶代			【講義】授業実践事例 SPH事業 「CHANGE SAKURA ～技と心で羽ばたけ グローバルクリエイター育成プロジェクト～」 岐阜県立大垣桜高等学校 教諭 澤田 尚子	【講義・演習】 「住生活とインテリアデザイン」 跡見学園女子大学 マネジメント学部生活環境マネジメント学科 教授 村田 あが			全国高等学校等協会 会議室(千代田区)
2 8月7日 (火)	【講義】 「繊維・アパレル業界 の動向とファッション」 文化学園 国際ファッション 産学推進機構 副機構長 山地 保	【講義】 「求人状況と 求める人物像」 文化学園 就職支援室 就職支援二課 課長補佐 池田 衛	【講義・演習】 「伝統文化と和服」 元文化服装学院 非常勤講師 三浦 篤子			【講義・演習】 「個性を引き出し、思考力、表現力を育てる造形教育」 文化服装学院 生涯学習・通信教育 指導主事 丸山 晴美				文化服装学院 (渋谷区)
3 8月8日 (水)	【講義】 「現代の食生活のトレンドやフードビジネス等」 東京栄養食糧専門学校 講師 伊藤 美穂		【講義・実習】 「おいしさの科学と調理」、 「食文化の指導の工夫」など 東京栄養食糧専門学校 講師 伊藤 美穂			【講義・実習】 「和食の基本と調理実習の指導のポイント」 東京栄養食糧専門学校 講師 沢辺 利男 助手 宮城 久美子	【講義・実習】 「調理実習」 東京栄養食糧専門学校 講師 沢辺 利男 助手 宮城 久美子			東京栄養食糧専門学校 (世田谷区)
4 8月9日 (木)	【講義・演習】授業実践事例 「地域の子育て支援を担う人材育成を目指して ～保育科の取組～」 埼玉県立鴻巣女子高等学校 教諭 須田 敦子		【講義】 「消費者庁作成教材『社会への扉』 を活用した授業実践例」 徳島県教育委員会 学校教育課 指導主事 白濱 真紀子			【まとめ・研究協議】 「研修のまとめ」 文部科学省教科調査官 市毛 祐子	15:15	【閉講式】	15:45	全国高等学校等協会 会議室(千代田区)

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（看護F-1）「保健医療福祉の変化に対応した看護実践力を育成する授業に関する講義と演習」						
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室						
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。						
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 ・高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 						
開 催 期 日	平成30年8月21日（火）～平成30年8月23日（木）				3日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	17	参加率	85.0%
開 催 場 所	日本福祉大学東海キャンパス（愛知県東海市）						

※ 全体受講定員 210人、受講者数 215人
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	16	0	0	0	1	0	17
割合 (%)	94.1	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	
	16	94.1					

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・演習が多くあったことで、他校の先生方とも交流することができ、それぞれの抱えている課題についても共有することができました。今回の研修を通して、今までの指導は自己満足な部分もあったと感じました。大事なことは、学生の興味・関心を引き出す事であり、やる気・活力を起こす働きかけができるように、学生に関わっていききたいと思います。今回学んだことは、学校に持ち帰り、還元していきたいと思います。</p> <p>・看護教育や実習の現状での課題について情報交換をするとともに、シミュレーション教育についても学ぶことができとても勉強になりました。</p> <p>・私は臨床から教員になり、教育の方法論的なものに関しては、手探りの状態で日々ジレンマを感じています。今回の研修により同じ5年一貫校の先生方と、ディスカッションする中で共通する悩みを抱えていて、各校でどのようなとり組みを行っているのかなど、情報交換・共有の場となりました。また、将来臨床で働くことを想定とした看護基礎教育の必要性、効果的にイメージできるような、シミュレーション教育、考え方、方法論の学びができ感謝でした。</p> <p>・通常の勤務の中や(他の業者によるセミナーなど)研修では、実際に体験できないこと。最先端の大学教育及び設備を使った演習で学ぶことができました。もっと学習して、生徒にとってよい教員でありたい。あるいは、学校教育に還元できるようにしたいと思っています。</p>

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を原則とした。
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については引き続き全額派遣者負担を原則とする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成 30 年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(看護, F-1)

団体名 日本福祉大学

		9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
21 日 (火)	受付	開 講 式	講義(90) 看護教育の現状と課題			昼食(交流会)			学内 見学	演習(75) (GWと発表) 技術教育が抱える 問題・課題			講義(90) 技術教育の考え方と 効果的指導方法					
			山口			司会 山口				宮腰・新美・ 山口・渡邊			宮腰					
22 日 (水)		講義(60) シミュレーション 教育の考え方			演習(75) シミュレーション教育 :訓練用モデルの活 用		昼食	演習(75) シミュレーション教育 :模擬対象者(学生 等)の活用			講義・演習(90) シミュレーション教育: 病床環境(ベッド)の活用			講義・演習(50) シミュレーション教育の まとめ				
		新美			新美・渡邊・加藤・ 西土・中村			新美・渡邊・加藤・ 西土・中村			西原・中村・山口			新美・山口・ 西原・中村				
23 日 (木)		演習(90) (GWと発表) 実習教育における 問題・課題				講義(90) 実習施設で行う 臨地実習教育への 取り組み方			昼食	演習(75) (GWと発表) 研修全体の振り返り			講義(60) これからの 看護教育		閉 講 式			
		宮腰・新美・ 山口・西土				宮腰				宮腰・新美・ 加藤・西原			福村					

実施会場：日本福祉大学東海キャンパス（愛知県東海市）

(備考)

1. 演習時に使用しますので、聴診器とナースシューズを持参してください。また、服装は動きやすいものにしてください。
(その場での更衣も可能です。)
2. 臨地実習要項を持参してください。(ご自身が担当している教科のものでかまいません。)
3. 1日目の昼食は主催者が準備します。(交流会の費用として、1000円程度のご負担をお願いします。)
2～3日目の昼食は、ご持参ください。

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（情報G-1）「次期学習指導要領に対応した教科「情報」の授業改善に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 ・高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 							
開 催 期 日	平成30年7月30日（月）～平成30年8月3日（金）				5日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	21	人	参加率	105.0%
開 催 場 所	千葉商科大学（千葉県市川市）							

※ 全体受講定員 210 人、受講者数 215 人
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	20	1	0	0	0	0	21
割合 (%)	95.2	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	
	21	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・各内容について専門的な知識や指導方法、これからの情報教育の在り方など、時代の背景を踏まえた講義・演習だったので、自分の授業計画などに活用していきたいです。</p> <p>・講義で理論、裏付けを学び、実習を通じて実践や検証をする事が出来ました。各講師の方との実績ある話の内容は現場にフィットした、とても参考になりました。多くの参加者と情報交換ができてとても有意義な研修会でした。</p> <p>・参加する先生方を見ると「先生方教科」「工業高校」など、「情報を専門的に扱う方が多い」ことが分かり、「普通教科」を教えている私がついていけるだろうか、と不安になりました。しかし、内容としては「プログラミング」「アクティブラーニング」など授業で活用できる内容ばかりで、とても有意義でした。</p> <p>・最新の学習指導要領の情報がよく分かり、今後の準備の必要性を感じました。今年から始めての研修内容と伺いました。Apple本社でのプログラミングのアプリの情報や、Microsoft本社での研修は、実際に訪問・見学させていただき、貴重な機会になりました。</p>
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を原則とした。
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については引き続き全額派遣者負担を原則とする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成 30 年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(情報, G-1)

団体名 千葉商科大学

日 時	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	12:10	13:10	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
7月30日(月)			受付	開講式 1号館1階 1101教室	講義;学習指導要領 (文部科学省 教科調査官 鹿野利春)	昼 休 み		アクティブ・ラーニングの視点に立った 授業改善 事例と講義・実習 (聖心女子大学教授 益川弘如) 2号館1階 214教室				
7月31日(火)				コンテンツ分野の実践例と実習 (岐阜県立岐阜各務野高校教諭 西田光男) 3号館2階 第9コンピュータ実習室		昼 休 み		ネットワークの基礎・応用 (秋田県立仁賀保高校教諭 早藤素史) 2号館1階 214教室				
8月1日(水)				Apple 本社訪問・見学 (意見交換・情報収集)		昼 休 み		Microsoft 訪問・見学 (最新の情報サービス紹介と プログラミング研修・意見交換)				
8月2日(木)				AI プログラミング (京都府立京都すばる高校教諭 福江努) 3号館2階 第9コンピュータ実習室		昼 休 み		計測・制御 (埼玉大学教育学部教授 山本利一) 2号館1階 214教室				
8月3日(金)				プログラムによるデータ解析 (千葉県立千葉高校教諭 大橋真也) 3号館2階 第9コンピュータ実習室		昼 休 み	振り返りと協議 (千葉商科大学教授 永井克昇) 2号館1階 214教室	閉 講 式 1号館1階 1101教室				

実施会場: 千葉商科大学

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（福祉H-1）「実践的介護の知識及び技能の向上を図るための講習（教員介護知識技能講習）」							
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 ・高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 							
開 催 期 日	平成30年8月20日（月）～平成30年8月22日（水）			3日間				
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	30	人	受講者数	26	人	参加率	86.7%
開 催 場 所	神奈川県立津久井高等学校（神奈川県相模原市）							

※ 全体受講定員 210 人、受講者数 215 人
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	24	2	0	0	0	0	26
割合 (%)	92.3	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
	26						100.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・知識、技術の習得、再確認はもちろんのこと、学校に戻って、生徒にいか還元できるかという点から考えると、指導法等を新たに教えていただいたり、ポイントを教えていただいたりしたため、今後活用していきたいと思った。 ・本研修は今後の教育活動にも活用できるような題材が多くあり、大変有意義なものになりました。普段では、なかなかお話しを伺うことのない方々の、実践例や事業内容は興味深いものが多く、今後自分が学び続ける上でも、参考になりました。 ・多様的で最新の福祉を学ぶ良い機会となっています。これまでの授業の振り返りと再確認、そして新たな気づきと課題を得ることができるので自己研鑽の為、できるだけ参加したいと思っています。今回もありがとうございました。 ・どのテーマも興味深く、自分が今、必要とするテーマであった。可能であれば次年度も受講したいという思いである。介護演習に関しては何度でも受講したい。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を原則とした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については引き続き全額派遣者負担を原則とする。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成 30 年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(福祉, H-1)

団体名 全国福祉高等学校長会

日 時		13:00	13:30	
8月20日 (月)			開講式	講義・演習①・② 生活支援技術（医療的ケア） 感染管理について
	9:30	12:30	13:30	16:30
8月21日 (火)	講義・演習③・④ 大学における 福祉教育法	昼休み	講義・演習⑤・⑥ 大学における 生活支援技術教育法	
	10:00	12:00	13:00	15:00 15:15
8月22日 (水)	講義・演習⑦・⑧ 認知症の理解	昼休み	高校福祉教育の現状と 今後の課題について	閉講式

実施会場： 神奈川県立津久井高等学校

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（技術・家庭（技術）I-1）「技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力の育成を目指した技術分野の指導」							
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 ・高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 							
開 催 期 日	平成30年7月23日（月）～平成30年7月27日（金）			5日間				
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	20	人	参加率	100.0%
開 催 場 所	宮城教育大学（仙台市青葉区）							

※ 全体受講定員 210 人、受講者数 215 人
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	18	2	0	0	0	0	20
割合 (%)	90.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の実施に向けての考え方や実際の授業の展開の仕方について考えることができ、どのような題材を使えばよいのかヒントを与えてもらった。今回の研修を活かして、日々の実践につなげていきたい。 ・5日間、技術分野の様々な単元について学ぶことができました。今年度から中学校へ異動となり、どのように授業を展開していけばよいか、どのような工夫があるかなど不安なことがたくさんありましたが、少し先が見えました。それと同時に色々な改善点や課題も見つかり、これから考えていかなければならないと感じています。 ・期待していた以上の学びがありました。様々な題材に対して生徒たちに、いかに課題意識を持たせ、その解決のために学びを活かし、最適化に向かわせる授業のヒントが多くありました。自教科の年間指導計画だけでなく各教科との横のつながりや、小学校との縦のつながりを見ながら、全て再考していきたいと思います。 ・技術分野の4つの内容をあつかった研修で大変勉強になり、題材計画や、年間指導計画等に反映させていきたい。また、研修が実習中心だったので、生徒の視点で考えたり、指導する時の手順などを確認出来たり、両面から考えることがよかった。さいたま市の技術担当者に情報を共有していきたい。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を原則とした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については引き続き全額派遣者負担を原則とする。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(技術・家庭(技術), I-1)

団体名 国立大学法人 宮城教育大学

日 時	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
7月23日 (月)	受付 9:00-	開講式 9:30-9:50	(講義) これからの技術教育 ー学習指導要領の改訂を踏まえてー 10:00-11:30	昼休み	(講義/実習) 材料加工技術の理解を深める 題材の検討(切削用具の 整備・木材小作品) 1 12:30-14:00	(講義/実習) 材料加工技術の理解を深める 題材の検討(切削用具の 整備・木材小作品) 2 14:10-16:10	(講義/実習) 材料と加工の技術 の原理・法則(加工 技術の活用に関 する発想) 1 16:20-17:20		
7月24日 (火)	(講義/実習) 材料と加工の技術の原理 ・法則(加工技術の活用 に関する発想) 2 9:00-11:00		(講義/実習) 生活や社会を支える情 報技術(情報モラル・サ イバーセキュリティ) 11:10-12:40	昼休み	(講義/実習) 材料加工技術の理解を深める題 材の検討(切削用具の整備・ 木材小作品) 3 13:30-15:30	(講義/実習) 3Dプリンタの教育利用に 関する取り組み 15:40-17:10			
7月25日 (水)	(講義/実習) 電気エネルギー活用の ための原理と法則 9:00-10:30		(講義/実習) 情報の技術の授業設計 10:40-12:10	昼休み	(講義/実習) 計測・制御のプログラミング 13:00-15:00	(講義/実習) 双方向性のあるコンテンツの プログラミング 15:10-17:10			
7月26日 (木)	(講義) 生物育成分野の目的・作物栽 培技術の基礎 9:00-10:30		(講義/実習) 作物管理実習を通した 作物成長の原理・法則 の理解 10:40-12:10	昼休み	(講義/実習) 生活を支える省エネルギー技 術 1 13:00-15:00	(講義/実習) 生活を支える省エネルギー技 術 2 15:10~17:10			
7月27日 (金)	(講義/実習) エネルギー変換におけ る力学的な機構に関す る問題解決の工夫 9:00-10:30		(講義/実習) エネルギー変換におけ る水圧駆動機構に関す る問題解決の工夫 10:40-12:10	昼休み	(講義/実習) 課題解決型の制御学習 1 13:00-14:30	(講義/実習) 課題解決型の制 御学習 2 14:40-15:40	閉講式 15:50- 16:20		

実施会場：宮城教育大学（宮城県仙台市）

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（技術・家庭（家庭）J-1）「技術・家庭科における新学習指導要領に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 ・高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 							
開 催 期 日	平成30年7月30日（月）～平成30年8月2日（木）					4日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	21	人	参加率	105.0%
開 催 場 所	横浜国立大学(神奈川県横浜市)							

※ 全体受講定員 210 人、受講者数 215 人、
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	16	3	0	0	2	0	21
割合 (%)	76.2	14.3	0.0	0.0	9.5	0.0	
	19						
	90.5						

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・4日間の研修で、新しい指導要領解説において何が大切なのか、またそれをどのように指導していけばよいのか、具体的に学ぶことができた。多くの実習があったが、それら一つ一つから、実際に指導に活かすためのノウハウを学ぶことができた。2学期からの授業で活かしていきたい。</p> <p>・家庭科の学習で求められていること、新設された内容の具体的な指導法、小中高の系統性等、それぞれの講師の先生方の貴重なお話を聞くことができた。実際に自分が演習等を行うことでより多くのことを感じることができた。研究熱心な先生方と共に学ぶことができたこと、つながりができたことも大きな収穫です。</p> <p>・各領域の指導の仕方やコツ、考え方、視点など様々なことが学べました。また、体験や実習の中で生徒の気持ちを理解したり、効果的な指導の工夫についても発見したり、授業でこうしてみよう、と思えたりしました。有意義な4日間でした。</p> <p>・どんな資質を身につけたらよいのかが明確になった。指導要領に書かれている本来の意味（そのウラまで）細かに教えていただいた。教え込みから教師のしかけによって生徒が気づき、いろいろな見方ができ、いろいろ考えて対話したり比較したりして自分の考えたことを表現したりして学びにつなげることが理解できた。</p>

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を原則とした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については引き続き全額派遣者負担を原則とする。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(技術・家庭 : J-1)

団体名 : 横浜国立大学

日時	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
7月30日 (月)		受付 開講式 10:00 開会 10:02 挨拶 10:12 開会 オリエンテーション 10:15-10:25	(講義)「新学習指導要領における家庭分野の指導」(内容「A 家族・家庭生活」「B衣食住の生活」) (担当)筒井恭子(文部科学省初等中等教育局教科調査官) 教育文化ホール 中集会室 10:35-12:00	昼食	(講義)「新学習指導要領における家庭分野の指導」(内容「C消費生活・環境」) (担当)筒井恭子(文部科学省初等中等教育局教科調査官) 教育文化ホール	休憩十分	(講義・演習)「消費生活・環境」における指導の工夫 (担当)鈴木真由子(大阪教育大学教授) 教育文化ホール 中集会室 14:10-17:10		
7月31日 (火)		(講義・実習)「幼児理解と幼児との触れ合い活動」 (担当)園田菜摘(横浜国立大学教授) 教育文化ホール 中集会室 森のルーナ保育園 9:00-12:00		昼食	(演習)「幼児の観察・触れ合い活動のまとめと発表」 (担当)園田菜摘(横浜国立大学教授) 教育文化ホール 中集会室 13:00-14:50	休憩十分	(講義)「幼児理解につながる触れ合い活動とは」 (担当)園田菜摘(横浜国立大学教授) 教育文化ホール 中集会室 15:00-16:00	休憩十分	(演習)「生活の課題と実践における指導の工夫」 グループ討議 教育文化ホール 中集会室 16:10-17:10
8月1日 (水)		(講義・実習)「高齢者の身体の特徴と介護の基礎」 (担当)工藤由貴子(日本女子大学大学院客員教授) 筒井恭子(文部科学省初等中等教育局教科調査官) 教育文化ホール 中集会室 介護老人福祉施設 スカイ 9:00-12:00		昼食	(講義・演習)「栄養を考えた献立作成の指導」 (担当)三戸夏子(横浜国立大学准教授) 教育文化ホール 中集会室 13:00-16:00			休憩十分	(講義)「新学習指導要領における栄養・調理の指導の系統性」 (担当)杉山久仁子(横浜国立大学教授) 教育文化ホール 中集会室 16:10-17:10
8月2日 (木)		(実習)「調理科学の視点を重視した実習指導」調理実習 (担当)杉山久仁子(横浜国立大学教授) 教育学部第1研究棟312室 調理学実験実習室 9:00-12:00		昼食	(講義)「食育における食品安全性」 (担当)山本和貴(農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所 食品高圧技術ユニット長) 教育文化ホール 中集会室 13:00-14:25	休憩十分	(ディスカッション)「技術・家庭科(家庭分野)における指導の充実」 (担当)杉山久仁子(横浜国立大学教授)、園田菜摘(横浜国立大学教授)、三戸夏子(横浜国立大学准教授) 教育文化ホール 中集会室 14:35-16:00	休憩十分	閉講式 16:10 開会 16:12 挨拶 16:20 修了証授与 16:30 閉会 アンケート回収 諸連絡

実施会場：横浜国立大学教育文化ホール、教育学部第一研究棟他

I 研修概要

研 修 名	産業教育実習助手研修（農業）「教科『農業』における教科指導法及び職業指導等に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室							
研 修 目 的	本研修は、高等学校の産業教育に関する教科・科目を担当する実習助手に対して、職務に必要な最新の知識・技術を習得させ、資質の向上を図ることを目的としている。							
受 講 対 象	高等学校等（特別支援学校の高等部を含む）の当該教科・科目を担当する実習助手で、実習助手として3年以上勤務し、勤務成績の良好な者							
開 催 期 日	平成30年7月30日（月）～平成30年8月3日（金）				5日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	23	人	参加率	115.0%
開 催 場 所	南九州大学都城キャンパス（宮崎県都城市）							

※ 全体受講定員 60 人、 受講者数 65 人
（全体計画人

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	21	1	0	0	1	0	23
割合 (%)	91.3	4.3	0.0	0.0	4.3	0.0	
	22	95.7					

2. 研修内容に関する主な意見

・グループワークや演習、実験、見学など、講義以外にも、たくさんのプログラムが組まれていて、とても有り難かったし、勉強になった。受講者のことを考えて組んでくださっている内容だと感じた。また、現在だけでなく未来のこと、日本だけでなく世界のことなど、知識や視野、考え方を広げてもらえる内容であった。他業種の先生のお話も聞くことができ、大変勉強になった。

・講習内容も多岐にわたり、教育全般に関することを学べた。また、他県とのワークショップが有意義な時間となり、情報交換もできた。想像以上の成果を確信した。

・全国から教員が集まりグループワークが出来、大変有意義でした。他の高校でも実習教師高校を取り巻く多くの共通問題がある事も知りました。

・グループでの話し合いの時間がたりなかった。各県での情報の共有には、やはり時間が必要と思われる。各学校の問題点を確認する時間がたりなかった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を原則とした。

次年度に向けて

・実施経費については引き続き全額派遣者負担を原則とする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度産業教育実習助手(農業)講習会時間割

(農業)

団体名：南九州大学

時間 月・日 (曜日)	9:00 ～ 9:10	9:10 ～ 10:40	10:50 ～ 12:20	12:20 ～ 13:10	13:10 ～ 14:40	14:50 ～ 16:20	16:30 ～ 18:30
7月30日 (月曜日)	開会式	農業教科教育法①② 担当：岩田賢士 「農業教科教育法と 教育法規」	農業教科教育法③④ 担当：田畑淳一 「次期学習指導要領 と農業教育」	昼食	農業教科教育法⑤⑥ 担当：上池恭廣 「宮崎県における農 業教育～デュアルシ ステムの実践～」	農業教科教育法⑦⑧ 担当：山口健一 「環境と農業」	
7月31日 (火曜日)		農業教科教育法⑨⑩ 担当：陳内秀樹 「学校現場における 知的財産権の取得」	農業教科教育法⑪⑫ 担当：陳内秀樹 「プロジェクト学習 法と評価」	昼食	職業指導：講義①② 担当：植村秀人 「職業指導の課題」	職業指導③ 演習〈1〉 担当：陳内秀樹 「GAP学習の進め方 」	
8月1日 (水曜日)		農業教科教育法⑬⑭ 担当：岩田賢士 「教育課題と教育課 程」	職業指導：講義④⑤ 担当：上池恭廣 「職業選択と体験学 習」	昼食	農業教科教育法⑮ 実験〈1〉 担当：杉田亘 「DNA抽出とPCR（ 増幅）」 演習〈2〉 担当：牧田直子 「造園学の歴史と現 状（演習）」	農業教科教育法⑯ 実験〈2〉 担当：杉田亘 「DNA抽出とPCR（ 増幅）」 演習〈3〉 担当：牧田直子 「造園学の歴史と現 状（演習）」	テスト（農 業教科教育 法）
8月2日 (木曜日)	出発 (8:30に出 発する)	職業指導⑥ 視察〈1〉 担当：岩田賢士 「九州沖縄農業研究 センター視察研修」	職業指導⑦ 視察〈2〉 担当：植村秀人 「霧島酒造視察研修 」	昼食 移動	職業指導：講義⑧⑨ 担当：水永正憲 「激変する時代にこ れから求められる人 材Ⅰ」	職業指導：講義⑩⑪ 担当：水永正憲 「激変する時代にこ れから求められる人 材Ⅱ」	
8月3日 (金曜日)		職業指導：講義⑫⑬ 担当：加藤修一郎 「農業の現状と課題 」	職業指導：講義⑭⑮ 担当：植村秀人 「職業指導の将来を 考える」	昼食	テスト（職業指導） 閉会式		

I 研修概要

研 修 名	産業教育実習助手研修（工業）「教科『工業』及び工業科教育法に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室							
研 修 目 的	本研修は、高等学校の産業教育に関する教科・科目を担当する実習助手に対して、職務に必要な最新の知識・技術を習得させ、資質の向上を図ることを目的としている。							
受 講 対 象	高等学校等（特別支援学校の高等部を含む）の当該教科・科目を担当する実習助手で、実習助手として3年以上勤務し、勤務成績の良好な者							
開 催 期 日	平成30年8月20日（月）～平成30年8月24日（金）			5日間				
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	29	人	参加率	145.0%
開 催 場 所	足利大学(栃木県足利市)							

※ 全体受講定員 60 人、 受講者数 65 人
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	24	5	0	0	0	0	29
割合 (%)	82.8	17.2	0.0	0.0	0.0	0.0	
	29						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・講義の他に演習や実験を通じて工業の知識を広げることができた。全国の実習助手の先生方との交流ができて良かった。学校の実習で利用できるものも沢山あり、活用したい。文化祭等で、小学生にも再生可能エネルギーについて学んだ事を広めたい。 ・工業科教育法では、工業教育の現状や先進的な取組み、次期学習指導要領など学ぶことができ、戻ってから工業教育に反映していきたい。工業科概論や工業科実践では、自分の専門外ばかりの講義でしたが、普段、学べないことが学べてとても良い経験ができた。 ・他で行われている研修よりも、はるかに、内容が充実している。参加できて感謝しています。実習助手の学びの場について、考えて下さっている姿勢が感じられて、大変嬉しく、今後も頑張ろうという気持ちになれたことが良かった。忙しいだけでなく、目の前の事に向きあうしかなくなる日々が多い中で、将来的に、教育の現場でどう生きていくか、考えることのできた一週間になりました。 ・色々な分野で講習を受けることができて良かった。もっと演習や実習を増やしてもらえると実際の授業に活かしやすいと思った。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を原則とした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については引き続き全額派遣者負担を原則とする。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度 産業教育実習助手研修日程

(工業)

団体名 : 足利大学

日時	8:30	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	17:50
8月20日 (月)	8:30 開講式	9:00～10:30 (講義) 工業科教育法① 次期学習指導要領改訂の趣旨 持田 雄一	10:40～12:10 (講義) 工業科概論① IoTを支えるセンサ技術 荘司 和男	昼休み		13:00～14:30 (講義) 工業科概論② 技術者倫理 築瀬 範彦	14:40～16:10 (講義) 工業科概論③ 世界の再生可能エネルギー利用 根本 泰行	16:20～17:50 (演習) 工業科実践① 再生可能エネルギーの活用 野田 佳雅			
8月21日 (火)		9:00～10:30 (講義) 工業科教育法② 次期高等学校学習指導要領の教科「工業」の各科目 池守 滋	10:40～12:10 (講義+演習) 工業科実践② ラズパイカメラによる映像取得と画像処理(1) 荒井 武彦	昼休み		13:00～14:30 (講義+演習) 工業科実践③ ラズパイカメラによる映像取得と画像処理(2) 荒井 武彦	14:40～16:10 (講義) 工業科教育法③ 工業教育の現状 池守 滋	16:20～17:50 (講義) 工業科教育法④ 学習と評価 池守 滋			
8月22日 (水)		9:00～10:30 (講義) 工業科実践④ 太陽熱利用技術 中條 祐一	10:40～12:10 (演習) 工業科実践⑤ ソーラークッカーの製作と性能評価(1) 中條 祐一	昼休み		13:00～14:30 (演習) 工業科実践⑥ ソーラークッカーの製作と性能評価(2) 中條 祐一	14:40～16:10 (講義) 工業科概論④ 伝統技法の活用 久芳 頼正	16:20～17:50 (講義+演習) 工業科教育法⑤ 実習の授業デザイン(1) 池守 滋			
8月23日 (木)		9:00～10:30 (講義) 工業科概論⑤ 鉄の橋(橋梁に関する概論) 末武 義崇	10:40～12:10 (講義+演習) 工業科教育法⑥ 実習の授業デザイン(2) 池守 滋	昼休み		13:00～14:30 (講義+演習) 工業科実践⑦ ゲームプログラミング(1) 星野 直人	14:40～16:10 (講義+演習) 工業科実践⑧ ゲームプログラミング(2) 星野 直人	16:20～17:50 (講義+演習) 工業科教育法⑦ 実習の授業デザイン(3) 池守 滋			
8月24日 (金)		9:00～10:30 (講義) 工業科教育法⑧ 工業に関する先進的な取組 池守 滋	10:40～12:10 (講義) 工業科概論⑥ 自然の中の”電気”を見る 山下 幸三	昼休み		13:00～14:30 (講義) 工業科概論⑦ 技術史 前川 泰久	14:40～16:10 (講義) 工業科概論⑧ 環境問題と自然エネルギー 牛山 泉	16:20～16:50 閉講式			

実施会場 : 足利大学 大前キャンパス(栃木県足利市)

I 研修概要

研 修 名	産業教育実習助手研修（水産）「教科『水産』及び水産科教育法に関する講義等」							
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室							
研 修 目 的	本研修は、高等学校の産業教育に関する教科・科目を担当する実習助手に対して、職務に必要な最新の知識・技術を習得させ、資質の向上を図ることを目的としている。							
受 講 対 象	高等学校等（特別支援学校の高等部を含む）の当該教科・科目を担当する実習助手で、実習助手として3年以上勤務し、勤務成績の良好な者							
開 催 期 日	平成30年8月6日（月）～平成30年8月10日（金）			5日間				
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	13	人	参加率	65.0%
開 催 場 所	東京海洋大学品川キャンパス（東京都港区）							

※ 全体受講定員 60 人、 受講者数 65 人
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合 計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	7	6	0	0	0	0	13
割合 (%)	53.8	46.2	0.0	0.0	0.0	0.0	
	13						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・食品衛生や製造について学ぶ研修に参加することが多く、海洋に関することを学ぶ機会が少なかったため、様々な知識を得ることができて充実した5日間であった。 ・短い時間の中、わかりやすく丁寧に講義をしてくださりありがとうございました。今回、学んだことを少しでも活かすことができるよう、指導していきたいと思えます。 ・台風の影響で受けられなかった講義、また時間が足らずに、かけ足で進んだ講義は若干、残念ではあったものの非常に有意義な勉強をさせていただきました。ありがとうございました。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を原則とした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については引き続き全額派遣者負担を原則とする。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成 30 年度産業教育実習助手研修日程

(水産)

団体名：東京海洋大学

日 時	8:50	10:20	10:30	12:00	13:00	14:20	14:30	16:10	16:20	17:50
8月6日 (月)		9:45～ 受付・ 開講式	(講義) 海洋科学 入門Ⅱ1	昼休み	(講義) 海洋科学 入門Ⅱ2		(講義) 職業指導1		(講義) 職業指導2	
8月7日 (火)	(講義) 職業指導3		(講義) 職業指導4	昼休み	(講義) 海洋科学 入門Ⅱ3		(講義) 海洋科学 入門Ⅱ4		(講義) 海洋科学 入門Ⅱ5	
8月8日 (水)	(講義) 海洋科学 入門Ⅱ6		(講義) 海洋科学 入門Ⅱ7	昼休み	(講義) 職業指導5		(講義) 職業指導6		(講義) 海洋科学 入門Ⅱ8	
8月9日 (木)	(講義) 海洋科学 入門Ⅱ9		(講義) 海洋科学 入門Ⅱ10	昼休み	(講義) 職業指導7		(講義) 職業指導8		(講義) 海洋科学 入門Ⅱ11	
8月10日 (金)	(講義) 海洋科学 入門Ⅱ12		(講義) 海洋科学 入門Ⅱ13	昼休み	(講義) 海洋科学 入門Ⅱ14		(講義) 海洋科学 入門Ⅱ15		閉講式/証書 授与	

実施会場：東京海洋大学品川キャンパス（東京都港区）

I 研修概要

研 修 名	産業・理科教育教員派遣研修							
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室							
研 修 目 的	産業教育・理科教育に関して優れた調査研究課題を有する者について、産業教育・理科教育に関する研修を行うにふさわしい大学又は施設に派遣し、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術等を修得させ、もって産業教育・理科教育担当教員の資質を向上し、その指導力の強化を図ることを目的とする。							
受 講 対 象	小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の産業教育又は理科教育を担当している教職員並びに教育行政機関において産業教育又は理科教育を担当している職員							
開 催 期 日	年間を通して（3ヶ月、6ヶ月、12ヶ月）				日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	100	人	受講者数	29	人	参加率	29.0%
開 催 場 所	国立大学法人宇都宮大学、アイシン精機株式会社ほか							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	25	2	1	0	0	1	29
割合 (%)	86.2	6.9	3.4	0.0	0.0	3.4	
	27						
	93.1						

2. 研修内容に関する主な意見

・研修を通して、先行研究からいろいろと知識を得ることができた。また、異校種の授業参観がたくさんできた。これらは日々の授業にいかせていけると思う。また、大学の先生とのつながりができたことも大きい。
 ・次年度新設される学科での指導に必要な知識・技術について、専門的に学ぶことができた。
 ・教員として、常に課題意識を自覚し、主体的に授業改善に取り組んでいく必要があると感じました。今回の研修で作成した教材等を可能な限り生徒に還元していきたいです。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を原則とした。

次年度に向けて

・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を原則とする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成30年度 産業・理科教育教員派遣研修 受講者一覧

No	都道府県等	派遣人数	派遣元	派遣先		
			所属	機関名	派遣時期	期間
1	山形県	1	山形県立天童高等学校	社会福祉法人 つるかめ	H30.10.1 ~ H31.3.31	6 ヶ月
2	栃木県	9	鹿沼市立南押原中学校	宇都宮大学	H30.10.1 ~ H31.3.31	6 ヶ月
3			栃木市立都賀中学校	宇都宮大学	H30.4.1 ~ H30.9.30	6 ヶ月
4			那須烏山市立烏山中学校	宇都宮大学	H30.10.1 ~ H31.3.31	6 ヶ月
5			宇都宮市立横川東小学校	宇都宮大学	H30.4.1 ~ H30.9.30	6 ヶ月
6			真岡市立中村中学校	宇都宮大学	H30.10.1 ~ H31.3.31	6 ヶ月
7			那須塩原市立西那須野中学校	宇都宮大学	H30.10.1 ~ H31.3.31	6 ヶ月
8			栃木県立栃木農業高等学校	東京農業大学	H30.4.1 ~ H30.9.30	6 ヶ月
9			栃木県立鹿沼商工高等学校	宇都宮大学	H30.10.1 ~ H31.3.31	6 ヶ月
10			栃木県立宇都宮商業高等学校	大原簿記情報ビジネス医療福祉専門学校宇都宮校	H30.10.1 ~ H31.3.31	6 ヶ月
11	群馬県	1	群馬県立松井田高等学校	共愛学園前橋国際大学	H30.4.1 ~ H31.3.31	12 ヶ月
12	長野県	1	長野県千曲市立屋代中学校	信州大学	H30.5.1 ~ H30.8.31	4 ヶ月
13	愛知県	5	愛知県立旭丘高等学校	愛知教育大学	H30.8.31 ~ H31.2.28	7 ヶ月
14			愛知県立小牧工業高等学校	学校法人 神野学園 中日本航空専門学校	H30.5.1 ~ H30.10.31	6 ヶ月
15			愛知県立豊橋工業高等学校	アイシン精機株式会社 人事部 アイシン高等学園	H30.11.1 ~ H31.1.31	3 ヶ月
16			愛知県立愛知商業高等学校	名古屋商科大学院ビジネススクール、名古屋商科大学経営学部都心型コース	H30.5.1 ~ H30.7.31	3 ヶ月
17			愛知県立緑丘高等学校	名古屋情報メディア専門学校	H30.6.29 ~ H30.9.28	4 ヶ月
18	京都府	2	福知山市立昭和小学校	大阪大学大学院	H30.4.1 ~ H31.3.31	12 ヶ月
19			宇治市立広野中学校	大阪大学大学院	H30.4.1 ~ H31.3.31	12 ヶ月
20	大阪府	1	大阪府立藤井寺工科高等学校	大阪工業大学知的財産専門職大学院	H30.4.1 ~ H31.3.31	12 ヶ月
21	和歌山県	1	和歌山県立和歌山工業高等学校	国立大学法人和歌山大学	H30.4.1 ~ H31.3.31	12 ヶ月
22	岡山県	1	岡山県立興陽高等学校	岡山大学	H30.4.1 ~ H31.3.31	12 ヶ月
23	山口県	1	山口県立防府高等学校	山口大学	H30.10.1 ~ H30.12.31	3 ヶ月
24	高知県	1	高知県立伊野商業高等学校	高知工科大学	H30.4.1 ~ H31.3.31	12 ヶ月
25	福岡県	1	福岡県立博多青松高等学校	福岡大学	H30.4.1 ~ H31.3.31	12 ヶ月
26	佐賀県	2	佐賀県立唐津南高等学校	学校法人永原学園 西九州大学佐賀調理製菓専門学校	H30.4.1 ~ H31.3.31	12 ヶ月
27			唐津市立第一中学校	国立大学法人佐賀大学	H30.4.1 ~ H31.3.31	12 ヶ月
28	熊本県	2	益城町立木山中学校	熊本大学	H30.4.1 ~ H31.3.31	12 ヶ月
29			熊本県立熊本工業高等学校	株式会社 三津野建設	H30.4.1 ~ H31.3.31	12 ヶ月